

(19) 鹿児島県 調査年：1998年

● 県下の海岸状況

海岸延長距離	2717.03km	うち島嶼域	1920.33km
自然海岸砂浜	283.51km	うち島嶼域	201.50km
半自然海岸砂浜	130.34km	うち島嶼域	69.37km
産卵海岸の合計	413.85km	うち島嶼域	270.87km

● 上陸・産卵砂浜実績調査

対象地区数	9区	対象海岸数	73	対象海岸距離	265.60km
産卵地区数	9区	産卵海岸数	73	産卵海岸距離	265.60km

● 上陸確認現地調査

調査地区数	3区	調査海岸数	24	調査海岸距離	12.28km
産卵地区数	3区	産卵海岸数	16	産卵海岸距離	7.13km

1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

鹿児島県においてはほぼ全域にわたり、1987年もしくは1988年以降、ウミガメ類の上陸及び産卵が記録されている。上陸の情報が全く得られていない地域は、トカラ列島、宇治群島、草垣群島などの小さい離島である。県内の情報の得られている地域を便宜的に、大隅半島東、鹿児島湾(錦江湾)、薩摩半島南、吹上浜、薩摩半島北、甌島列島、種子島、屋久島、奄美諸島の9地区に区分し、地区ごとの上陸及び産卵状況を記載する。この区分は、鹿児島県が報告している区分と若干異なる。なお、種不明の記録については全てアカウミガメとして取り扱っているため、特に屋久島及び種子島以南の記録にはアオウミガメが混同されている可能性がある。

各海岸における記録の出典は、断りがない限り鹿児島県環境保護課が発行している年度報告書「ウミガメ実態調査報告書」である。これ以外の出典についてはその都度記載する。

① 調査地区 1/大隅半島東地区

志布志湾の沿岸、安楽川と肝属側に挟まれた約13kmの範囲は大規模な砂浜と大隅半島の東側に位置する海岸は、アカウミガメの産卵地となっている。海岸は打出ヶ浜(志布志町)、通山・押切海岸(有明町)、大崎町海岸(大崎町)、柏原海岸(東串良町)、波見海岸(高山町)、辺塚海岸(内浦町)、佐多町海岸(佐多町)の計8海岸で海岸距離は17.1kmである。大崎町海岸の記録の出典は、大崎町が発行している年度報告書「ウミガメ保護監視員設置費補助金実績報告書」である。大隅半島東地区のアカウミガメの上陸及び産卵状況を表131に示す。

表 131. 大隅半島東地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況
 上段(1行)は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
打出ヶ浜	0	5	0	14	13	20	7	8	11	1	3	3 3
通山・押切海岸	30	7			0	8	7	6	1	14	8	3 2
大崎町海岸		37 32	45 35	87 70	106 有	38 29	104 有	55 有	81 53	36 33	46 有	18 16
柏原海岸						13	44	8	14	5	4	7 5
波見海岸	0	0	0	0	0	0	0		0	1	0	0
辺塚海岸	10	18	18	17	18	19	20	22	25	24	23	22
佐多町海岸	0	1		35	10	15	35	110	9	10	16	
合 計	40	68 32	63 35	153 70	147	113 29	217	209	141	91 33	100	53 26

表 1 によると、大崎町海岸が定期的にまとまった上陸及び産卵がみられているが、1991年と1993年をピークに減少傾向が見て取れる。この海岸の上陸数及び産卵数が判明しているものだけを取り出すと、7年間分で342上陸268産卵となり、産卵成功率は78.4%となる。産卵成功率の最大は、1996年の91.7%で、最小は1995年の65.4%である。他の海岸の産卵成功率は産卵数が不明であるため、算出できない。

大隅半島東側地区の上陸状況の年変化を図33に示す。この図は、記録が得られているものだけの合計値を使用しているため、おおよその傾向しか判明できないが、1990年代半ばをピークに前半は徐々に上陸数が増加し、ピークの後半は急激な減少をみせている。

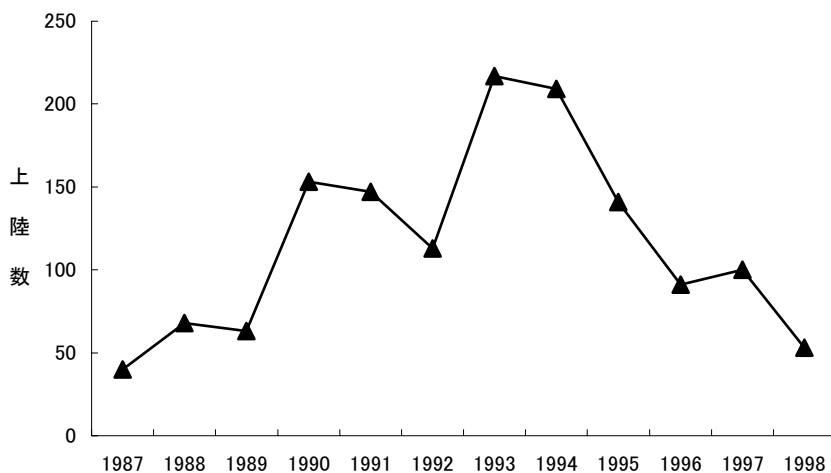


図33. 大隅半島東地区におけるアカウミガメの上陸状況の年変化

②調査地区 2/鹿児島湾(錦江湾)

この地区には大浜海岸(根占町)、大根占町海岸(大根占町)、高須海岸(鹿屋市)、新城海岸(垂水市)、磯海水浴場(鹿児島市)、喜入町海岸(喜入町)、田良海岸(指宿市)の7海岸で構成され、海岸長は24.8kmである。鹿児島湾地区は他の地域に比較し、上陸数が少ない。

表 132. 鹿児島湾地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況

上段(1行)は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
大浜海岸	0	10	2	5	2	2	17	4	5	4		2 2
大根占町海岸	0	1	2	2			2		0	0	0	0
高須海岸	4		0	0	0	1	2	2	0	0	0	
新城海岸	0	5	21	3	5	2	3	1	2	0	1	
磯海水浴場	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
喜入町海岸	0	1	0	0	2	2	0	1	2	0	0	0
田良海岸	0	6	0	0	0	3	1	4	0	1	0	0
合 計	5	24	25	10	9	10	25	12	9	5	1	2 2

大隅半島及び薩摩半島ともに桜島より北の湾奥部では上陸の記録はない。湾内で最も北の上陸記録地点は鹿児島市の磯海水浴場である。鹿児島湾地区の上陸及び産卵状況を表 132 に示す。上陸数が少ないため、来遊数の増減の判断はできないので、グラフの作成は行わない。また、産卵数が不明なため、産卵成功率の算出はできない。

③調査地区 3/薩摩半島南

薩摩半島南側は規模の小さい砂浜が多数散在し、ウミガメ類が比較的多く上陸する地域である。この地区は、長崎鼻海岸(山川町)、川尻海岸(開聞町)、入野・物袋海岸(開聞町)、顛娃町海岸(顛娃町)、松ヶ浦海岸(知覧町)、別府海岸(枕崎市)、丸木浜(坊津町)の 8 海岸で構成され、海岸長は 37.7km である。薩摩半島南地区では丸木海岸を除く海岸で、その数は多くはないが比較的安定した上陸及び産卵がみられている。薩摩半島南地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況を表 133 に示す。1988 年から 1998 年までの 11 年間で 3456 上陸と 744 産卵が確認されている。各海岸の産卵成功率を見てみると、

表 133. 薩摩半島南地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況

上段は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計
長崎鼻海岸	44 31	59 25	98 34	40 27	95 19	28 16	57 13	42 10	16 7	22 5	11 4	512 191
川尻海岸	55 33	26 13	62 34	57 38	63 33	51 23	59 23	30 15	26 16	15 7	20 14	464 249
入野・物袋海岸	33 有	4 3	27 11	34 有	30 10	29 18	28 15	16 5	25 9	11 5	14 7	251 83
顛娃町海岸	138 有	110 16	133 有	138 有	124 有	75 有	61 有	68 34	44 12	35 11	22 3	948 76
松ヶ浦海岸								33 有	52 有	22 7	34 10	141 17
別府海岸		27 有	101 有	181 有	190 有	196 有	220 有	81 48	53 30	28 17	56 33	1133 128
丸木浜	7					0	0	0				7
合 計	277 64	226 57	421 79	450 65	502 62	379 57	425 51	270 112	216 74	133 52	157 71	3456 744

長崎鼻海岸では 512 上陸 191 産卵で 37.3%、川尻海岸では 464 上陸 249 産卵で 53.7%、入野・物袋海岸では 251 上陸 83 産卵で 33.1%、穎娃町海岸では産卵数が不明な年を除いた 5 年間で 279 上陸 76 産卵となり 27.2%、松ヶ浦海岸では 2 年間で 56 上陸 17 産卵となり 30.4%、別府海岸では 4 年間で 218 上陸 128 産卵となり 58.7%と他の海岸と比較すると産卵成功率は低い。

図 34 に薩摩半島南地区における上陸数の年変化を示す。これによると 1992 年をピークに上陸数は落ち込んでいる。図 35 にこの地区で安定した産卵が観察されている長崎鼻海岸と川尻海岸の上陸数及び産卵数の年変化を示す。長崎鼻海岸では 1991 年をピークに産卵数は徐々に減少している。川尻海岸でも 1990 年をピークに同じような傾向で減少を示している。長崎鼻海岸の特徴はその年により、産卵成功率にほぼ 1 年おきに大きな変動があることが見て取れる。

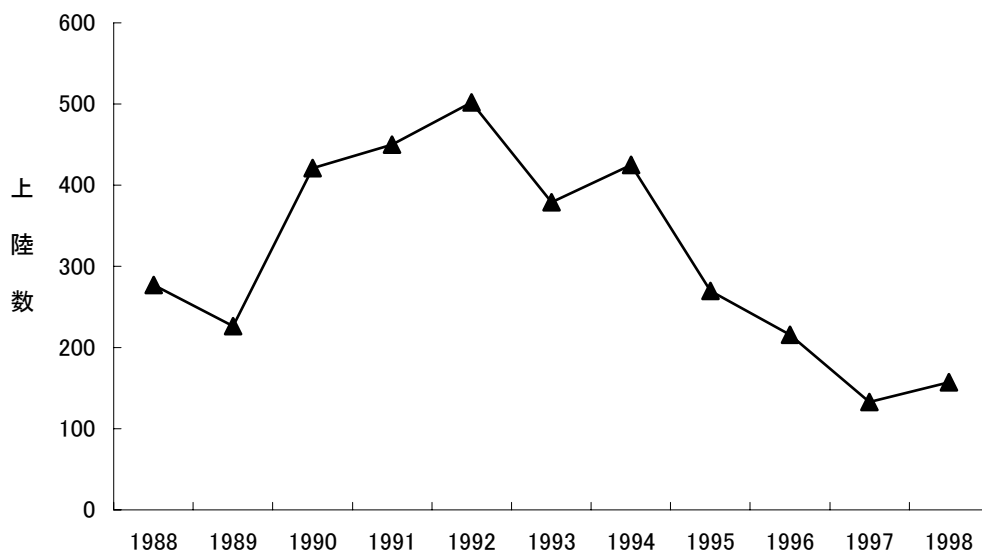


図34. 薩摩半島南地区における上陸数の年変化

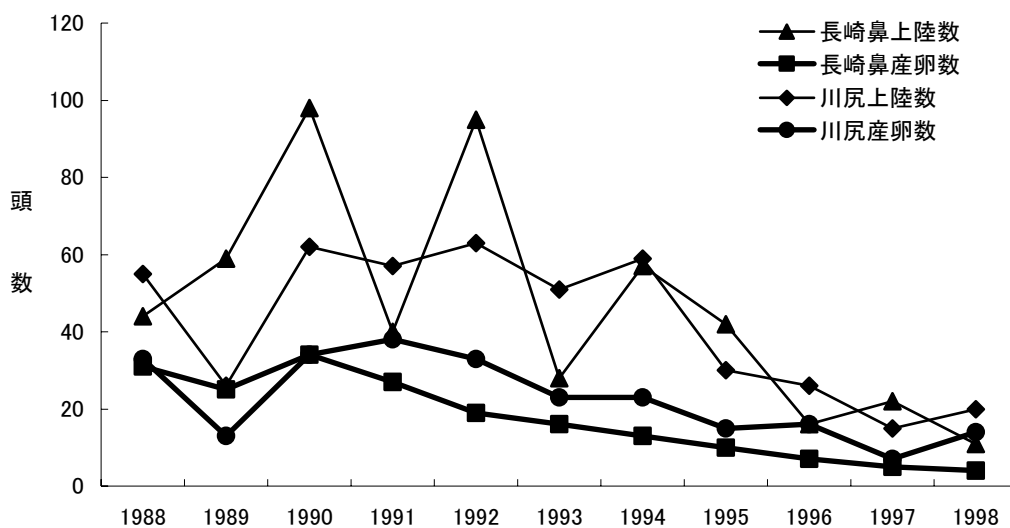


図35. 長崎鼻海岸と川尻海岸における上陸数及び産卵数の年変化

④調査地区 4/吹上浜

薩摩半島西側には、加世田市から市来町にまで及ぶ広大な吹上浜があり、アカウミガメの一大産卵地となっている。この地区は、新川-相星-小港海岸(加世田市)、吹上浜(吹上町、金峰町)、吉利海岸-日置海岸(日吉町西海岸；日吉町)、江口海岸(赤崎-神之川；東市来町)、市来海岸(県立吹上浜自然公園；市来町)、照島海岸(串木野市)の9海岸で構成されており、海岸長は33.8kmである。県からの報告ではこの地区に照島海岸は薩摩半島北地区に含まれていたが、この報告では地形的にみて吹上浜地区に含めた。吹上浜地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況を表134に示す。吹上浜は1988年以降、上陸数及び産卵数が毎年調査されている。新川-相星-小港海岸の上陸数及び産卵数が判明している7年間の合計は282上陸74産卵となり、平均産卵成功率は26.2%である。吹上浜では、2287上陸1432産卵となり62.6%、最大は1992年の79.0%、最小は1995年の32.9%である。日吉西海岸では上陸数及び産卵数が判明している8年間この合計は588上陸416産卵となり平均産卵成功率は70.7%、最大は1991年の90.4%、最小は1997年の46.9%、照島海岸では1991年を除いた10年間で267上陸174産卵となり平均産卵成功率は65.1%、最大は1995年の78.8%、最小は1992年の43.5%である。江口海岸と市来海岸は産卵数のデータが少なく、産卵成功率は算出できない。

吹上浜地区における上陸数の年変化を図36に示す。これによると1991年のピークを境に徐々に上陸数が減少しているのが判る。しかし、産卵成功率が低い場合は、上陸数は来遊数を反映していないと考えられる。図37に吹上浜と日吉町西海岸の上陸数及び産卵数の年変化を示す。これによると、吹上浜は1992年に急激に増加し、その後落ち込み減少傾向にある。日吉町西海岸は、1991年頃まで僅かながらの増加傾向にあるが、その後徐々に減少している。1998年の両海岸の産卵数は66産卵であり、産卵雌ガメの来遊数を推定すると22頭から33頭の間と考えられる。

表134. 吹上浜地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況
上段は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計
新川-相星- 小湊海岸	43	30	38	47	60	38	61	67	35	22	17	458
	12	有	有	有	11	8	有	24	7	7	5	74
吹上浜	171	108	355	436	562	136	179	149	57	84	50	2287
	117	83	210	230	444	90	125	49	26	28	30	1432
日吉町西海岸	118	178	231	271	188	236	169	154	96	96	73	1810
	85	有	有	245	155	有	145	129	61	45	36	901
江口海岸	35	27	88	108	39	39	49	49	28	7	10	479
	19	有	有	有	有	有	有	有	有	有	6	25
市来海岸	70	60	90	65	32	58	31	25	31	47	12	521
	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	1	1
照島海岸	17	21	34	44	23	34	28	33	26	28	23	311
	10	12	19	有	10	26	20	26	18	15	18	174
合 計	454	424	836	971	904	541	517	477	273	284	185	5866
	243	93	229	475	620	124	290	228	112	95	96	2607

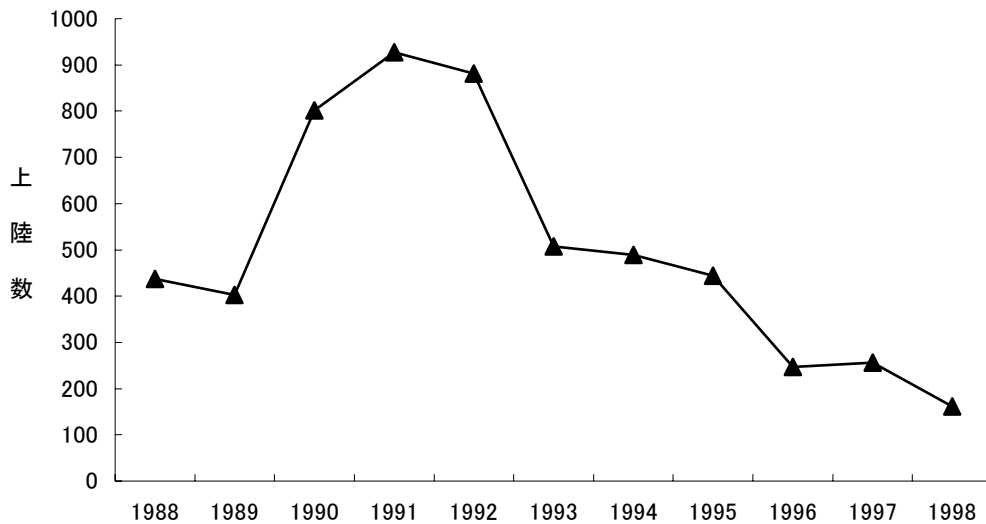


図36. 吹上浜地区における上陸数の年変化

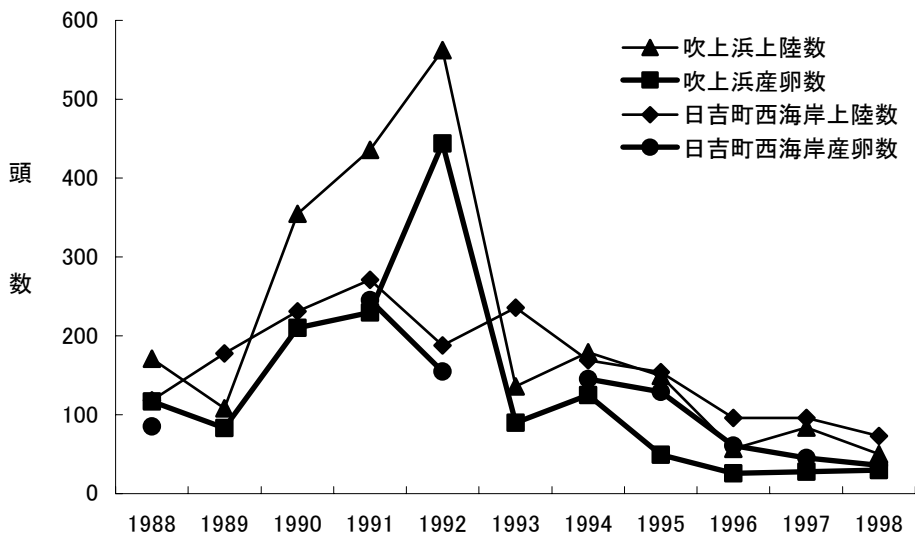


図37. 吹上浜及び日吉町西海岸の上陸数及び産卵数の年変化

⑤調査地区 5/薩摩半島北

吹上浜より北の川内市、阿久根市、長島町を含む地域である。この地区の最北端に位置する長島の西側、すなわち東シナ海に面した側では少数ながら上陸が記録されているが、八代海に面した側では上陸の記録はない。この地区には寄田・久見崎海岸と西方・湯田・唐浜海岸(川内市)、脇本海岸(阿久根市)、汐見海岸・小浜海岸(長島町)の8海岸から構成され、海岸長は11.0kmである。薩摩半島北地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況を表135に示す。脇本海岸を除き近年に至っては絶滅状態である。脇本海岸も今後さらに減少するものと思われる。

寄田・久見崎海岸では11年間に240上陸147産卵が観察され、平均産卵成功率は61.3%、最大は1991年の79.2%、最小は1998年の0%で、西方・湯田・唐浜海岸では上陸数及び

産卵数が確認されている7年間で99上陸82産卵となり82.8%、最大は1996年の100.0%、最小は1995年の50.0%、脇本海岸では1991年以降の8年間で214上陸166産卵となり77.6%、最大は1996年の94.1%、最小は1994年の11.1%である。

寄田・久見崎海岸、西方・湯田・唐浜海岸、脇本海岸の上陸数及び産卵数の年変化を図38に示す。これによると1991年をピークに減少傾向をみせ、産卵上陸がみられなくなっている。脇本海岸では1991年に17から25頭の産卵雌ガメが来遊していたと考えられるが、現在では4から6頭である。

表135. 薩摩半島北地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況
上段は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計
寄田・久見崎海岸	33	16	38	48	31	22	29	12	4	5	2	240
久見崎海岸	19	11	25	38	19	12	13	4	3	3	0	147
西方・湯田・唐浜海岸	35	14	32	65	有	17	14	6	1	8	0	192
	30	有	26	有	有	15	有	3	1	7	0	82
脇本海岸			51	55	25	34	27	37	17	4	15	265
				51	21	27	3	33	16	3	12	166
汐見海岸・小浜海岸*	1	0	5	1	2			0	2	1	3	15
											1	1

* 汐見海岸・小浜海岸の調査は1987年に開始されるが、上陸数は0である

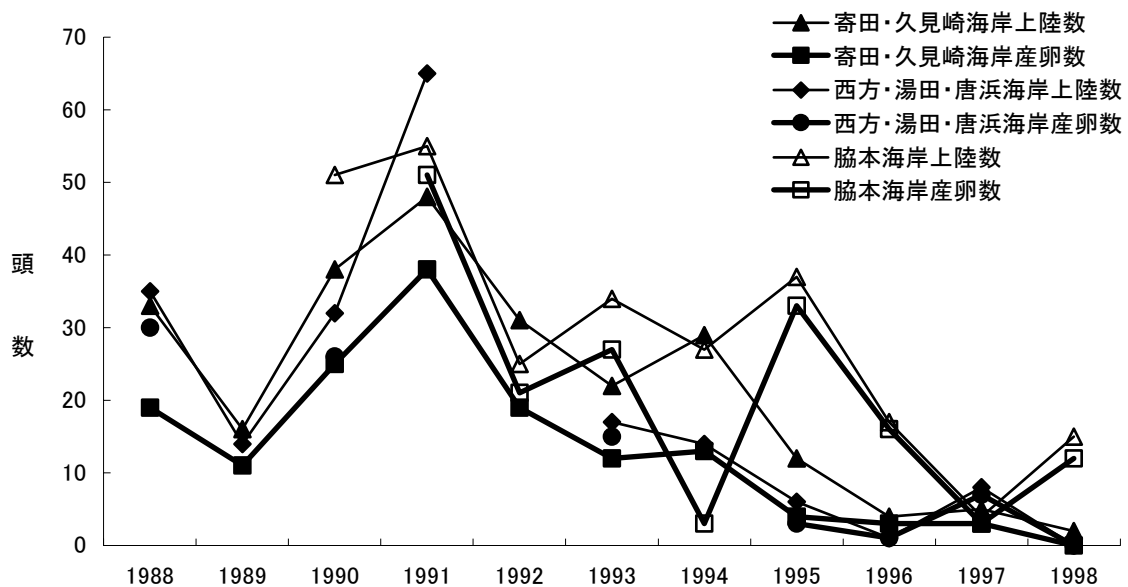


図38. 薩摩半島北地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況の年変化

<アオウミガメ>

寄田・久見崎海岸で、1988年にアオウミガメの3上陸3産卵が観察されている。アオウミガメの産卵記録としては日本最北端の記録となる。この年以降、調査はされているが確認されていない。

⑥調査地区 6/甌島列島

ウミガメ類が上陸する海岸はいくつかあるが、上陸が多く詳細な記録が得られているのは下甌島の青瀬海岸と手打海岸である。この地区は、里村海岸(里村)、上甌村海岸(上甌村)、青瀬海岸と手打海岸(下甌村)の4海岸から構成される。甌島列島地区の3村内で海岸が特定されているのは下甌村の青瀬海岸と手打海岸の2海岸のみである。産卵海岸とみられる自然海岸と半自然海岸は、里村海岸で0.91km、上甌村で8.62km、下甌村で5.84kmとなり、全長は15.37kmである。このうち青瀬海岸は0.9km、手打海岸は1.5kmである。

甌島列島地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況を表136に示す。1988年以降青瀬海岸と手打海岸では、継続的に調査されている。青瀬海岸では調査が行われた11年間で267上陸230産卵が記録されており、平均産卵成功率は86.1%、最大は1990年、1995年、1996年の100.0%、最小は1998年の58.3%である。手打海岸では1996年を除いた10年間で368上陸315産卵が記録されており、平均産卵成功率は85.6%、最大は1988年の91.7%、最小は1997年の75.0%である。

表136. 甌島列島地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況
上段(1行)は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計
里村海岸*	11	3	1	10		0			0			25
上甌村海岸			5	2	3				0			10
青瀬海岸	21	16	31	34	27	46	25	20	18	17	12	267
	16	13	31	28	21	40	23	20	18	13	7	230
手打海岸	24	35	100	75	34	38	23	24	有	8	7	368
	22	30	89	57	30	35	20	20	有	6	6	315
合計	56	54	137	121	64	84	48	44	18	25	19	670
	38	43	120	85	51	75	43	40	18	13	13	545

*里村海岸の調査は1987年に開始されているが、上陸数は0である

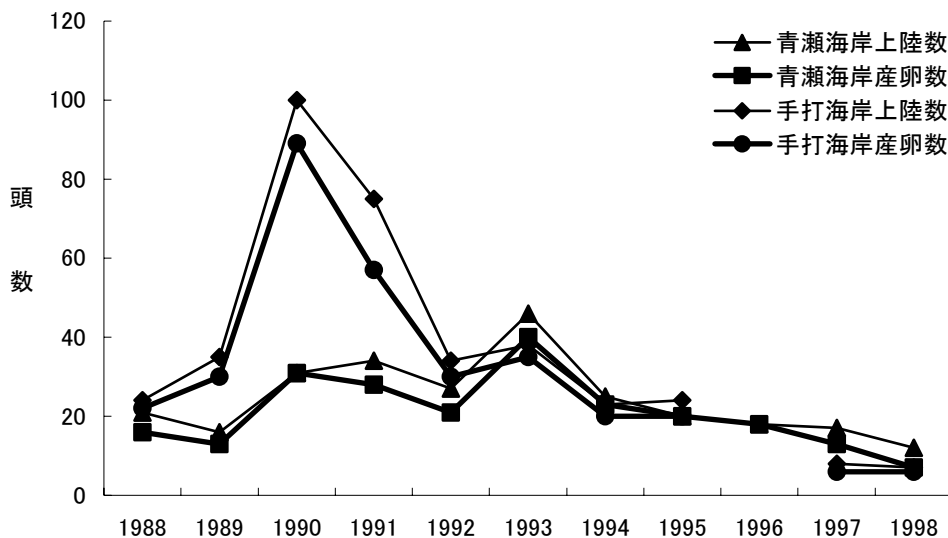


図39. 青瀬海岸と手打海岸におけるアカウミガメの上陸数及び産卵数の年変化

青瀬海岸と手打海岸におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況を図 39 に示す。青瀬海岸では穏やかなピークが 1993 年にみられるが、手打海岸では 1990 年と 1991 年に急激な増加があり、両海岸ともその後徐々に減少している。1998 年の雌ガメの来遊数を推定すると、両海岸合わせて 4 から 6 頭である。最も産卵が多くみられた 1990 年には両海岸で 40 から 60 頭の産卵雌ガメが来遊したと考えられるので、この 8 年間に来遊数は 10 分の 1 になっている。

⑦調査地区 7/種子島

種子島地区に鹿児島郡三島村の硫黄島も便宜上含める。この地区は硫黄島長浜浦(三島村)、西之表市海岸(西之表市)、長浜海岸(中種子町)、南種子町海岸(南種子町)から構成されるが、西之表市海岸と南種子町海岸は市又は町内の全ての海岸を対象としている。調査対象となっている海岸長は 36.8km である。

この地区における調査は断続的に行われており、上陸数のみの調査となっている。表 137 に種子島地区におけるアカウミガメの上陸状況を示す。なお、1998 年は産卵についても調査しており、全ての海岸で産卵は「有」となっている。この上陸数をみる限り一見上陸数が増えていると思えるが、過去の調査努力量が不明であるため比較は困難である。しかし、上陸数でみる限り、この地区が日本でも有数の産卵地であることが伺える。

調査が連続していないことと産卵成功率など不明なため、図の作成は行わない。今後の種子島におけるより詳細な調査が望まれる。

表 137. 種子島地区におけるアカウミガメの上陸状況
空欄は未調査

海岸名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
硫黄島長浜浦	30	19	11	24	21			6				有
西之表市海岸	38		88	105	54	46	15				95	103
長浜海岸			44	49	38	46	30	33			206	305
南種子町海岸							83				有	有

<アオウミガメ>

中種子町長浜において 1998 年にアオウミガメの上陸が 14 上陸観察されている。産卵は確認されているが、その数については不明である。

⑧調査地区 8/屋久島

屋久島地区におけるアカウミガメの繁殖規模は日本最大である。また、アオウミガメも毎年、上陸及び産卵が観察できる。この地区は前浜と田舎浜と一湊浜(上屋久町)、中間浜と栗生・サゴシ浜(屋久町)の 5 海岸で構成され、海岸長は 3.68km である。屋久島地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況を表 138 に示す。また、アオウミガメについても同様に表 139 に示す。前浜では上陸数及び産卵数が判明している 8 年間で 8142 上陸 3456 産卵となり、平均産卵成功率は 42.4%、最大は 1990 年の 62.0%、最小は 1996 年の 26.7%である。前浜は屋久島の中でも最も産卵成功率が低い。同様に田舎浜では 10

表 138. 屋久島地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況

上段は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計
前浜	678	879	1048	1108	1272	1052	1231	915	1093	848	683	10807
産卵成功率(%)			62.0		48.3	41.3	41.3	38.3	26.7	32.1	48.9	42.4
田舎浜	有 有	664 459	1131 835	1134 761	1063 726	959 572	862 550	739 466	797 519	535 363	579 367	8463 5618
産卵成功率(%)		69.1	73.8	67.1	68.3	59.6	63.8	63.1	65.1	67.9	63.4	66.4
一湊浜	47 33	19 4	14 5	68 35	34 24	130 80	111 63	57 28	41 20	62 32	31 16	614 340
産卵成功率(%)	70.2	21.1	35.7	51.5	70.6	61.5	56.8	49.1	48.8	51.6	51.6	55.4
中間浜	57 26	4 3	11 10	46 20	37 22	66 36	36 14	42 33	29 11	21 19	62 50	411 244
産卵成功率(%)	45.6	75.0	90.9	43.5	59.5	54.5	38.9	78.6	37.9	90.5	80.6	59.4
栗生・ サゴシ浜	239 121	有 有	459 238	635 439	452 316	447 320	260 165	164 111	253 150	289 162	269 174	3467 2196
産卵成功率(%)	50.6		51.9	69.1	69.9	71.6	63.5	67.7	59.3	56.1	64.7	63.3
合計	1021 180	1566 466	2663 1738	2991 1255	2858 1703	2654 1443	2500 1300	1917 988	2213 992	1755 848	1624 941	23762 11854

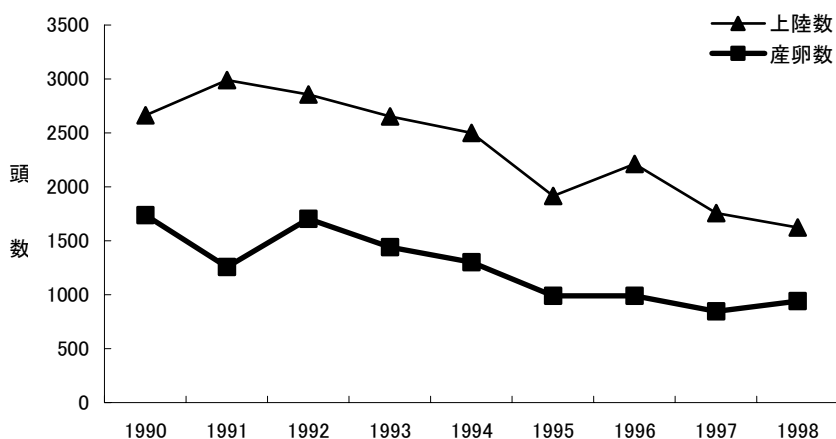


図40. 屋久島地区におけるアカウミガメの上陸数及び産卵数の年変化

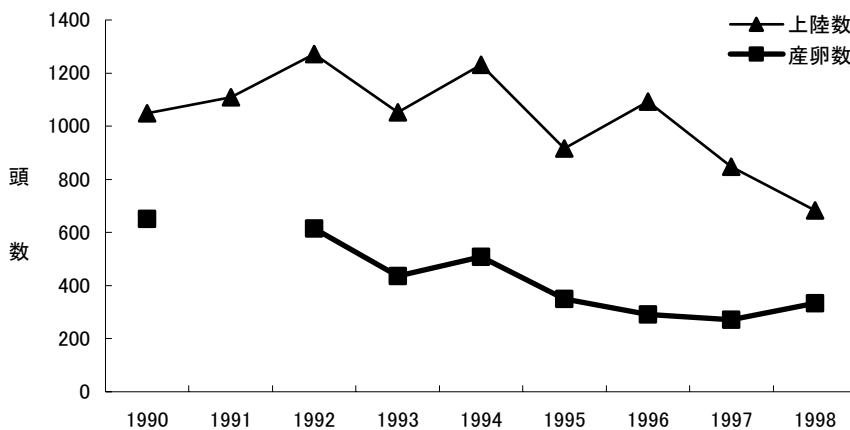


図41. 前浜におけるアカウミガメの上陸数及び産卵数の年変化

年間で 8463 上陸 5618 産卵となり、平均産卵成功率は 66.4%、最大で 73.8%、最小で 1993 年の 63.8%である。田舎浜は屋久島の中で最も産卵成功率が高い。これは隣接する前浜と比較すると興味深い。一湊浜では 11 年間で 614 上陸 340 産卵となり平均産卵成功率は 55.4%、最大は 1988 年の 70.2%、最小は 1989 年の 21.1%である。近年 5 カ年はほぼ 50% 台の低い値で安定している。中間浜では 11 年間で 411 上陸 244 産卵となり平均産卵成功率は 59.4%、最大は 1990 年の 90.9%、最小は 1996 年の 37.9%である。栗生・サゴシ浜では 10 年間で 3437 上陸 2196 産卵となり平均産卵成功率は 63.3%、最大で 71.6%、最小で 56.1%である。この地区の他の海岸と比較すると、栗生・サゴシ浜は産卵成功率の変動が少ない。

屋久島地区における 1990 年以降のアカウミガメの上陸数及び産卵数の年変化を図 40 に示す。また、参考までに前浜におけるアカウミガメの上陸及び産卵数の年変化を図 41 に示す。1991 年の産卵数の落ち込みは前浜の上陸数は含まれているが、産卵数が含まれていないためである。1989 年以前の記録は不明であるが、屋久島におけるアカウミガメの産卵状況は緩やかな減少傾向にあることが判る。また、上陸数と産卵数の間隔がほぼ一定していることから、屋久島地区としての産卵成功率が安定していることが判る。上陸数及び産卵数が記録されている 1992 年以降の産卵成功率の範囲は 44.8%から 59.6%で、平均は 52.9%とほぼ 2 上陸に対し 1 産卵である。

<アオウミガメ>

アオウミガメでは、1988 年以降屋久島地区で毎年上陸がみられている。中でも栗生・サゴシ浜には相対的に上陸及び産卵が多くみられる。次いで田舎浜でも上陸及び産卵はみられるが、来遊数に変動がみられる。上陸数の少ない中間浜を除き、他の海岸における産卵成功率はアカウミガメと比較して低い。前浜では 1994 年以降の 5 年間で 68 上陸 21 産卵となり平均産卵成功率は 30.9%、最大で 50.0%、最小で 20.0%である。田舎浜では 7 年間で 152 上陸 51 産卵となり平均産卵成功率は 33.3%、最大で 100.0%、最小で 17.6%

表 139. 屋久島地区におけるアオウミガメの上陸及び産卵状況

上段は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計
前浜	有 有	有 有	0 0		0 0		4 2	10 3	14 4	15 3	25 9	68 21
産卵成功率(%)							50.0	30.0	28.6	20.0	36.0	30.9
田舎浜	有 有	1 1	0 0	51 16	0 0	7 5	34 6	0 0	13 6	28 10	18 7	152 51
産卵成功率(%)		100.0		31.4		71.4	17.6		46.2	35.7	38.9	33.6
中間浜	1 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	3 3	0 0	0 0	1 0	6 4
産卵成功率(%)	0			100.0				100.0			0	66.7
栗生・サゴシ浜	5 0	0 0	1 0	24 8	5 2	4 2	6 1	19 6	14 9	9 4	26 9	113 41
産卵成功率(%)	0		0	33.3	40.0	50.0	16.7	31.6	64.3	44.4	34.6	36.3
合計	6 0	1 1	1 0	76 25	5 2	11 7	44 9	32 12	41 19	52 17	70 25	339 117

である。栗生・サゴシ浜では 10 年間で 113 上陸 41 産卵となり平均産卵成功率は 36.3%、最大で 64.3%、最小で 0%である。

屋久島地区におけるアオウミガメの上陸及び産卵状況を図 42 に示す。この図によると 1990 年までの 3 年間に、この地区ではアオウミガメの上陸がほとんどみられていない。1991 年になって 76 上陸 25 産卵と急激な増加がみられるが、産卵成功率は 32.9%と低い。1994 年にも上陸数にピークがみられるが 44 上陸 9 産卵で産卵成功率は 20.5%と最も低い。1992 年以降の産卵数は徐々に増加がみられる。屋久島地区におけるアオウミガメの産卵個体群は増加傾向にある。1998 年におけるアオウミガメの産卵雌ガメの推定来遊数は 6 から 8 頭である。

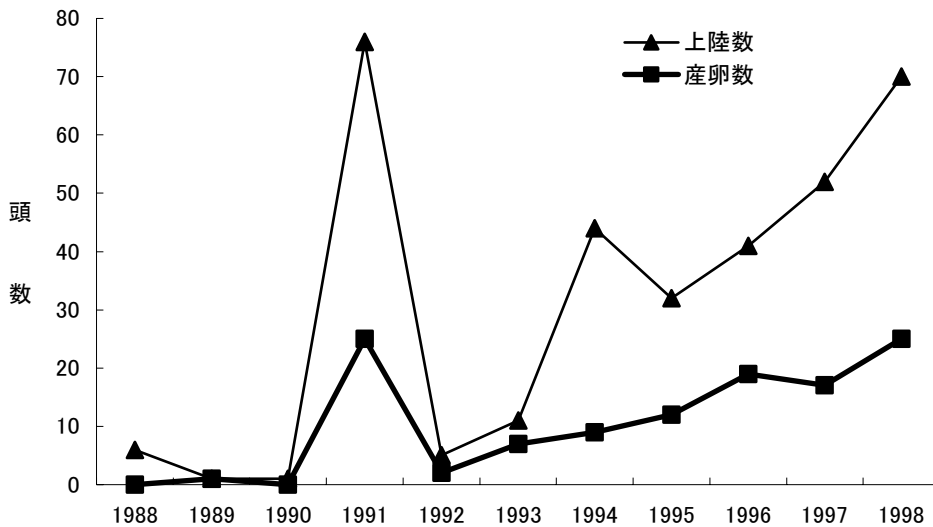


図42. 屋久島地区におけるアオウミガメの上陸数及び産卵数の年変化

⑨ 調査地区 9/奄美諸島

奄美大島、喜界島、枝手久島、沖永良部島で上陸記録が得られている。なお、アオウミガメも奄美大島で僅かながら上陸が記録されているが、アカウミガメの記録に混同されている可能性が高い。この地区は、地治海岸(喜界町：喜界島)、笠利町海岸(笠利町：奄美大島)、赤尾木海岸、手広海岸、白浜・アヒン浜、安木屋場海岸・ユキシ浜・鯨浜、嘉渡海岸・ドレン浜(龍郷町：奄美大島)、名瀬市海岸(名瀬市：奄美大島)、大和村海岸(大和村：奄美大島)、舟越海岸、枝手久島海岸、屋鈍海岸、外浜海岸(宇検村：奄美大島)、瀬戸内町海岸(瀬戸内町：奄美大島)、和泊町海岸(和泊町：沖永良部島)、知名町海岸(知名町：沖永良部島)の 4 島の海岸で構成されている。各海岸の長さを表 140 に示す。4 島 9 市町村における調査対象海岸長は 85.32km である。

奄美大島地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況を表 141 に示す。

- ・地治海岸では上陸数が 0 から 15 上陸と少なく、産卵数も不明であることからこの海岸における産卵状況の動向を知ることは困難である。
- ・笠利町海岸では 1991 年に 227 上陸を記録しており、その後 1997 年に 30 上陸まで減少

表 140. 奄美諸島地区における海岸長

海岸名	市町村名	島名	海岸長(m)	備考
地治海岸	喜界町	喜界島	325	
笠利町海岸	笠利町	奄美大島	27330	町内の海岸全て
赤尾木海岸	龍郷町	奄美大島	1775	
手広海岸	龍郷町	奄美大島	450	
白浜・アヒン浜	龍郷町	奄美大島	2075	2海岸の合計
安木屋場海岸・ユキシ浜・鯨浜	龍郷町	奄美大島	1650	3海岸の合計
嘉渡海岸・ドレン浜	龍郷町	奄美大島	575	2海岸の合計
名瀬市海岸	名瀬市	奄美大島	12250	市内の海岸全て
大和村海岸	大和村	奄美大島	5610	
舟越海岸	宇検村	奄美大島	325	
枝手久島海岸	宇検村	枝手久島	4125	島の東半分の海岸全て
屋鈍海岸	宇検村	奄美大島	1750	
外浜海岸	宇検村	奄美大島	2200	
瀬戸内町海岸	瀬戸内町	奄美大島	14200	町内の海岸全て
和泊町海岸	和泊町	沖永良部島	7880	町内の海岸全て
知名町海岸	知名町	沖永良部島	2700	町内の海岸全て
合計			85320	

表 141. 奄美大島地区におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況

上段(1行)は上陸数、下段は産卵数、空欄は未調査

海岸名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
地治海岸	1	0	0	1	0	3	15	6	6	5	1	1
笠利町海岸				52 有	227 有	168 有	83 有	136 58	66 28	38 13	30 有	33 20
赤尾木海岸		12 5	5 5	11 有	21 有	17 有	16 有	21 11	9 6	6 1	5 有	7 1
手広海岸		30 14	5 有	18 有	31 有	13 11	21 19	7 6	11 有	有 有	12 有	2 0
白浜・アヒン浜		1 0	4 有	18 有	37 有	38 有	50 有	56 有	22 有	35 有	22 有	0 0
安木屋場海岸・ユキシ浜・鯨浜		12 9	35 有	73 有	31 有	55 有	20 有	38 有	15 有	15 有	15 有	2 0
嘉渡海岸・ドレン浜		0 0	4 有	17 有	5 有	12 有	4 有	22 有	20 有	7 有	13 有	45 4
名瀬市海岸	15	7	34	58	38	23	24	30	19	8	3	16 15
大和村海岸			2	12	13	17					21	12
舟越海岸			1 1		2 1	4 2	2 2	有 有	2 有	有 有	1 1	0 0
枝手久島海岸			有 有		有 有	3 2	有 有	1 1	3 有	3 有	3 有	5 0
屋鈍海岸			3 3	有 有	10 有	10 5	6 有	7 有	4 有	有 有	4 有	0 0
外浜海岸			3 3	8 2	8 有	20 18	10 有	23 有	38 有	有 有	41 有	38 0
瀬戸内町海岸	150	34			28			8	21	1		10 有
和泊町海岸	0	30			85	5			12	5	29	
知名町海岸		44	20	8	7	5	0	13	12	11	10	15

していることから、この海岸のアカウミガメは減少傾向にあると考えられる。1994年から1996年の3年間と1997年で277上陸119産卵が確認されており、平均産卵成功率は43.6%である。

- ・赤尾木海岸におけるアカウミガメの上陸数は5から21上陸の範囲である。上陸数及び産卵数が判明している年間に60上陸29産卵で、平均産卵成功率は48.3%である。この海岸における産卵動向は不明である。
- ・手広海岸ではアカウミガメの産卵状況にやや減少傾向がみられる。上陸数及び産卵数が判明している5年間に73上陸50産卵で、平均産卵成功率は68.5%である。
- ・白浜・アヒン浜では0から50上陸と上陸数に幅がみられるが、産卵数が不明なため産卵動向は不明である。
- ・安木屋場海岸・ユキシ浜・鯨浜では2から73上陸とアカウミガメの上陸数に幅がみられる。1988年の12上陸9産卵から推測すると、この海岸における産卵成功率はそれほど低くないと思われる。これを前提として上陸数からみる限り1990年をピークに来遊数は減少傾向にあり、1998年は2上陸と極端に落ち込んでいる。
- ・嘉渡海岸・ドレン浜では0から45上陸と年によりアカウミガメの上陸数は大きく変動している。1998年の45上陸4産卵から推測すると、この海岸の産卵成功率は極めて低いと思われ、さらに海岸長が575mと狭いことを考慮すると、上陸数の変動は産卵に適していない海岸特性のためであると考えられる。
- ・名瀬市海岸では3から58上陸とアカウミガメの上陸数に幅がみられる。しかし、調査対象は名瀬市全体の海岸となっており、総海岸距離は12.25kmあり、この上陸数の幅の要因は掴みにくい。産卵動向については不明である。
- ・舟越海岸に来遊するアカウミガメの産卵雌ガメは1頭と考えられる。ほぼ毎年上陸が観察されている。
- ・枝手久島海岸も状況は舟越海岸と同様で、ほぼ毎年1頭の産卵雌ガメが来遊しているものと考えられる。
- ・屋鈍海岸ではアカウミガメの上陸数は0から10上陸の範囲である。1から2頭の産卵雌ガメが来遊しているものと思われる。
- ・外浜海岸ではアカウミガメの上陸数は3から41上陸と幅がある。海岸長も2.2kmと長く産卵状況を把握しにくい。1992年は20上陸18産卵みられたが、1998年は38上陸0産卵であり、産卵には不適な海岸となったものと思われる。
- ・瀬戸内町海岸は瀬戸内町全体の海岸を対象としたもので、1987年にアカウミガメの上陸数は150上陸が観察されている。しかし、1996年には1上陸、1998年には10上陸となっており、この10年間ほどで急激な減少があったことが推測される。
- ・和泊町海岸は和泊町全体の海岸を対象としたもので、アカウミガメの上陸数は0から85上陸と大幅な変動がみられる。しかし、総海岸長も7.88kmと長く、産卵動向についてはこのデータからは推測できない。
- ・知名町海岸は知名町全体の海岸を対象としたもので、アカウミガメの上陸数は0から44上陸と年により変動している。しかし、総海岸長は2.7kmあり、産卵動向についてはこ

のデータからは推測できない。

奄美大島地区のアカウミガメの産卵状況を把握することは困難である。1998年のデータだけで推測すると、185上陸と40産卵が確認されており、産卵雌ガメの推定来遊数は多くとも20頭から30頭程度と考えられる。また、笠利町海岸(60.6%)と名瀬市海岸(93.8%)を除くと産卵成功率は極めて低いものと思われる。

<アオウミガメ>

アオウミガメの上陸状況は次の5ヶ所で観察されている。

- ・白浜・アヒン浜では1988年から調査がされているが、アオウミガメが観察されたのは1998年の1上陸0産卵だけである。
- ・嘉渡海岸・ドレン浜では1988年から調査がされているが、アオウミガメが観察されたのは1998年の2上陸0産卵だけである。
- ・大和村海岸では1998年のみ調査が行われアオウミガメ2上陸を確認している。産卵については不明である。
- ・外浜海岸では1989年から1998年までアオウミガメの調査が行われているが、1991年に2上陸2産卵と1992年に2上陸で産卵があったことが確認されている。
- ・瀬戸内町海岸では1998年のみ9上陸と産卵があったことが確認されている。

以上のようにアオウミガメの産卵確認は1998年に集中しており、この地区では前述のアカウミガメの上陸数に混入している可能性も考えられる。

●鹿児島県のまとめ

鹿児島県では、調査地区1から調査地区9に地域分けされている。海岸数は73海岸で合計海岸距離は265.6kmで、この範囲で上陸又は産卵が確認されている。鹿児島県における海岸数は、他の地域と違い名瀬市などのように市町村全ての海岸を一つとみなしている場合がある。産卵密度は過去5カ年の産卵数の平均から求める。産卵密度が求められる海岸を表142に示す。表に挙げた海岸は過去3カ年以上の産卵数が判明しているものを用いている。

年平均産卵密度が最も高いのは、屋久島地区の田舎浜で503.3産卵/kmである。次いで屋久島地区前浜で281.0産卵/km、同地区栗生・サゴシ浜で231.7産卵/km、同地区中間浜で101.6産卵/kmと上位4海岸を全て屋久島の海岸が占めている。過去最も産卵密度が高かったのは、1990年の田舎浜(835産卵)で927.8産卵/kmである。屋久島全体では総海岸距離が3.68km、過去5カ年の年平均産卵数は1012.0産卵、年平均産卵密度は275.0産卵/kmとなる。鹿児島県において、過去5カ年で3年以上産卵数が判明している海岸全ての平均産卵密度は、10.8産卵/kmである。

表 142. 鹿児島県におけるアカウミガメの過去 5 カ年における平均産卵数と産卵密度

調査区	海岸名	距離 (km)	総産卵数	年数	平均産卵数	産卵密度 (産卵/km)
1	大崎町海岸	6.80	102	3	34.0	5.0
3	長崎鼻海岸	1.18	39	5	7.8	6.6
3	川尻海岸	0.83	75	5	15.0	18.1
3	入野・物袋海岸	1.83	41	5	8.2	4.5
3	顕娃町海岸	13.93	60	4	15.0	1.1
3	別府海岸	13.25	128	4	32.0	2.4
4	新川-相星-小湊	4.88	43	4	10.8	2.2
4	吹上浜	12.45	258	5	51.6	4.1
4	日吉町海岸	6.83	416	5	83.2	12.2
4	照島海岸	2.00	97	5	19.4	9.7
5	霧田・久見崎海岸	2.10	23	5	6.6	2.2
5	西方・湯田・唐浜	6.20	11	4	2.8	0.4
5	脇本海岸	2.10	67	5	13.4	6.4
6	青瀬海岸	0.90	81	5	16.2	18.0
6	手打海岸	1.50	52	4	13.0	8.7
8	前浜	1.25	1756	5	351.2	281.0
8	田舎浜	0.90	2265	5	453.0	503.3
8	一湊浜	0.63	159	5	31.8	50.5
8	中間浜	0.25	127	5	25.4	101.6
8	栗生・サゴシ浜	0.65	753	5	150.6	231.7
9	笠利町海岸	45.25	119	4	29.8	0.7
9	赤尾木海岸	1.78	19	4	4.8	2.7
合計		127.49	6691	101	1373.4	10.8

2) 脱出状況調査

脱出状況については、1988 年以降に長崎鼻海岸と徳浜の 2 海岸で 15 件の記録や報告があり、自然ふ化は 3 件、移植は 8 件、不明が 4 件ある。長崎鼻海岸では当初ふ化場への移植を行っており、その後自然ふ化の保護政策に転換している。長崎鼻海岸の脱出状況を表 143 に示す。1988 年から 1995 年までの 8 年間で 176 巣が移植され、その平均脱出率は 26.1%である。1996 年から 1998 年までの 3 年間で 16 巣の自然ふ化が調査され、その平均脱出率は 80.3%となり、明らかに自然ふ化の方が脱出率は高い。

表 143. 長崎鼻海岸におけるアカウミガメの脱出状況

	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
産卵巣数	31	25	34	27	19	16	13	10	7	5	4
脱出率 (%)	40.0	28.6	14.3	29.6	37.2	66.9	26.6	43.5	76.7	88.4	76.6
備考	移植	移植	移植	移植	移植	移植	移植	移植	自然	自然	自然

徳浜の 4 件 4 巣の脱出率については、自然ふ化か移植なのか不明である。これらの脱出状況は全て 1998 年のもので、アカウミガメが 85%と 80%、アオウミガメが 85%、タイマイが 80%である。

3) 漂着・漂流及び混獲など

1988年以降、65個体の漂着死体が記録されており、その内訳はアカウミガメ 17個体(26.2%)、アオウミガメ 3個体(4.6%)、種不明 45個体(69.2%)となっている(表 144)。直甲長については屋久島の前浜と田舎浜に漂着したアカウミガメ 6個体(オス 1個体、メス 4個体、性別不明 1個体)とアオウミガメ 1個体(性別不明)で記録されており、平均直甲長はそれぞれアカウミガメが 81.0cm、アオウミガメ 63.7cmとなっている。漂着死体が多かったのは大崎町海岸の 8個体(12.3%)であり、入野・物袋海岸や江口海岸(赤碕～神之川)、市来海岸(県立吹上浜自然公園)、屋久島の田舎浜でもそれぞれ 7個体(10.8%)の漂着死体が確認されている。また、月別では6月に漂着したウミガメが 28個体(43.1%)で最も多く、次いで7月が 13個体(20.0%)、5月が 7個体(10.8%)、4月が 6個体(9.2%)の順になっており、漂着死体は夏場に集中している。

表 144. 鹿児島県におけるウミガメ漂着死体数

		1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	計
アカウミガメ	♂										1		1
	♀									3	1	2	6
	不明		2		1		3				1	3	10
アオウミガメ	♀			1									1
	不明									1		1	2
種不明		3	4	2	7	4	7	1	2	5	7	3	45

4) 上陸確認現地調査

上陸確認現地調査は、上陸・産卵砂浜実績調査で対象となった海岸以外で実施している。調査は、奄美大島瀬戸内町の徳浜、徳之島の 10 海岸、与論島の 13 海岸の計 24 海岸で、総海岸距離は 12.28km である。ウミガメ類の上陸確認現地調査状況を表 145 に示す。アカウミガメの上陸は 6 海岸で 23 上陸確認されている。最も上陸数が多いのは奄美大島の徳浜の 10 上陸、次いで与論島のトイシ浜の 7 上陸、同じくマンマ浜とウプラ浜の各 2 上陸である。アオウミガメは 3 海岸で 15 上陸が確認されている。最も上陸が多いのは奄美大島の徳浜の 10 上陸、トイシ浜の 4 上陸、マンマ浜の 1 上陸である。これ以外にアオウミガメの情報として、徳之島の金見で観光客により産卵が確認され、同じく徳之島の与名間北で地元の工事現場の人により帰海できなくなっていた産卵雌ガメが救助されている。タイマイは 2 上陸が確認されている。確認された海岸は奄美大島の徳浜のみである。種不明の上陸が 13 海岸で確認されている。徳之島花徳浜では種不明が 20 上陸確認されている。今回の調査結果では、この海岸と与論島トイシ浜は徳浜に次いで上陸が多い海岸となっている。この調査と情報によりウミガメ類 98 上陸が確認されている。

鹿児島県の海岸延長距離は 2717.03km で、そのうちウミガメ類の産卵の可能性のある海岸は 413.85km(15.2%)である。鹿児島県下で産卵が確認された海岸は、上陸・産卵砂

表 145. 鹿児島県におけるウミガメ類の上陸確認現地調査状況

番号	海岸名	市町村名	開始日	終了日	回数	上陸数			備考
						アカ	アオ	タイマイ	
59	徳浜	瀬戸内町	5.08	8.21	18	10	10	2	各1ふ化を確認
60	手々	徳之島町	6.25	8.02	7	0	0	0	
61	金見	徳之島町	6.25	8.02	7	0	0	0	観光客が1産卵確認
62	山	徳之島町	6.25	8.02	7	0	0	0	
63	畦 ^フ リンスビ ^ー チ	徳之島町	6.25	8.02	7	0	0	0	
64	花徳浜	徳之島町	6.25	8.02	7	0	0	0	種不明 20 上陸
65	里久浜	徳之島町	6.25	8.02	7	0	0	0	
66	面縄	伊仙町	7.01	8.19	8	0	0	0	
67	与名間北	天城町	6.30	8.25	7	0	0	0	6.22アオ上陸情報
68	ヨナビ ^ー チ	天城町	6.30	8.25	7	0	0	0	
69	秋利神	天城町	6.30	8.25	7	0	0	0	
72	宇勝浜	与論町	6.13	8.26	10	0	0	0	種不明 3 上陸
73	寺崎海岸	与論町	6.30	8.26	10	0	0	0	
74	皆田浜	与論町	6.13	8.26	12	0	0	0	種不明 3 上陸
75	クズレ浜	与論町	6.13	8.26	10	0	0	0	種不明 3 上陸
76	大金久海岸	与論町	6.13	8.26	9	0	0	0	種不明 3 上陸
77	赤崎海岸	与論町	6.13	8.15	11	0	0	0	種不明 3 上陸
78	ワタンジ	与論町	7.03	8.15	8	0	0	0	種不明 1 上陸
79	前浜	与論町	6.13	8.15	11	1	0	0	種不明 2 上陸
80	マンマ浜	与論町	6.13	8.26	19	2	1	0	種不明 6 上陸
81	トイシ浜	与論町	6.13	8.26	21	7	4	0	種不明 9 上陸
82	ウプラ浜	与論町	6.30	8.26	11	2	0	0	種不明 1 上陸
83	兼母海岸	与論町	6.13	8.26	18	0	0	0	種不明 1 上陸
84	品覇海岸	与論町	7.02	8.20	8	1	0	0	種不明 1 上陸
合計						23	15	2	種不明 56 上陸

浜実績調査による 73 海岸で 265.6km と上陸確認現地調査の 16 海岸で 7.13km の合計値である。上陸又は産卵が確認された海岸は 89 海岸で 275.73km となり、これは産卵の可能性のある海岸の 66.6%にあたる。

調査された海岸長は 280.88km で、産卵の可能性のある海岸の 67.9%にあたり、調査が充分に行われていることを示している。今後は未調査地である島嶼部の調査が実施されることを期待する。

5) 上陸・産卵砂浜環境調査

・上陸・産卵砂浜の環境の概要

鹿児島県内の情報が得られている地域のうち、九州の本土は、ほぼ全てで人工構造物、人間活動、夜間の灯火等がみられている。甌島列島は、人工構造物や人間活動はなかったが、夜間の灯火はみられている。屋久島は、保護活動が各浜ともよく行われているのが特徴である。徳之島及び与論島は、人工構造物や人間活動が比較的少ない傾向にある。

・調査方法

海棲生物調査(ウミガメ生息調査)実施要領に準じて現地調査を行い、下記の項目に

ついて調査票にとりまとめた。なお、産卵浜に関する既存資料はなかったため、現地調査の結果のみを用いた。

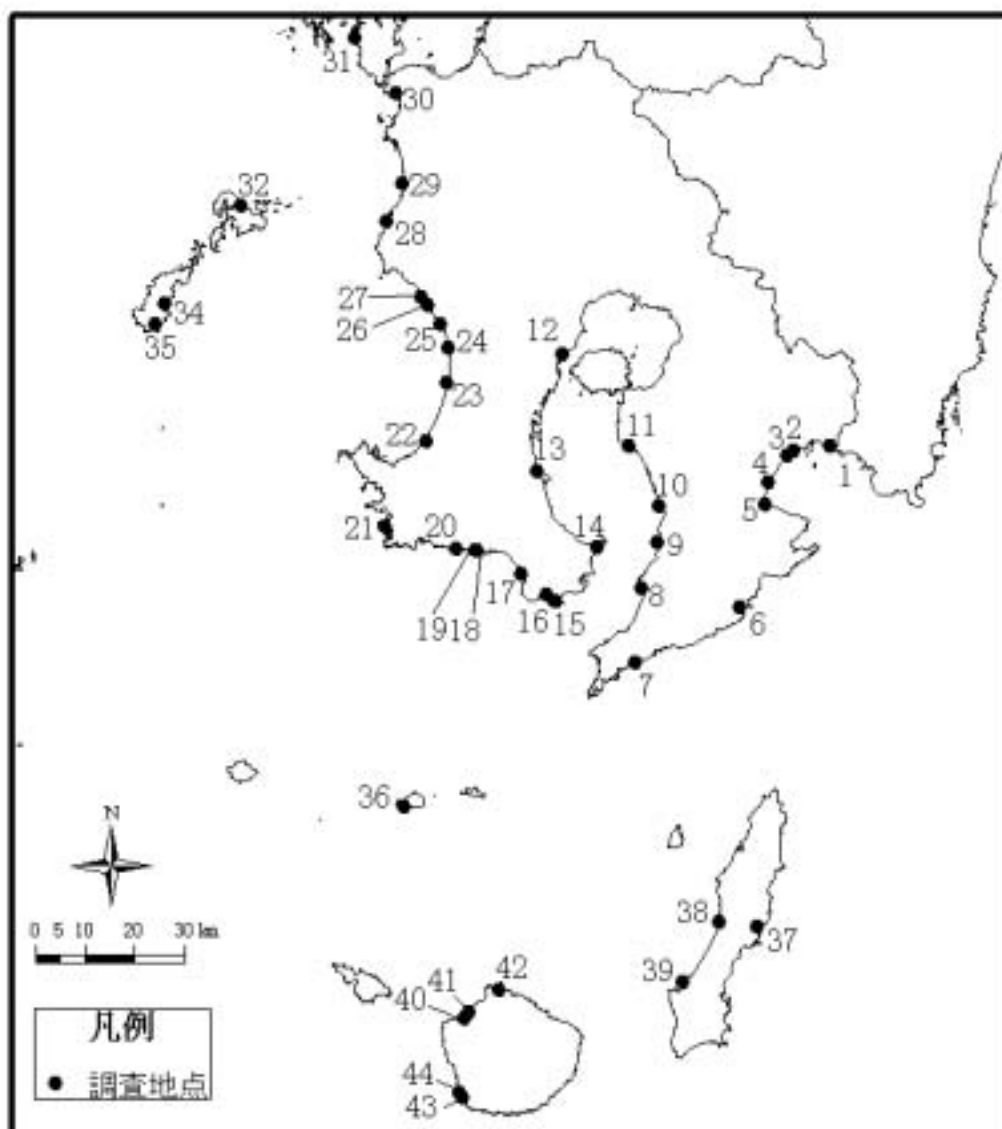
- ①人工構造物の有無(浜前面の海面・浜内)
- ②人間活動の状況
- ③ごみの漂着状況
- ④夜間の灯火の有無
- ⑤ウミガメ類に関する調査・保護活動状況
- ⑥ウミガメ類に関する保護・保全してい状況

6) 資料リスト

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
大崎町	1988～1999	昭和63年度～平成10年度ウミガメ保護監視員設置費補助金実績報告書	鹿児島県環境保護課	—
開聞町	同上	同上	同上	—
穎娃町	同上	同上	同上	—
知覧町	同上	同上	同上	—
枕崎市	同上	同上	同上	—
加世田市	同上	同上	同上	—
日吉町	同上	同上	同上	—
東市来町	同上	同上	同上	—
市来町	同上	同上	同上	—
串木野市	同上	同上	同上	—
川内市	同上	同上	同上	—
阿久根市	同上	同上	同上	—
下甑村	同上	同上	同上	—
上屋久町	同上	同上	同上	—
屋久町	同上	同上	同上	—
笠利市	同上	同上	同上	—
龍郷町	同上	同上	同上	—
宇検村	同上	同上	同上	—
川内市	同上	同上	同上	—
山川町	1991	平成3年度ウミガメ保護監視員設置費補助金実績報告書	鹿児島県環境保護課	—
鹿児島県環境保護課	1987～1999	昭和62年度～平成10年度ウミガメ実態調査報告書	鹿児島県環境保護課	—
鹿児島県	1989～1999	ウミガメ生態調査報告書	鹿児島県	(1)～(11)

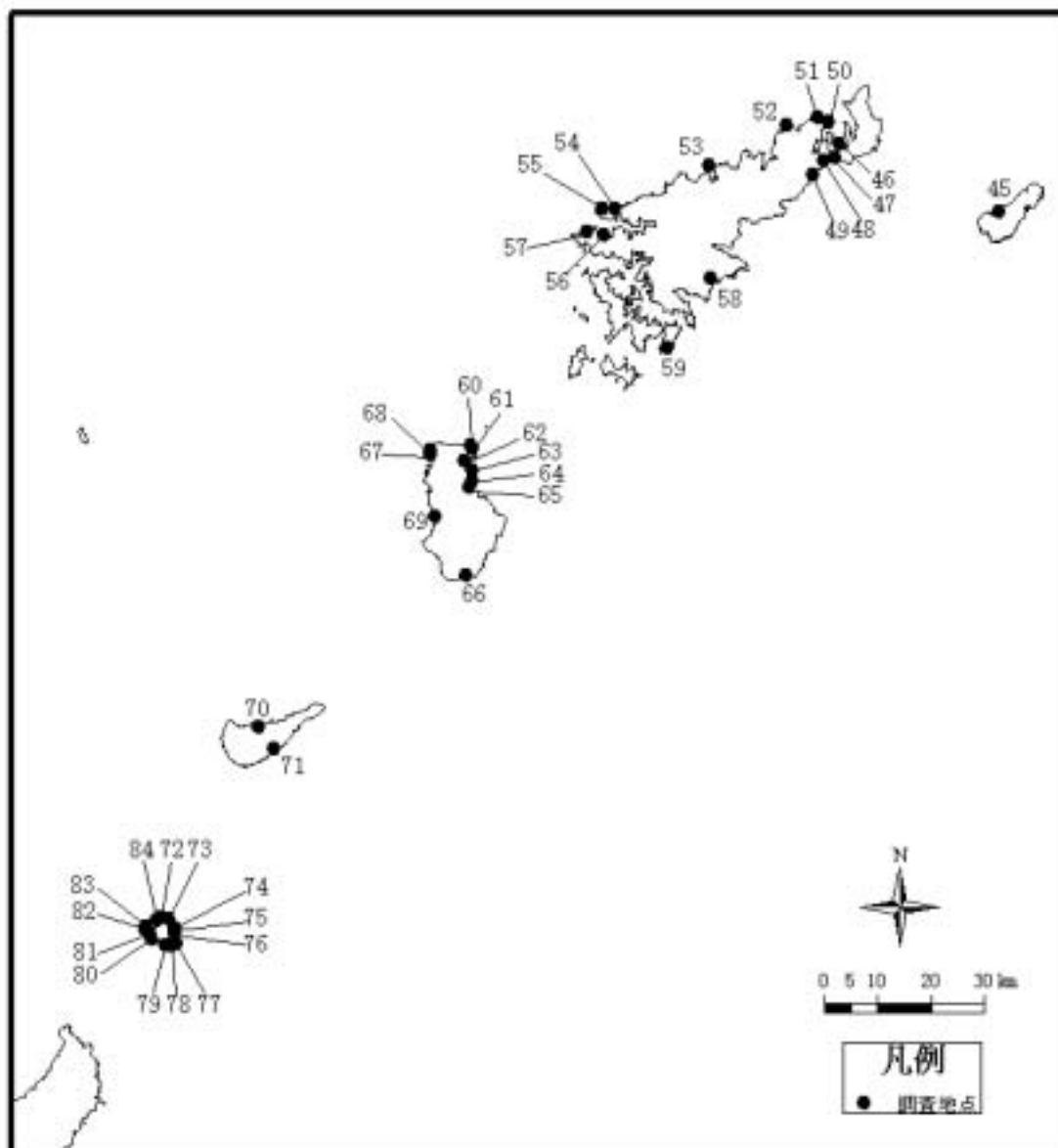
7)担当者リスト

氏名	所属
岡田 滋	財団法人鹿児島環境技術協会
川淵 静司	瀬戸内町
宮山 浩	天城町役場企画課
佐藤 勝夫	徳之島町
徳 イト子	伊仙町
酒匂 兼峯	与論町
貴島 広海	志布志町役場まちおこし課
木屋 兼幸	有明町役場総務課
下諸 兼幸	大崎町役場企画財政課
前田 秀一	東串良町役場経済課
田畑 隆一郎	内之浦町役場林務水産課
花里 友二	佐多長役場企画振興課
小田 清典	根占町役場企画課
茶園 博樹	鹿児島市市役所環境保全課
山崎 昭宏	喜入町役場経済課
嶺元 和仁	指宿市役所観光課
宮地 主悦	山川町役場水産商工課
上村 真史	開聞町役場観光商工課
加治佐 和彦	穎娃町役場企画課
田中 義昭	加世田市役所市民生活課
神余 徹	吹上町役場企画振興課
宇治野 隆之	金峰町役場企画商工課
馬場 学	日吉町役場経済課
北山 末吉	東市来町役場住民課
池田 幹男	市来町役場町民生活課
白石 尚己	串木野市役所市民生活課
渡辺 ゆか	川内市役所生活環境課
新町 勝利	阿久根市役所環境保健課
山崎 友喜	長島町役場経済課
下江 伊八郎	下甌村役場環境整備課
野平 清吾	中種子町役場開発課
竹之内 大樹	上屋久町役場商工水産課
代口 有希	屋久町役場農林水産課
正本 英紀	笠利町役場企画観光課
西田 栄三郎	龍郷町役場産業振興課
松元 昭一	宇檢村役場建設課
麓 南一	徳之島町役場産業振興課



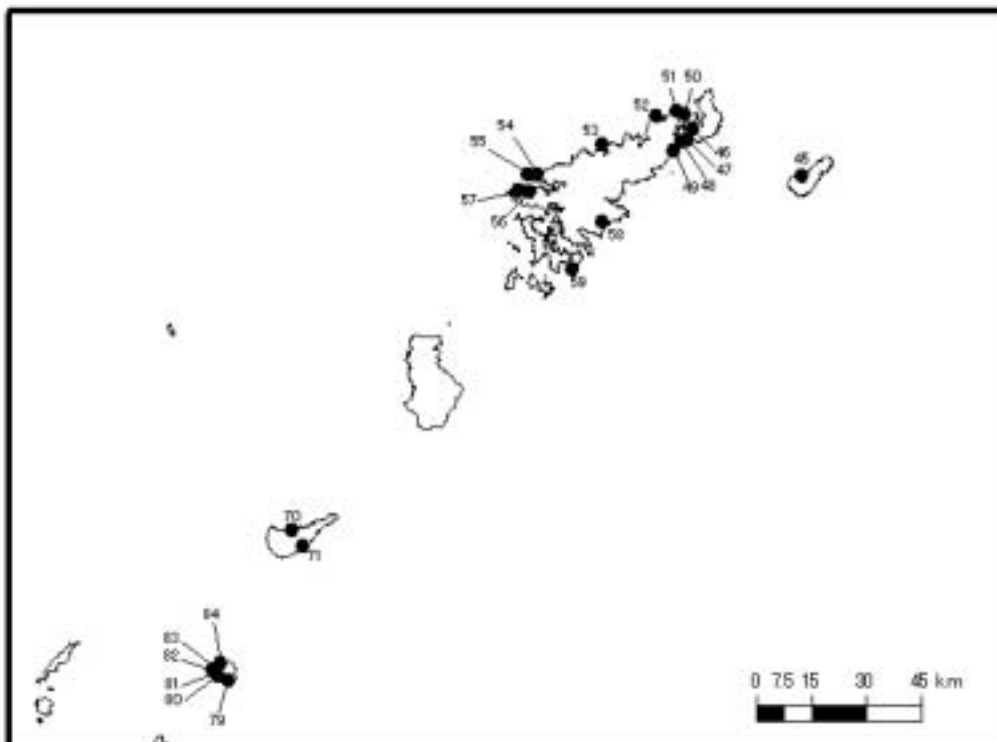
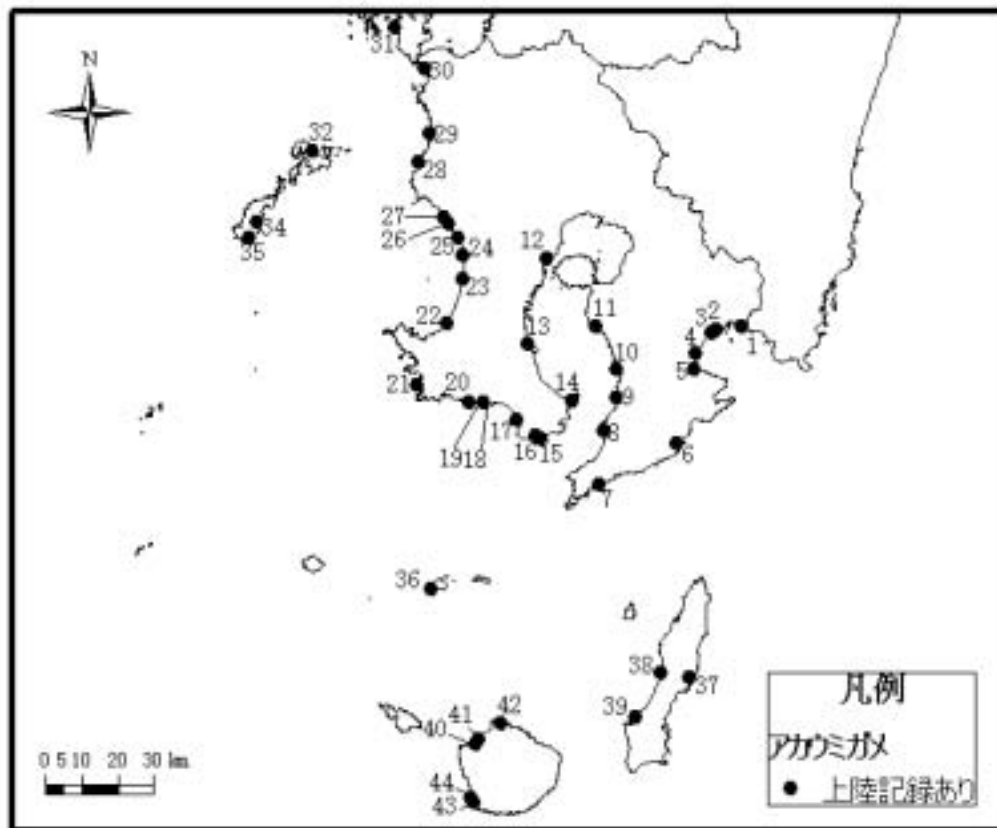
調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
1	打出ヶ浜	12	綾海水浴場	23	吹上浜	34	青瀬海岸
2	通山・押切海岸	13	善入町海岸	24	白吉町西海岸 (吉村海岸・日置海岸)	35	手打海岸
3	大崎町海岸	14	田良浜	25	江口海岸(赤崎一神之内)	36	薩摩島長浜浦
4	柏原海岸	15	長崎鼻海岸	26	赤米海岸 (国立牧上浜自然公園)	37	西之表市海岸
5	渡見海岸	16	川尻海岸	27	照島海岸	38	長浜海岸
6	辺塚海岸	17	入野・物産海岸	28	新田・久見崎海岸	39	南種子町海岸
7	佐多町海岸	18	額岐町海岸	29	西方、湯田、島浜海岸	40	前浜
8	大浜海岸	19	松ヶ濱海岸	30	脇本海岸	41	田舎浜
9	大相占町海岸	20	別府海岸	31	沙見海岸、小浜海岸	42	一瀬浜
10	高瀬海岸	21	丸木浜	32	黒川海岸	43	中間浜
11	新城海岸	22	黒川一畑 一上海岸	33	上郷村海岸	44	栗生、サゴシ浜

調査地点一覧(鹿児島県本土周辺)

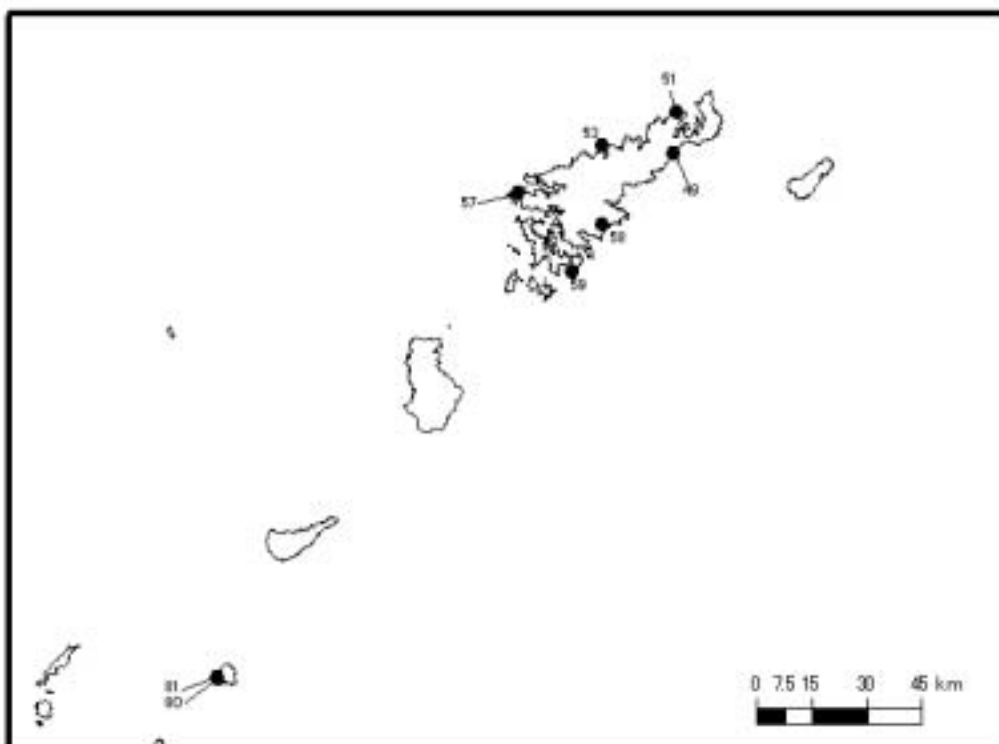
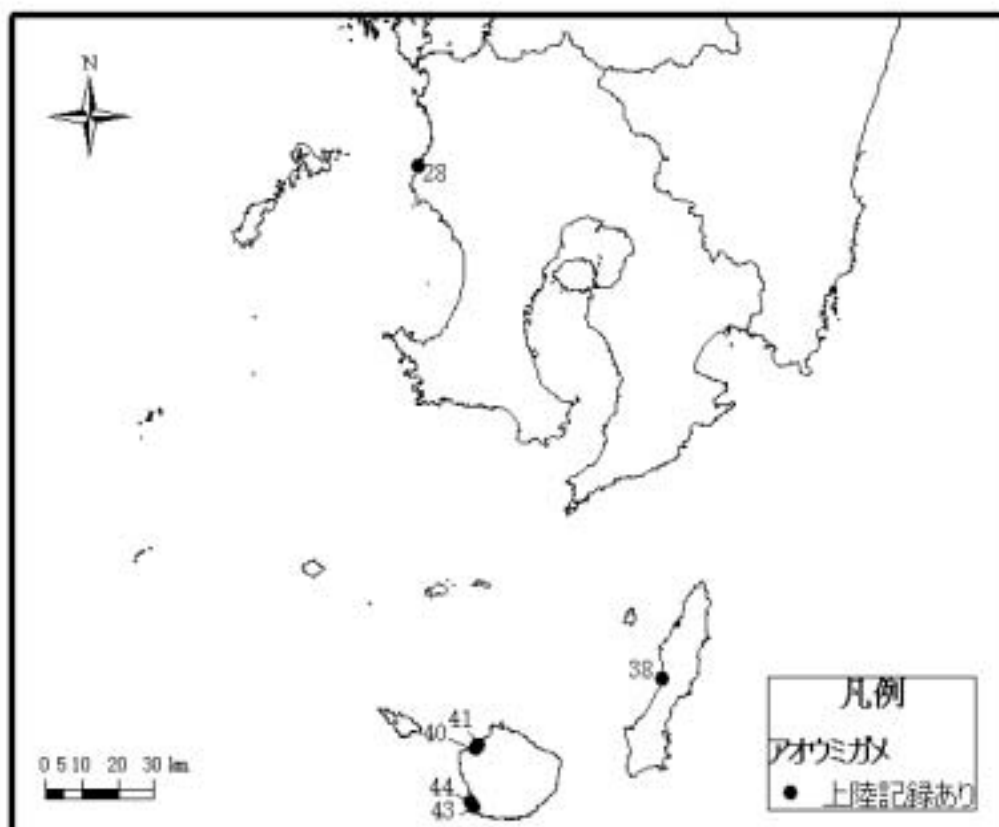


調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
45	池治海岸	55	枕手久島海岸	65	聖久浜	75	クスレ浜
46	笠利町海岸	56	屋崎海岸	66	西渡	76	大倉久海岸
47	赤尾木海岸	57	外浜海岸	67	与名間北	77	赤崎海岸
48	千広海岸	58	瀬戸内町海岸	68	ヨナマビーチ	78	ワタンジ
49	白浜、アヒン浜	59	徳浜	69	萩利神	79	前浜
50	安木屋場海岸、ユキノ浜、徳浜	60	平々	70	和泊町海岸	80	マンマ浜
51	高瀬海岸、下レン浜	61	金見	71	知名町海岸	81	トイシ浜
52	名瀬市海岸	62	山	72	宇野浜	82	ウブラ浜
53	大和村海岸	63	畦プリンスビー	73	寺崎海岸	83	瀬母海岸
54	舟越海岸	64	花徳浜	74	皆田浜	84	品瀬海岸

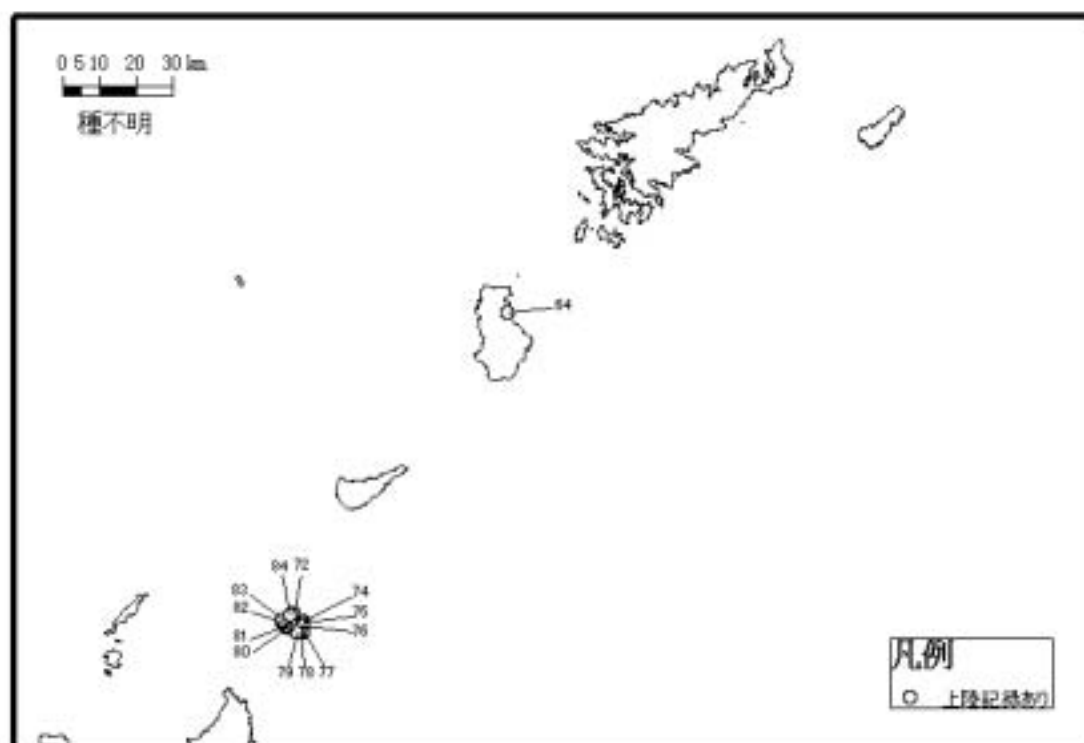
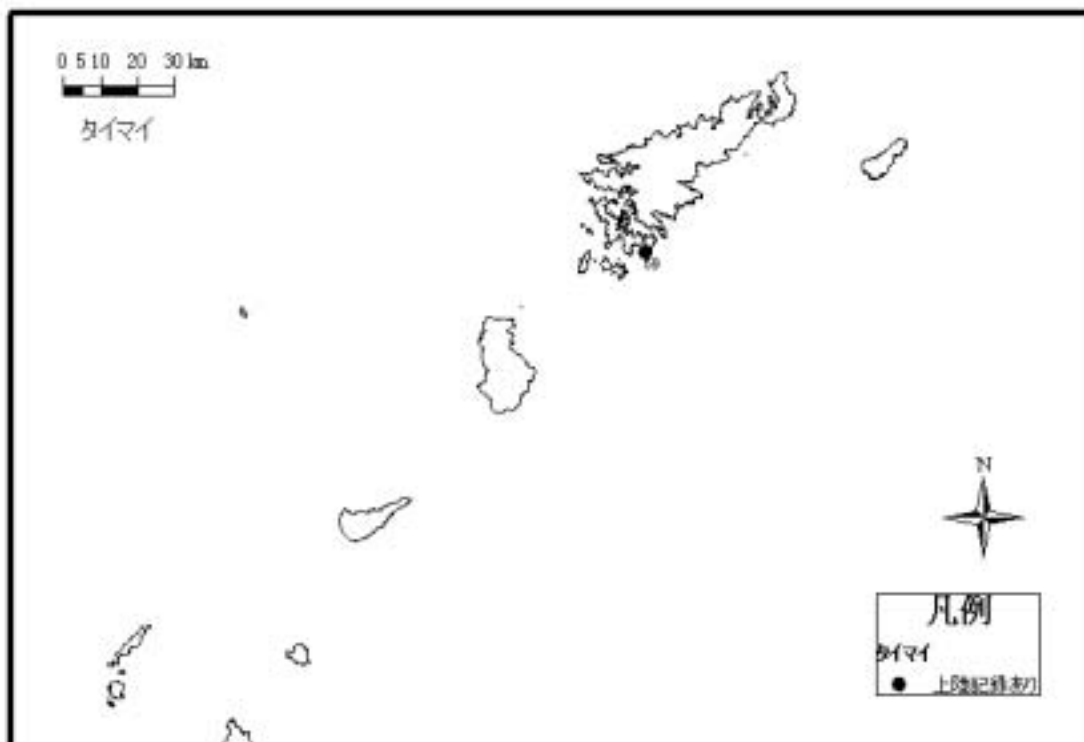
調査地点一覧(鹿児島県奄美諸島)



アカウミガメ上陸地点(鹿児島県)



アオウミガメ上陸地点(鹿児島県)



ウミガメ上陸地点(鹿児島県)

(20)熊本県 調査年：1998年

●県下の海岸状況

海岸延長距離	1066.20km	うち島嶼域	790.19km
自然海岸砂浜	86.96km	うち島嶼域	71.78km
半自然海岸砂浜	40.99km	うち島嶼域	34.92km
産卵海岸の合計	127.65km	うち島嶼域	106.70km

●上陸・産卵砂浜実績調査

対象地区数	27区	対象海岸数	27	対象海岸距離	7.70km
産卵地区数	27区	産卵海岸数	27	産卵海岸距離	7.70km

●上陸確認現地調査

調査地区数	26区	調査海岸数	26	調査海岸距離	7.18km
産卵地区数	18区	産卵海岸数	16	産卵海岸距離	4.05km

1)上陸・産卵砂浜実績調査結果

熊本県下で上陸又は産卵が確認されているウミガメ類は全てアカウミガメであり、27海岸が上陸又は産卵実績のある海岸として挙げられている。この中には含まれていないが、上陸確認現地調査年の1998年に、3海岸で上陸などの情報も得られている。五和町の宮津海岸は、住民が上陸を発見したので調査してほしいとの依頼が町からあり、調査を行ったが砂が固く産卵はしていない。苓北町の志岐海岸は、以前は砂があって上陸が時々みられていたが、住民の発見により調査を実施し、同じカメとおもわれる2上陸未産卵の確認をしている。牛深市下須島西南突端の二子島近くの海岸は、以前はいくらかの砂があった海岸で時々アカウミガメが上陸している。現在は砂が無く転石の海岸となっている。

福岡県境の荒尾市にある牛水海岸は、有明海に面している海岸で唯一上陸及び産卵の記録がある海岸である。島原湾でも宇土市、大矢野町、有明町、五和町で上陸や産卵が確認されている。八代海の芦北町にあるマリナーパークビーチでも1産卵が記録されている。これらの海岸に上陸しているアカウミガメは早崎瀬戸やより狭い瀬戸を通り島原湾、有明海、八代海に入り込んでいる日本では珍しい例である。熊本県におけるアカウミガメのほとんどの上陸及び産卵は天草の下島に集中している。

・調査地区 1/牛水海岸(荒尾市)

海ガメ通第2号「りゅうぐう」と新聞報道によると、1990年に1上陸1産卵が確認されている。南に隣接する長州の海岸で1992年にふ化稚亀約20頭が観察されているとの情報もある。また、北に隣接する猫宮海岸に1976年7月に上陸し、引き潮で帰

れなくなったのを大人たちが数百メートル運んで海に戻したこともある。

・調査地区 2/長浜海岸(宇土市)

新聞報道と聞き取り調査によると、1986年6月に3上陸3産卵が確認されている。約60年ぶりの上陸産卵と報道される。これにより、この産卵は1頭の産卵雌ガメによる可能性が高い。

・調査地区 3/マリンパークビーチ(芦北町)

新聞報道と聞き取り調査によると、1991年8月に稚亀が水たまりで泳いでいるのが4頭観察されている。また、産卵巣の中から死亡したふ化稚亀20頭を確認している。1上陸1産卵である。

・調査地区 4/鶴ヶ浜海水浴場(芦北町)

新聞報道によると、1992年6月に見物客に見守られながら夕方に上陸産卵する。9月に約30頭のふ化稚亀が観察された。1上陸1産卵である。

・調査地区 5/七つ割海岸(大矢野町)

聞き取り調査によると、1970年代までは砂の状態も良く、時々上陸が観察されている。この海岸は小さな川の河口近くにあり、道下の浜に旅館が1軒あり、夏には海水浴場となっている。

・調査地区 6/上津浦海岸(有明町)

聞き取り調査によると、港ができるまではきれいな砂浜であった。港ができた後も昭和40年代までは、港の外側の吹き溜まりに上陸していた。現在でも沖にある定置網に時々入るが、上陸は観察されていない。

・調査地区 7/引坂松原海岸(五和町)

聞き取り調査によると、国道324号線が海岸部にできる以前は、まとまった上陸産卵地であった。現在も上陸は続いているが、産卵は少なく多い年でも年に1回から2回程度と考えられている。

・調査地区 8/引坂海岸(五和町)

聞き取り調査によると、国道324号線が海岸部にできる以前は、上陸産卵地であった。この海岸は川の河口部にあり、漁港の堤防の延長によって砂が減少している。現在も上陸は続いているが、産卵できるほどの砂はない。

・調査地区 9/通詞島(五和町)

聞き取り調査によると、島の北側に時々上陸し、ふ化も観察されていた。1979年に着工された海岸護岸によりウミガメは姿を見せなくなっている。現在はこの護岸と道路が島を一周している。かつては地元の人々の海水浴場であった。

・調査地区 10/富岡海水浴場(苓北町)

この海水浴場は富岡半島の付け根の外洋側にあり、消波ブロックの離岸堤と自然石の突堤に囲まれた2ヶ所を除き閉鎖的な作りとなっている。海水浴場の整備以前(编者注; 報告の内容からこの整備は1998年と推定される)には時々上陸跡が見られたため確認作業をしてきたが、8月になって1頭が上陸産卵している。聞き取り調査によると、過去において工事途中でも数回上陸及び産卵が観察されている。

・調査地区 11/白木尾海岸(苓北町)

聞き取り調査によると、1992年頃までは、年間20上陸前後が観察されている。1992年には2産卵が確認されている。1980年代までは重要な上陸産卵地であったが、苓北火力発電所による南側の埋め立て地により、数年間で砂がなくなっている。

・調査地区 12/内田海岸(苓北町)

聞き取り調査によると、この数年間に南側の火力発電所の埋め立て地により、砂が堆積しているらしく、今回新たな上陸産卵地として確認した海岸である。海岸においてあった消波ブロックのほとんどは埋もれている。

・調査地区 13/都呂呂海岸(苓北町)

聞き取り調査によると、港湾整備が行われる以前は、転石と砂の混じった海岸で、時々上陸産卵が行われていたらしい。現在では、大きな防波堤もできて、砂がなくなり転石地となっており、上陸は確認されていない。

・調査地区 14/白鶴海岸(天草町)

この海岸は熊本県下で最も大きな海岸である。聞き取り調査によると、漁港の大型化に伴い砂が南へ移動している。海水浴場でもあり、夜間も街灯がつけられているため上陸はめったにみられないが、上陸すればほとんど産卵している。1994年と1995年に詳細は不明であるが、上陸及び産卵が確認されている。1996年は2上陸2産卵、1997年は1上陸1産卵が確認されている。

・調査地区 15/須賀無田海岸(天草町)

聞き取り調査によると、1970年代頃までは、上陸産卵していたらしいが、最近は砂の変動が大きく、時々しか産卵は見られていない。1993年に産卵は不明であるが、2上陸確認されている。

・調査地区 16/魚貫崎海岸(牛深市)

天草自然研究会によると、1980年代になり、小さな港の突堤工事とレストハウス建設のため、海岸の一部が埋め立てられテトラポットの設置に伴い転石海岸となっている。以前はすばらしい白砂の海岸であったが、現在はまったく上陸がみられていない。

・調査地区 17/甚平浦(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、時々上陸しているようであるが、海岸の状況からふ化は困難であると考えられている。

・調査地区 18/二松郷(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、時々上陸しているようであるが、調査もあまりされておらず、産卵は確認されていない。

・調査地区 19/白浜海岸(牛深市)

聞き取り調査によると、1980年代半ばに砂が沖へ動き、戻っていない。年々人の利用が多くなり、上陸数は減っている。1992年に2上陸2産卵が確認されている。それ以前の詳細は不明であるが、1998年には県警察、県自然保護課、県自然環境保全指導員などウミガメ卵の盗掘防止合同パトロールを実施している。

・調査地区 20/小白浜海岸(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、小さな浜であるが、毎年上陸しているが、人の利用が多くなり、上陸数は少ない。産卵された卵の盗掘が続いている。1992年には6上陸2産卵が確認されている。それ以前の詳細は不明であるが、1998年には県警察、県自然保護課、県自然環境保全指導員などウミガメ卵の盗掘防止合同パトロールを実施している。

・調査地区 21/福浦海岸(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、黒砂の浜で条件はあまり良くないが、人の利用は少ない。産卵された卵の盗掘が続いている。1992年に9上陸未産卵を確認している。

・調査地区 22/黒崎海岸(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、黒砂の浜で人の利用は少なく、上陸数も多くない。産卵された卵の盗掘が続いている。1992年に5上陸未産卵を確認している。

・調査地区 23/仕付海岸(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、ほとんど人の出入りが無い黒砂の浜であるが、産卵された卵の盗掘が続いている。1992年に17上陸5産卵を確認している。

・調査地区 24/外大首海岸(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、ほとんど人の出入りが無い黒砂の浜である。産卵された卵の盗掘が続いているため、産卵確認は困難である。1992年に8上陸3産卵を確認している。

・調査地区 25/大首海岸(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、ほとんど人の出入りが無い白砂を主体とする海岸である。産卵された卵の盗掘が続いているため、産卵確認は困難である。1992年に10上陸3産卵を確認している。それ以前の詳細は不明であるが、1998年には県警察、県自然保護課、県自然環境保全指導員などウミガメ卵の盗掘防止合同パトロールを実施している。

・調査地区 26/砂月海岸(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、1980年代までは上陸及び産卵、ふ化が確認されている。この数年はほとんど上陸はない。海水浴場として新たな護岸工事がなされた後は上陸が減っている。1992年に7上陸2産卵、1998年は上陸なしが確認されている。

・調査地区 27/大島(牛深市)

熊本県自然保護指導員によると、現在は無人島であるが、島民がいた頃より時々上陸及び産卵がみられているが、最近は減少していると考えられている。調査はあまりなされていない。

●熊本県のまとめ

熊本県下ではアカウミガメの上陸又は産卵は27海岸で確認されている。このうち10海岸が護岸工事、港湾工事、道路建設などにより上陸数を著しく減少させている。さらにこれら以外にも2海岸では砂の流失が見られ、産卵ができなくなっている状況である。

また、牛深市の海岸では卵の盗掘がみられる。上陸確認現地調査結果を除くと、過去 5 年間で上陸又は産卵が確認されている海岸は、牛深市の白鶴浜の 1 ヶ所だけである。

熊本県下の海岸延長距離は 1066.20km あり、そのうちウミガメ類が産卵する可能性のある海岸は 127.65km(12.0%) である。今回上陸又は産卵を確認している海岸距離は 7.70km で、産卵の可能性のある海岸の 6.0% にすぎない。調査結果から判断するとかつて熊本県はアカウミガメの重要な産卵地となっていたと考えられる。

2) 脱出状況調査

脱出の記録及び報告は 1986 年以降に 10 海岸で 17 件ある。17 件のうち、海岸において脱出した稚亀の確認は 5 件、移植は 2 海岸で 5 件、自然ふ化は 5 海岸で 7 件である。移植に関する情報は 1998 年のものである。移植に関しては、移植数以外の情報は無い。自然ふ化は脱出数の情報が得られている。また、1998 年には盗掘も確認されており、牛深市の小白浜海岸で 1 巣、福浦海岸で 1 巣、黒崎海岸で 2 巣、仕付海岸で 4 巣、外大首海岸で 2 巣、大首海岸で 4 巣、計 14 巣が確認されている。移植及び自然ふ化の脱出結果を表 146 と表 147 に示す。

1998 年に 2 海岸で 5 巣 723 卵が移植されている。平均卵数は 144.6 個、最多は 178 個で最少は 118 個である。自然ふ化では、内田海岸の脱出数が不明な 2 例を除いて平均脱出率を求めると、産卵数 584 個、脱出数 299 頭で、平均脱出率は 51.2% となる。

表 146. 熊本県における 1998 年のアカウミガメの移植状況

海岸名	移植数
引坂海岸	118
白鶴海岸	178・143・151・133

表 147. 熊本県におけるアカウミガメの自然ふ化による脱出状況

海岸名	産卵数	脱出数	脱出率(%)	備考
牛水海岸	123	0	0.0	1990 年
富岡海水浴場	110	0	0.0	1998 年
内田海岸	113	107	94.7	1998 年
	約 60	-	-	1998 年、脱出数不明
	68	-	-	1998 年、脱出数不明
小白浜海岸	120	78	65.0	1998 年
福浦海岸	118	114	96.6	1998 年
合計	*584	299		

*内田海岸の脱出数不明の 2 例を除く

3) 漂着・漂流及び混獲など

漂着死体は 1998 年に須賀無田海岸で確認されたアオウミガメ 1 個体が記録されている。この個体の性別や甲長は記録されていない。また、聞き取り調査では都呂呂漁港と白浜海岸において、時々ウミガメの漂着があるとの情報を確認している。

4) 上陸確認現地調査

上陸確認現地調査は、上陸・産卵砂浜実績調査で実施した対象海岸のうち牛深市の砂月海岸を除いた海岸で行われている。調査状況を表 148 に示す。調査の行われた 26 海岸のうち、16 海岸に上陸がみられている。調査対象海岸距離は 26 海岸 7.18km で、そのうちの 16 海岸 4.05km (56.4%) に上陸がみられている。これは、熊本県全体のウミガメが産卵する可能性のある海岸の 3.1% である。確認された上陸数は 92 上陸である。産卵は未確認のところもあるが、合計で 33 産卵を確認している。

熊本県の海岸は、海岸の砂の消失がウミガメの産卵に大きく影響を及ぼしている。港湾工事、護岸工事、道路の設置などが 12 海岸にみられ、海岸の砂は消滅し、ウミガメの産卵が不可能になる転石海岸へと変貌している。この調査により、かつて上陸及び産卵がみられていた海岸の 3 海岸は産卵が不可能で、2 海岸は産卵が困難となっている。また、産卵場としてウミガメの利用は、有明海、島原湾、八代海で見られなくなっている。現在まとまった産卵が観察されているのは、五和町、苓北町、天草町、牛深市のある下島の天草灘に面した海岸のみである。しかし、最も産卵が多くみられる牛深市の海岸で、すでに全国的にあまりみられなくなったウミガメ卵の盗掘が 14 巣と、かなりの高率で観

表 148. 熊本県におけるアカウミガメの上陸確認現地調査状況

調査地区	海岸名	開始日	終了日	回数	上陸数	備考
1	牛水海岸	5.10	5.10	1	0	
2	長浜海岸	7.31	7.31	1	0	産卵は極めて希
3	マリンパークビーチ	6.13	6.13	1	0	
4	鶴ヶ浜海水浴場	6.13	6.13	1	0	
5	七つ割海岸	7.31	7.31	1	0	
6	上津浦海岸	5.30	5.30	1	0	近年の上陸なし
7	引坂松原海岸	5.30	8.01	8	14	1 産卵確認
8	引坂海岸	7.04	8.01	3	7	産卵困難
9	通詞島	7.12	7.12	1	0	産卵不可能
10	富岡海水浴場	8.14	8.14	1	1	1 産卵確認
11	白木尾海岸	6.07	7.18	4	8	未産卵を確認。産卵困難
12	内田海岸	8.08	8.22	3	6 以上	6 産卵をふ化稚亀により確認
13	都呂呂海岸	7.26	7.26	1	0	産卵不可能
14	白鶴浜	6.04	8.03	6	7 以上	7 産卵を確認
15	須賀無田海岸	7.26	7.26	1	0	
16	魚貫崎海岸	7.03	7.03	1	0	産卵不可能
17	甚平浦	7.09	7.09	1	1	東側に複数の上陸跡あり
18	二松郷	8.07	8.20	2	4	産卵は未確認
19	白浜海岸	6.03	7.14	3	3	1 産卵は確認、雨により流失
20	小白浜海岸	5.09	8.30	8	7	1 産卵以上あり、1 盗掘
21	福浦海岸	6.17	8.30	4	4	2 産卵、うち 1 盗掘
22	黒崎海岸	5.27	7.11	4	5	3 産卵、うち 2 盗掘
23	仕付海岸	5.18	7.11	6	7	5 産卵、うち 4 盗掘
24	外大首海岸	5.18	7.11	5	6	産卵は未確認で 2 盗掘
25	大首海岸	5.09	7.16	8	10	産卵は未確認で 4 盗掘
27	大島	8.23	8.23	1	2	産卵は未確認
合計				77	92 以上	33 産卵以上

察されている。そのため、地元住民、県警察、県自然保護課などによるウミガメ産卵巣の保護のためにパトロールも始められている。

5) 上陸・産卵砂浜環境調査

熊本県では、熊本県希少野生動植物の保護に関する条例があり、平成7年2月に熊本県全域でアカウミガメがその対象となっている。以下に各海岸の状況を示す。

- ・調査地区 1/牛水海岸(荒尾市)

陸域は県指定の「有明海岸松並木」と海岸堤防が続き、直接的な光などの影響は少ないと考えられる。戦後間もない頃までは産卵に来ていたようだが、現在では海岸は砂が少なく高さが不足し、産卵場所としては厳しい状況にある。

大きな干満の差による2kmを超える大きな干潟が形成される。

- ・調査地区 2/長浜海岸(宇土市)

広い干潟が広がりアサリ貝が採れる浜である。浜の陸域は国道が通っており、車のライトが浜に当たる。

- ・調査地区 3/マリンパークビーチ(芦北町)

入り江に砂を養浜した人工ビーチである。道路より下にある。本来は転石と岩礁であった。

- ・調査地区 4/鶴ヶ浜海水浴場(芦北町)

入り江に砂を養浜した人工ビーチである。浜の横を道路が通っている。

- ・調査区 5/七つ割海岸(大矢野町)

道下の海岸で、旅館が1軒あり、夏場は海水浴場となる。現在は砂が少なく、狭くて産卵は困難である。

- ・調査地区 6/上津浦海岸(有明町)

以前は川の河口できれいな砂浜があったが、現在はそのほとんどが漁港となり、僅かに残された部分も上陸地としては不適となっている。

- ・調査地区 7/引坂松原海岸(五和町)

陸側を国道が通っているが、波受け護岸と松林の植栽及び休憩所の幅により車のライトが直接近くから浜を照らすことはない。国道を新たに海岸に通したため浜の奥行きがなくなり、砂の堆積量が少なくなっている。また、ゴミ類が道路から捨てられたものが多く含まれている。今回初めて産卵を確認したが、上陸状況から毎年1回から2回ほどの産卵の可能性があり、貴重な海岸であるため、特にゴミに対する対応が必要と考えられる。

- ・調査地区 8/引坂海岸(五和町)

海岸に新たに国道を通したため、砂の堆積がなく、産卵場所がほとんどない状況にある。引坂の集落と国道を挟んで面しており、海岸でゴミを焼く人が多い。

- ・調査地区 9/通詞島(五和町)

有明海の早崎の瀬戸に面しており、島の海岸の浅い窪地に砂がたまっていたが、海岸護岸で消失している。

・調査地区 10/富岡海水浴場(苓北町)

外洋に面した人工の海水浴場で、両岸には突堤があり、前面は消波ブロックの離岸堤が設置されており、袋状となっている。砂浜には基盤の丸石が混ざっており、産卵に適した海岸とは言えない。

・調査地区 11/白木尾海岸(苓北町)

天草地方の重要な上陸産卵地であったが、南側に石炭火力発電所の埋め立てが行われ、砂が沖に年々流出し、この年はほとんど消失している。僅かに残された砂の場所へウミガメは上陸してくる。波乗りをする若者が多い。

・調査地区 12/内田海岸(苓北町)

前年度まで調査対象から外されていた海岸である。白木尾海岸の南端にあたり、すぐ南は発電所の埋め立て地である。生コン会社の下にあり、ほとんど人が訪れることはない。一部国道に面しているが道路の位置が高く、影響が少ないと考えられる。生コン会社から海岸に車が降りられるため、コンクリートなどが捨てられている。海岸の中で砂が十分に堆積している場所は一部であり、今後は砂の安定度の継続調査が必要である。

・調査地区 13/都呂呂海岸(苓北町)

港ができるまでは部分的に砂が堆積していたらしい。現在は港の防波堤に囲まれ転石となっている。

・調査地区 14/白鶴海岸(天草町)

アカウミガメの産卵が7産卵確認されているが、付近は海水浴客の往来が激しいため、ふ化場を2ヶ所設置した。この浜は、今年度から高潮による被害を防ぐために、階段式護岸の改修工事と海浜の養浜改修を行う工事に入る。

・調査地区 15/須賀無田海岸(天草町)

以前の護岸により、砂の堆積が少なく、転石と岩礁の海岸となっている。砂の変動が大きい。周囲に人家はない。

・調査地区 16/魚貫崎海岸(牛深市)

1970年代までは、県内でも有数のすばらしい白砂の砂浜であった。そのため毎年上陸及び産卵がみられていたとのことである。1980年代になり小さな漁港の突堤工事とレストハウスの建設のため、海岸の一部の埋め立てにより、砂が流失している。現在は、転石の海岸にテトラポットがおいてある。

・調査地区 17/甚平浦(牛深市)

この付近は、現在個人が真珠の養殖を行っている。

・調査地区 18/二松郷(牛深市)

二輪車(バイク)は進入可だが、車は進入禁止となっている。これまでウミガメの卵が盗掘されている。

・調査地区 19/白浜海岸(牛深市)

近年、夏期だけではなく、春期も海水浴客等の観光客が多く、海岸に来る人数は増加傾向にある。7月から9月のシーズン中は、隔日に海岸清掃を実施している。

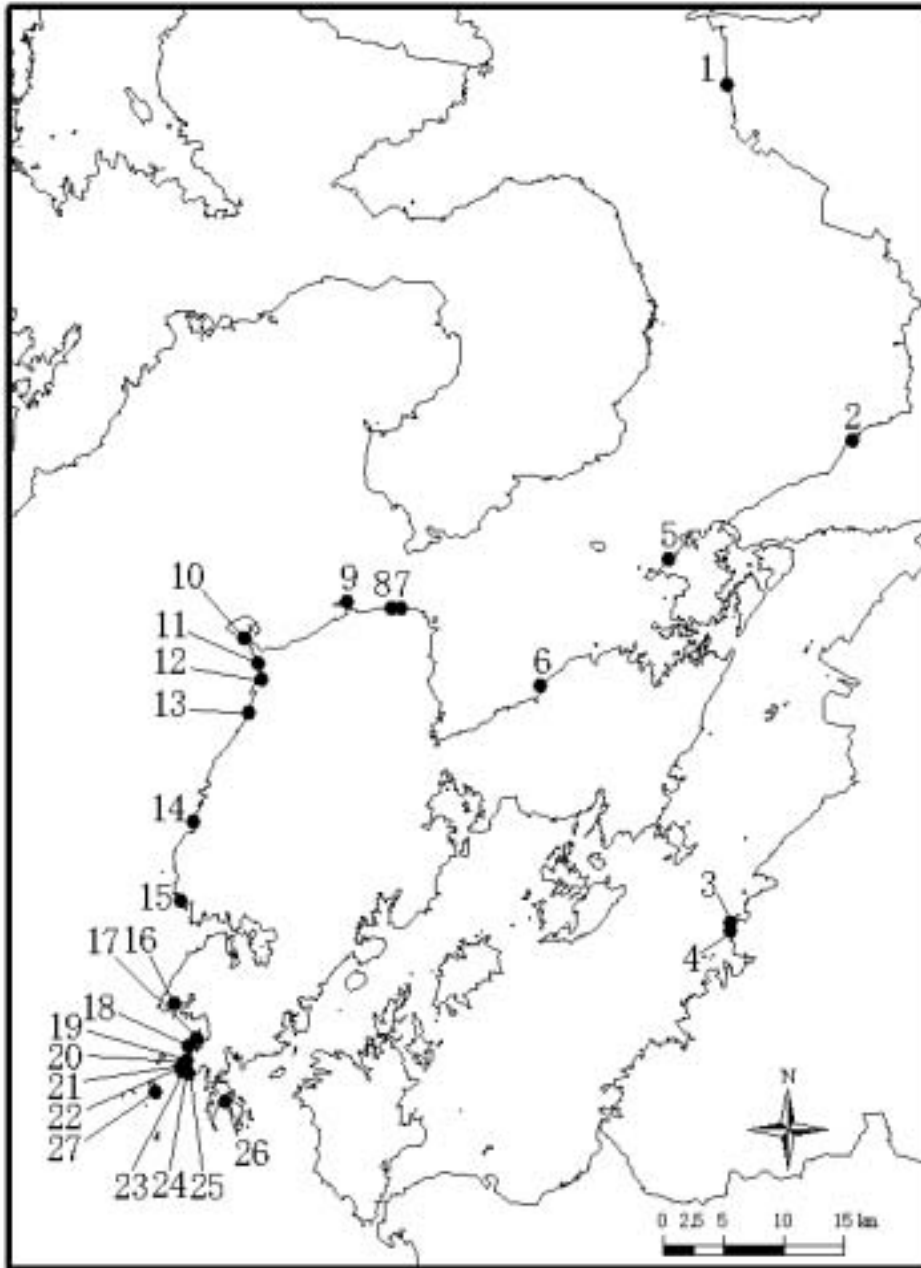
- ・調査地区 20/小白浜海岸(牛深市)
近年、夏期の海水浴シーズンにこの海岸を訪れる人が多くなっている。沖合に定置網が設置してある。
- ・調査地区 21/福浦海岸(牛深市)
海岸までの連絡道(遊歩道)を整備し、駐車場はシーズン中には有料として管理されている。
- ・調査地区 22/黒崎海岸(牛深市)
漂着ゴミが多く、目立っている。気象条件により、特に多い時と少ない時がはっきりしている。この海岸では盗掘が確認されている。沿岸にはカシ網を使用した漁が行われているのを目撃している。
- ・調査地区 23/仕付海岸(牛深市)
黒崎海岸と同様に、漂着ゴミが多く、目立っている。気象条件により、特に多い時と少ない時がはっきりしている。この海岸では盗掘が確認されている。沿岸にはカシ網を使用した漁が行われているのを目撃している。
- ・調査地区 24/外大首海岸(牛深市)
黒砂の海岸である。産卵地としての砂の量は少ないが、人の出入りもなくウミガメの上陸に影響のない海岸である。
- ・調査地区 25/大首海岸(牛深市)
二輪車を除き、車両の進入を禁止しているが、毎年車が進入しウミガメ卵が盗掘されている。
- ・調査地区 26/砂月海岸(牛深市)
護岸の設置により、ウミガメの上陸はほとんどなくなっている。また、海岸の工事により砂浜の奥行きが減少している。
- ・調査地区 27/大島(牛深市)
現在無人島のため、近年調査を行っていないが、以前人が住んでいた頃からも港の海浜では上陸が確認されており、今回の調査でも上陸の足跡を確認している。

6) 資料リスト

記録なし。

7) 担当者リスト

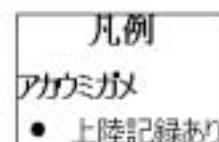
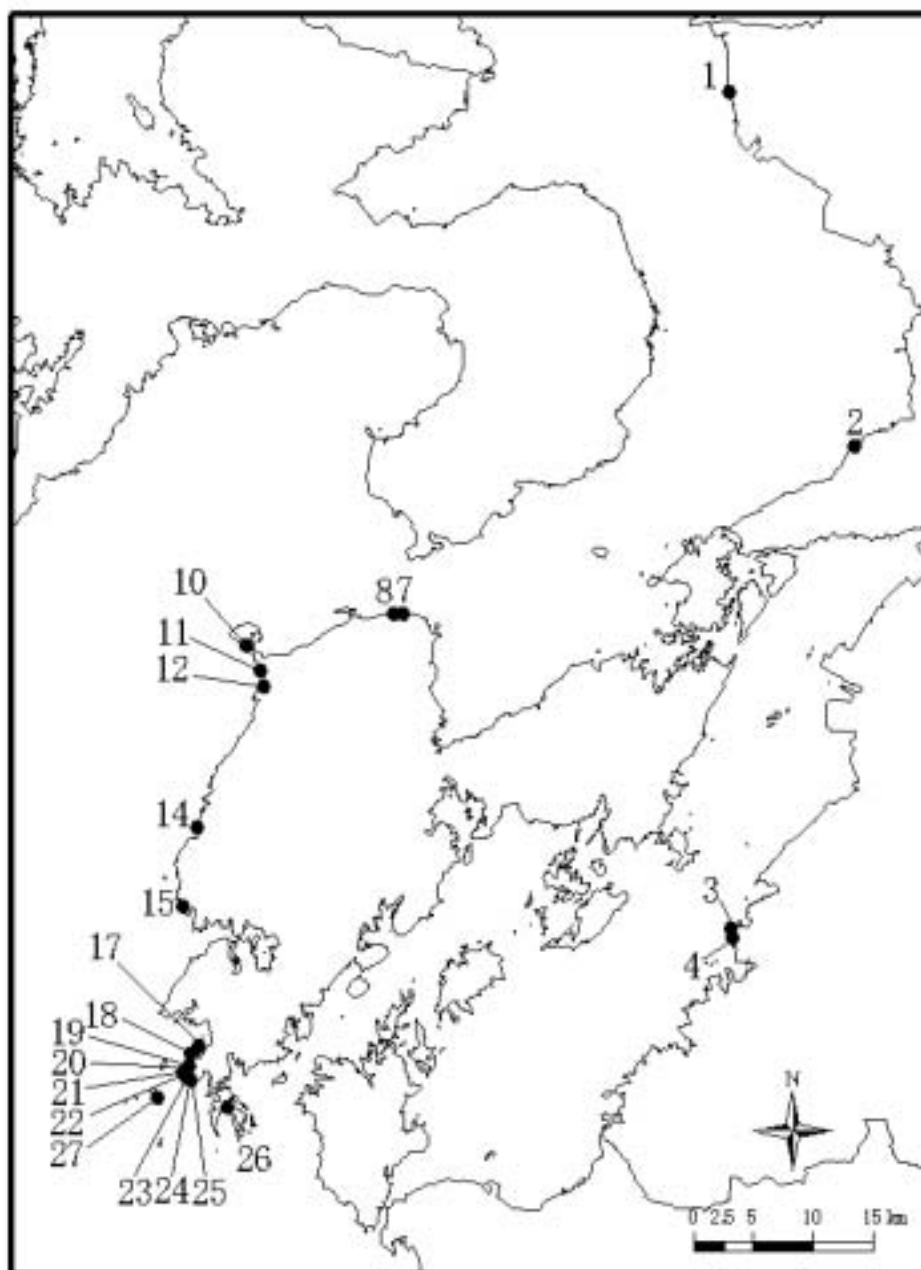
氏名	所属
吉崎 和美	天草郡姫戸小学校教員
山本 松義	自然環境保全調査員
宮口 光敏	天草町役場職員
松本 憲二郎	熊本県自然保護課



凡例
● 調査地点

調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名
1	牛水海岸	8	引坂海岸	15	須置黒田海岸	22	黒崎海岸
2	長浜海岸	9	遠阿島	16	魚買崎海岸	23	仕付海岸
3	マンパークビーチ	10	富岡海水浴場	17	碓平浦	24	外大首海岸
4	鶴ヶ浜海水浴場	11	白木尾海岸	18	二松御	25	大首海岸
5	七つ割海岸	12	内田海岸	19	白浜海岸	26	砂月海岸
6	上津浦海岸	13	都呂呂漁港	20	小白浜海岸	27	大島
7	引坂松原海岸	14	白鶴浜	21	福浦海岸		

調査地点一覧(熊本県)



アカミガメ上陸地点(熊本県)

(21) 長崎県 調査年：1998年

● 県下の海岸状況

海岸延長距離	4177.26km	うち島嶼域	3129.75km
自然海岸砂浜	164.68km	うち島嶼域	116.29km
半自然海岸砂浜	157.67km	うち島嶼域	69.47km
産卵海岸の合計	322.35km	うち島嶼域	185.76km

● 上陸・産卵砂浜実績調査

対象地区数	21区	対象海岸数	21	対象海岸距離	11.75km (消滅した4海岸を除く)
産卵地区数	21区	産卵海岸数	21	産卵海岸距離	11.75km (消滅した4海岸を除く)

● 上陸確認現地調査

調査地区数	2区	調査海岸数	2	調査海岸距離	0.98km
産卵地区数	0区	産卵海岸数	0	産卵海岸距離	0km

1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

・ 調査実施方法

参考文献の収集及び識者への聞き取りにより上陸及び産卵海岸の把握を行うとともにさらに捕獲地点の情報を収集し、ウミガメ類の回遊の可能性を検討した。これらの結果を受け、回遊してきているがウミガメの上陸及び産卵の情報が空白地帯である地域を抽出し(平戸地区)、上陸確認調査を実施した。

・ 上陸及び産卵状況の概要

長崎県におけるウミガメ類の上陸及び産卵の実績を有する海岸は、今回調査では21ヶ所を数える。聞き取りにより上陸の可能性が他の地域にもあるのではとの話を聞いたが、不正確なものが多く、今回のデータとしては取り扱っていない。また、文献として残っているものとなると僅かであり、かつ正確な確認年、産卵数、上陸頭数などのデータはほとんどないのが現状である。このような状況の中で、長崎水族館へのウミガメ類の持ち込み記録は本県におけるウミガメ類の回遊、また上陸及び産卵の可能性を判断する上で希少な資料となっている。

調査地区番号の15及び16は上陸確認現地調査と上陸・産卵砂浜環境調査の対象海岸となっており、ここには記載されていない。

・ 調査地区 1/野田浜(加津佐町)

浦田(1981)によると、この海岸で2頭のアカウミガメがふ化したのを確認しているが、これが産卵巣を示すのか、稚亀の頭数を示すのかが不明である。また、これを確

認した年は不明である。

・調査地区 2/前浜(加津佐町)

浦田(1981)によると、この海岸をウミガメ類の産卵場所としている。詳細は不明である。

・調査地区 3/白浜(口之津町)

この海岸では 1990 年以降、継続的な調査が個人によりなされている。アカウミガメの上陸及び産卵状況を表 149 に示す。1994 年と 1998 年を除き毎年上陸がみられている。

表 149. 恋の浦におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況

年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
上陸数	1	1	1	2	0	3	1	1	0
産卵数	1	1	1		0	2		1	

*空欄は未調査

・調査地区 4/東望海岸(長崎市)

1963 年に 10 月 12 日に長崎水族館に持ち込まれたアカウミガメのふ化稚亀の記録によると、この海岸でふ化したものであると推測されている。詳細は不明である。この海岸は現在消滅している。

・調査地区 5/網場海岸(長崎市)

1963 年に 10 月 13 日に長崎水族館に持ち込まれたアカウミガメのふ化稚亀の記録によると、この海岸でふ化したものであると推測されている。詳細は不明である。この海岸も現在消滅している。東望海岸とこの海岸は、かつては隣接して存在したと考えられ、またこの海岸からふ化稚亀が持ち込まれた日は、東望海岸から持ち込まれた翌日であることから、上記のふ化稚亀と同一産卵巣である可能性も考えられる。

・調査地区 6/筒城浜(石田町)

山口(1977)によると、詳細な記録はないが、この海岸はアカウミガメの産卵場所とされている。

・調査地区 7/錦浜(石田町)

山口(1977)によると、詳細な記録はないが、この海岸はアカウミガメの産卵場所とされている。

・調査地区 8/高浜(野母崎町)

個人への聞き取りによると、1989 年から観察が行われている。1989 年から 1996 年まで詳細は不明だが、上陸が確認されている。1997 年は 1 上陸で産卵は不明、1998 年は 1 上陸 1 産卵である。種は不明であるがアカウミガメと推測される。かつては年に 4 頭から 5 頭上陸がみられている。

・調査地区 9/田ノ子海岸(長崎大学水産臨海実験場裏)(野母崎町)

1982 年に長崎水族館に持ち込まれたアカウミガメのふ化稚亀の記録によると、この海岸でふ化したものであると推測されている。詳細は不明である。

・調査地区 10/脇岬(北港)(野母崎町)

町役場への聞き取りによると、1998 年にアカウミガメが 1 上陸したが、人工海浜のため産卵できず海に戻った。この海岸は脇岬の西側にある漁港内の人工海浜である。

- ・調査地区 11/脇岬(野母崎町)

この海岸は上記と同名であるが、脇岬の東側に位置する。浦田(1981)によると、詳細は不明だが、この海岸はウミガメ類の産卵場所となっている。町役場によると、1998年に種不明の1上陸1産卵を確認している。地元住民の話によると、約30年ほど前は6月から7月の大潮の夜に20頭のウミガメが上陸したのを確認している。
- ・調査地区 12/里平(樺島)(野母崎町)

町役場によると、約10年ほど前に種は不明だが、2上陸を確認している。
- ・調査地区 13/雪浦(大瀬戸町)

浦田(1981)によると、詳細は不明だが、この海岸はウミガメ類の産卵場所となっている。
- ・調査地区 14/三重海岸(長崎市)

1982年に長崎水族館に持ち込まれたアカウミガメのふ化稚亀の記録によると、この海岸でふ化したものであると推測されている。詳細は不明である。現在この海岸は消滅している。
- ・調査地区 17/江ノ浜(有川町)

山口(1981)によると、詳細な記録はないが、この海岸はアカウミガメの産卵場所とされている。
- ・調査地区 18/野崎島野首海岸(小値賀町)

町役場自然保護課によると、詳細は不明だが、種不明の1産卵を確認している。福田と藤本(1997)によると、1996年に詳細は不明だが、上陸及び産卵を確認している。
- ・調査地区 19/高井旅(奈良尾町)

山口(1981)によると、詳細な記録はないが、この海岸はアカウミガメの産卵場所とされている。
- ・調査地区 20/赤島(福江市)

山口(1981)によると、詳細な記録はないが、この海岸はアカウミガメの産卵場所とされている。
- ・調査地区 21/大宝(玉之浦町)

山口(1981)によると、詳細な記録はないが、この海岸はアカウミガメの産卵場所とされている。
- ・調査地区 22/茂木浜(上対馬町)

浦田(1981)によると、詳細な記録はないが、この海岸はウミガメ類の産卵場所とされている。町役場によると1970年以降毎年上陸を確認しているが、産卵が確認されたのは1980年の種不明の1産卵のみである。
- ・調査地区 23/久和海岸(厳原町)

山口(1981)によると、この海岸に上陸したアカウミガメが捕獲されているが、詳細な記録はない。現在この海岸は消滅している。

●長崎県のまとめ

長崎県下では、21 海岸においてウミガメ類が産卵したと推測されている。しかし、この内すでに 4ヶ所の海岸は消滅している。長崎県は全国で最も海岸線の長い県で、その海岸距離は 4177.26km ある。そのうちウミガメ類が産卵する可能性のある海岸は、322.35km(7.7%)である。今回確認された 21ヶ所の海岸のうち、東望海岸、網場海岸、三重海岸、久和海岸は現在消滅しており、この 4 海岸を除いた海岸距離は 11.75km となり、産卵の可能性がある海岸の 3.6%である。

過去 5 カ年で上陸又は産卵が確認されている海岸は、白浜、高浜、脇岬、里平、高井旅、茂木浜の 6 海岸で 1.98km である。長崎県下の最近の産卵雌ガメの頭数は、年間に数頭程度と考えられる。

2) 脱出状況調査

脱出の記録及び報告は 1982 年以降に 4 海岸で 5 件ある。1982 年に田ノ子海岸で 49 頭のふ化稚亀を確認、同年に三重海岸で 1 頭のふ化稚亀を確認している。白浜では、1992 年に 1 巢 106 個の卵を移植し 96 頭(ふ化率 ; 90.6%)のふ化稚亀が脱出し、1997 年には 1 巢 84 個の卵を移植し 71 頭(ふ化率 ; 84.5%)のふ化稚亀が脱出している。高浜では 1998 年に自然ふ化状況を調査し、約 90 頭のふ化稚亀を確認している。卵数などについては不明である。これら以外に、白浜では 4 例の産卵数の確認がある。1990 年に 126 個、1991 年に 108 個、1995 年に 2 巢で 123 個と 142 個である。

3) 漂着・漂流及び混獲など

漂着死体は白浜において 1994 年、1995 年、1998 年にそれぞれ 1 個体ずつ記録されている。それら 3 個体の種及び性別、甲長に関する記録はない。また、1998 年 9 月 3 日には根獅子港入口の定置網においてアカウミガメ(性別と甲長は不明)の混獲が、1998 年 9 月 4 日には飯良港入口の定置網においてウミガメ(直甲長 85.0cm、種と性別は不明)の混獲がそれぞれ確認されている。

4) 上陸確認現地調査

上陸確認現地調査は平戸市の人津久浜と根獅子浜の 2ヶ所で 6 月 29 日から 9 月 12 日までの間に 12 回行ったが、ウミガメ類の上陸は確認していない。

5) 上陸・産卵砂浜環境調査

・調査方法

調査は該当する市町村への照会及び現地確認により調査を実施した。

・上陸・産卵砂浜の環境の概要

今回調査したウミガメ上陸・産卵の実績を有する 21 海岸において、現在消滅してしまった海岸が 4ヶ所存在する。また、消滅した 4ヶ所の海岸を除いた残りの海岸全において、何らかの人間活動の影響を受けており、人工物が存在する海岸は 12ヶ

所を数える。

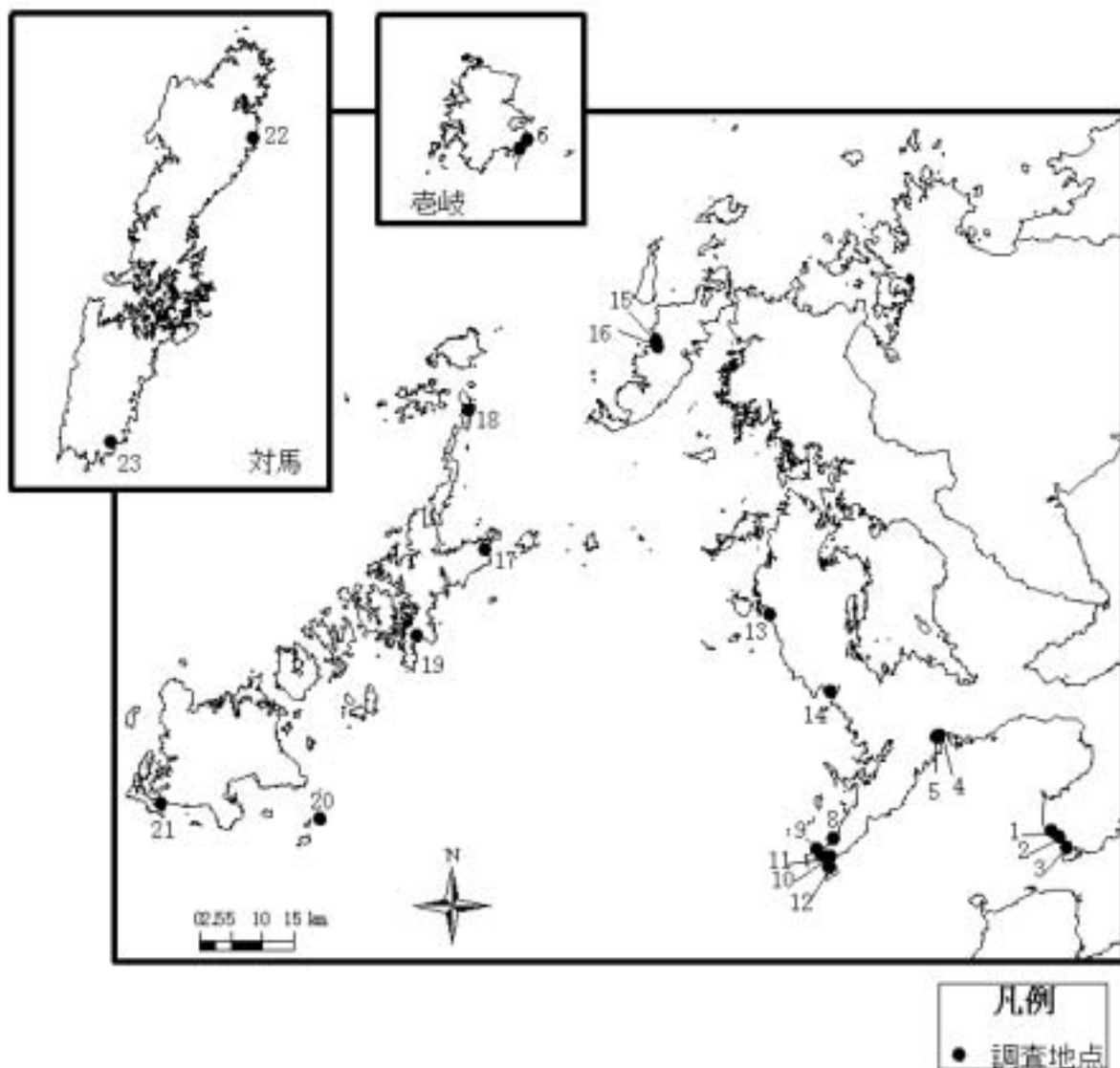
また保護対策がなされている海岸は全くなく、わずか2ヶ所において、ボランティアにより移植による産卵巣の保護がなされているのが現状である。

6) 資料リスト

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
山口 鉄夫	1977	壱岐の爬虫類	壱岐の生物	249～ 275pp
山口 鉄夫	1981	五島の爬虫・両生類	五島の生物	193～ 203pp
浦田明夫	1981	長崎県におけるウミガメの産卵場所 について	五島の生物	205～ 206pp
津田明夫 山口鉄夫	1976	対馬の爬虫類	対馬の生物	255～ 260pp

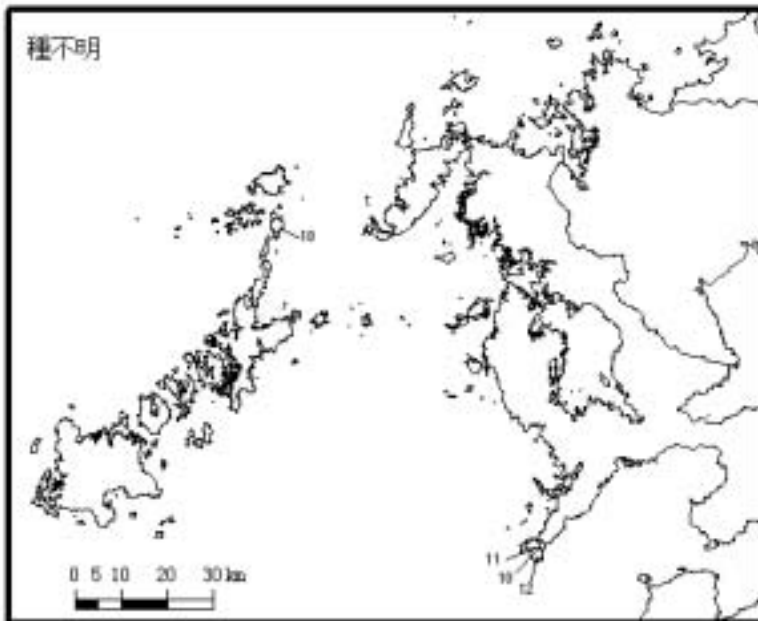
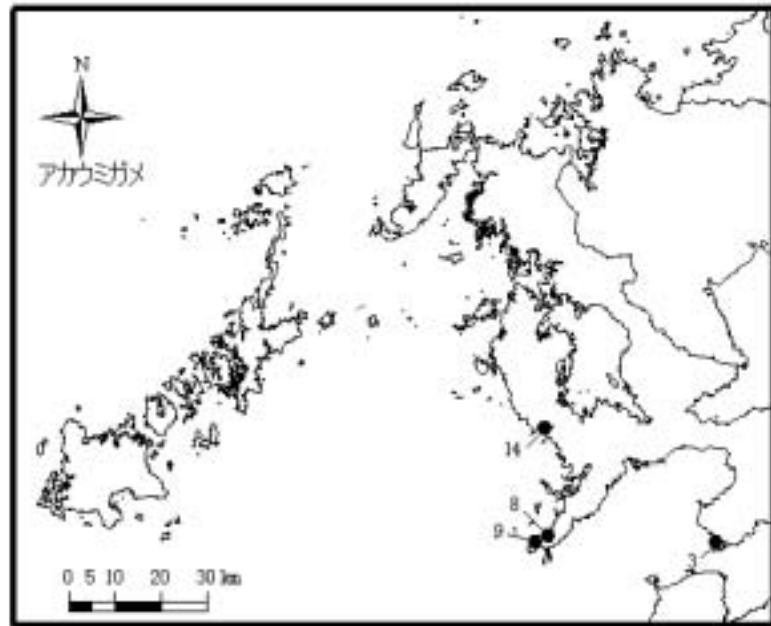
7) 担当者リスト

氏 名	所 属
中西 弘樹	長崎女子短期大学 学長
山道 一志	長崎県生活環境部自然保護課

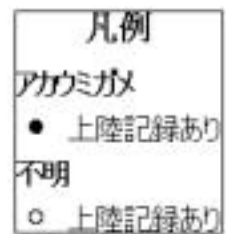


調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名
1	野田浜	9	田ノ平海岸 (長崎大学水産部海産物所裏)	17	江ノ浜
2	前浜	10	船岬(北港)	18	野崎島野首海岸
3	白浜	11	船岬	19	高井旅
4	東望海岸	12	里平(樺島)	20	赤島
5	網場海岸	13	雲浦海岸	21	大室
6	筒城浜	14	三重海岸	22	茂木浜
7	跡浜	15	人津久浜	23	久和海岸
8	高浜	16	根獅子浜		

調査地点一覧(長崎県)



対馬



ウミガメ上陸地点(長崎県)

(22) 佐賀県 調査年：1999年

● 県下の海岸状況

海岸延長距離	364.39m	うち島嶼域	71.55km
自然海岸砂浜	42.17km	うち島嶼域	14.08
半自然海岸砂浜	1.63km	うち島嶼域	0.19km
産卵海岸の合計	43.80km	うち島嶼域	14.27km

玄界灘側	海岸延長距離	280.71km	産卵海岸	43.80km
有明海側	海岸延長距離	83.68km	産卵海岸	0km

● 上陸・産卵砂浜実績調査

対象地区数	7区	対象海岸数	7	対象海岸距離	5.88km
産卵地区数	7区	産卵海岸数	7	産卵海岸距離	5.88km

● 上陸確認現地調査

調査地区数	7区	調査海岸数	7	調査海岸距離	5.88km
産卵地区数	2区	産卵海岸数	2	産卵海岸距離	3.03km

1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

調査は既存の文献調査ならびに現地において足跡の確認調査を行った。また、漁協の職員、漁師、海の家の人などから情報を頂いた。

佐賀県におけるウミガメ類の上陸及び産卵は、佐賀県北部の玄界灘に面した砂浜で知られていたが、文献上の記録は最近までなく、吉田(1998)によりアカウミガメの上陸及び産卵の確認記録が初めて報告されたにすぎない。それによると、アカウミガメの上陸及び産卵が確認されたのは、唐津市唐房(とうぼう)幸多里(こおたり)の浜と唐津市虹ノ松原の2海岸である。

1960年代頃までは海岸の規模が現在よりも大きく、玄界灘に面した多くの海岸に広くアカウミガメが産卵に来ていたようであるが、海岸の規模縮小に伴い産卵地としては風前の灯火である。

・ 調査地区 1/虹ノ松原(唐津市)

吉田(1998)によると、1993年にアカウミガメの1上陸1産卵が確認され、1994年以降1999年まで毎年数頭の上陸があることが確認されている。上陸数や産卵についての詳細は不明である。1999年に関しては未発表データである。昼間は、サーファー、四輪駆動車の乗り入れ、海水浴客が多く、詳しく調査すると産卵の事実が知られ、卵を採取される可能性があり、最小限の調査しかできない。また、夜間も人が多い。

・調査地区 2/西ノ浜(唐津市)

吉田(1998)によると、1993年に上陸数は不明であるが、アカウミガメのふ化稚亀3頭の発見により1産卵を確認している。この海岸では1980年代まで梅雨開け前の静かな浜に上陸していたというが、1990年代からは全く情報がない。

・調査地区 3/唐房湾(唐津市)

吉田(1998)によると、1988年と1995年にそれぞれアカウミガメの1上陸を確認しているが、産卵は不明である。かつて佐志浜と呼ばれていたこの海岸には多くの個体が産卵に来ていたというが、現在埋め立てられ消滅している。

・調査地区 4/幸多里ヶ浜(唐津市)

吉田(1998)によると、1993年に上陸は不明であるがアカウミガメの1産卵が確認され、1994年以降1998年まで上陸があることが確認されている。毎年2頭から3頭のアカウミガメが上陸しているが、夜間の人通りが多く調査は不可能である。産卵数調査も卵の保護と盗掘防止のため行っていない。

・調査地区 5/相賀ノ浜(唐津市)

吉田(1998)によると、1970年代に海岸が浸食されて、砂浜がやせ衰えてからアカウミガメが来遊しなくなっている。1970年以前の記録は確認できていない。

・調査地区 6/立神ノ浜(唐津市)

吉田(1998)によると、1980年以前に地元ではアカウミガメの産卵場所として知られていた。1980年頃から砂の流失が激しくなり、転石帯となり産卵が困難になっている。1999年も、岸から数百メートル沖で親亀が回遊しているとの情報が寄せられている。

・調査地区 7/大友の浜(東松浦郡呼子町)

吉田(1998)によると、1980年頃より砂が減少し現在産卵できるような砂浜が消失している。それまでは多くの個体が産卵に来ていたという情報がある。

●佐賀県のまとめ

これまで佐賀県でウミガメの上陸及び産卵に関する情報が得られているのは7海岸である。佐賀県の海岸延長距離は364.39kmあり、そのうちウミガメ類が産卵する可能性のある海岸は43.80km(12.0%)である。上陸及び産卵の情報が得られた7海岸の距離は5.88kmで、産卵の可能性のある海岸距離の13.4%にあたる。また、産卵の情報は有明海側にはなく、玄界灘に面した側に限られている。有明海側には産卵の可能性のある海岸はない。

過去5カ年で上陸が確認されている海岸は虹ノ松原、唐房湾、幸多里ヶ浜の3海岸であるが、唐房湾は現在埋め立てられて消滅している。産卵は全て確認されていない。虹ノ松原と幸多里ヶ浜の海岸距離は3.03kmである。

2)脱出状況調査

脱出の記録及び報告は、1983年以降に2海岸で3例ある。西の浜で1983年にふ化稚亀を3頭確認、幸多里ヶ浜で1993年に1巢の脱出率が100%を確認、1996年にふ化殻を3個確認している。ふ化や脱出に関する情報はこの3例である。

3) 漂着・漂流及び混獲など

漂着死体は1990年7月26日に唐房湾に漂着した1個体と1998年10月30日に相賀の浜に漂着した1個体が記録されている。2個体とも種は不明であり、性別や甲長に関しても記録はない。

4) 上陸確認現地調査

上陸確認現地調査は、上陸・産卵砂浜実績調査で過去に上陸又は産卵が確認された海岸全てを対象に行った。調査は6月の間に各海岸1回である。調査結果を表150に示す。上陸が確認できたのは、虹ノ松原と幸多里ヶ浜の2海岸である。唐房湾は埋め立てにより消滅、相賀ノ浜、立神ノ浜、大友の浜は海岸が痩せたり砂が流失したりし、ウミガメ類の産卵場所としては不適となっている。

表 150. 佐賀県における上陸確認現地調査状況

調査区	海岸名	上陸数	備 考
1	虹ノ松原	3	
2	西の浜		夜間のライトアップあり
3	唐房湾		埋め立てにより消滅
4	幸多里ヶ浜	有	夜間人通りが多い
5	相賀ノ浜		海岸が細くなり、産卵には不向き
6	立神ノ浜		砂が流失し、転石帯となる。産卵には不向き
7	大友の浜		砂が流失し、転石帯となる。産卵には不向き

5) 上陸・産卵砂浜環境調査

調査方法は、佐賀県内で個人が1982年以降継続している漁協や漁師などからの聞き取りや夜間の現地踏査による確認により、回遊、上陸、産卵、ふ化稚亀の状況把握の一環として行った。かつては佐賀県北部の玄界灘に面した海岸にはアカウミガメが産卵に来ていたようで、それらの海岸に共通していたのは、きれいな砂浜が弧を描き、海浜性の植物群落が茂らないところから波打ち際までかなりの距離があったことである。現在ではアカウミガメの産卵に適した砂浜は極僅かで、海岸の砂の減少原因として次のようなことが考えられる。

- ① 唐津湾に流入する河川の各地に砂防ダムができたため湾内への砂の供給が減少した。
- ② 海砂採取によって海底の地形が変化し、それに伴う沿岸流の変化により海岸の浸食が始まった。
- ③ 火力発電所、下水道終末処理場、ヨットハーバー、工場団地建設のための埋め立てや防波堤の建設によって沿岸流が変化し、泥の堆積が始まった。
- ④ 台風などの高波などの自然現象による砂の流失がみられる。

海岸の減少に追い打ちを掛けるように、釣りブームによる夜釣りや海岸での夜遊びのため、夜も海岸に人の気配がするようになっている。最近のアウトドアブームによる四

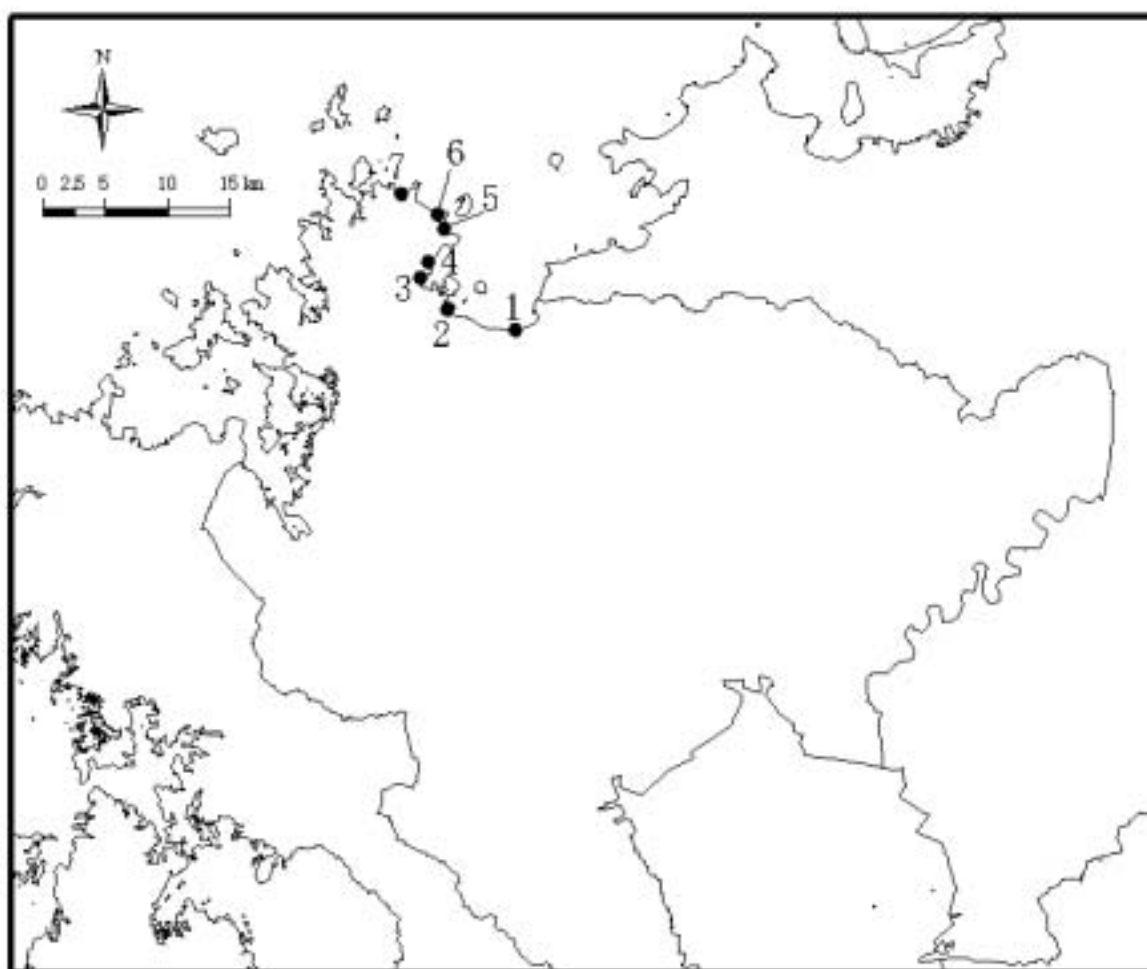
輪駆動車の海岸への乗り入れも見受けられ、ウミガメの上陸及び産卵はさらに困難に成りつつある。現状では佐賀県下でのウミガメの産卵はほとんど知られていないが、広く知られ渡ると卵の盗掘などの可能性もある。

6) 資料リスト

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
吉田 喜美明	1998	佐賀県のアカウミガメの記録	佐賀自然史研究 vol. 1, No. 4, 1998	156-164

7) 担当者リスト

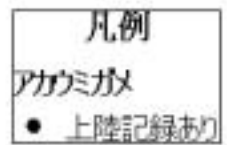
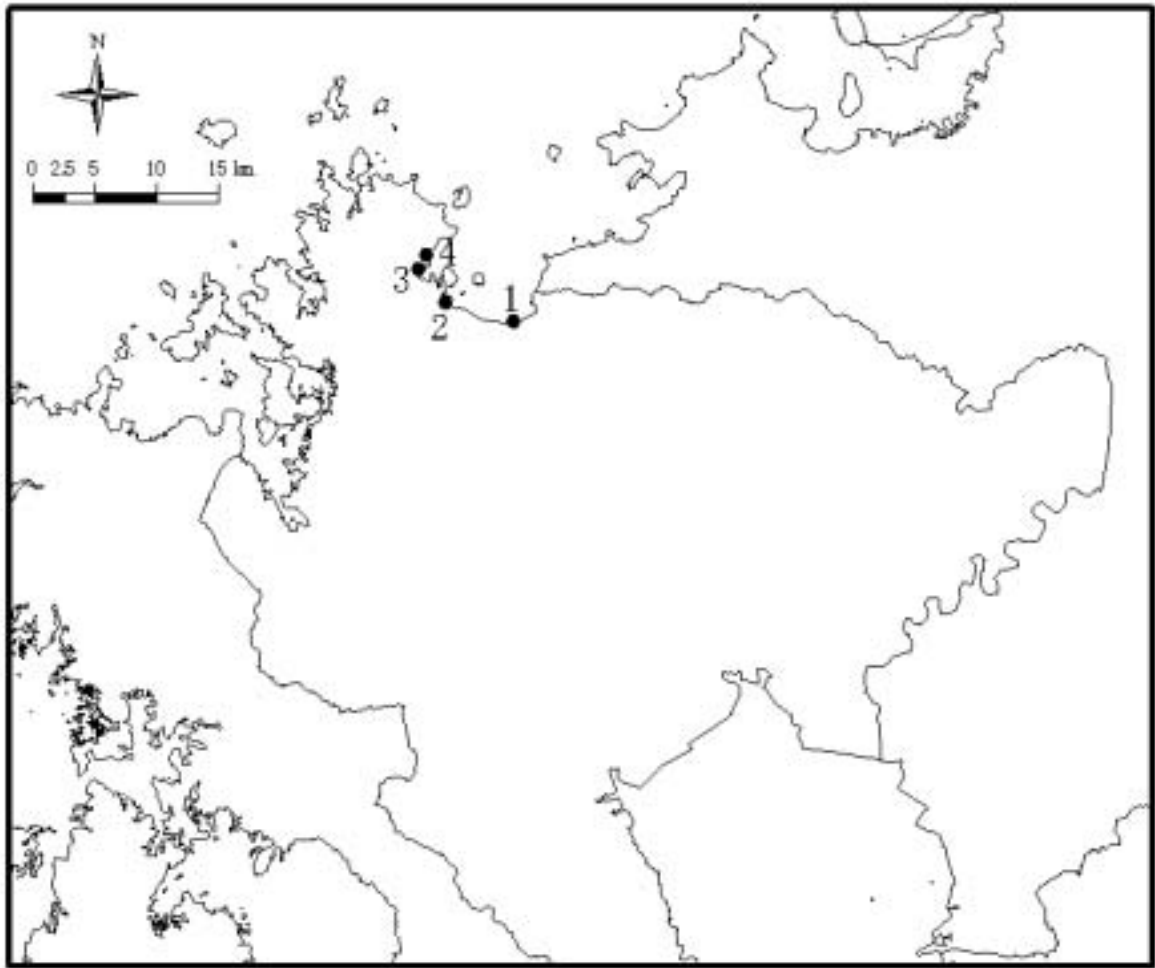
氏 名	所 属
吉田 喜美明	日本爬虫両生類学会員



凡例
● 調査地点

調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
1	虹ノ松原	5	相賀ノ浜
2	西ノ浜	6	立神ノ浜
3	唐房湾	7	大友の浜
4	幸多里ヶ浜		

調査地点一覧(佐賀県)



アカウミガメ上陸地点(佐賀県)

(23) 福岡県 調査年：1999年

● 県下の海岸状況

海岸延長距離	605.99km	うち島嶼域	102.64km
自然海岸砂浜	65.26km	うち島嶼域	6.50km
半自然海岸砂浜	48.73km	うち島嶼域	5.32km
産卵海岸の合計	113.99km	うち島嶼域	11.82km

玄界灘側(北九州市の周防灘も含む)	海岸延長距離	512.09km	産卵海岸	103.67km
周防灘側	海岸延長距離	66.00km	産卵海岸	10.32km
有明海側	海岸延長距離	27.90km	産卵海岸	0km

● 上陸・産卵砂浜実績調査

対象地区数	14区	対象海岸数	14	対象海岸距離	7.63km
産卵地区数	14区	産卵海岸数	14	産卵海岸距離	7.63km

1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

福岡県のウミガメ類の産卵地は玄界灘に面した14ヶ所の海岸である。三里松原と恋の浦の2海岸は自治体や保護団体により定期的な調査が行われており、これらウミガメ類に関する情報は町の広報誌などで見ることができる。また学校教育の教材としてアカウミガメの産卵を郷土の貴重な自然として用いるなど、地元住民のウミガメに対する関心も比較的高い。

アカウミガメの産卵地は、太平洋に比べて日本海沿岸では少なく、環境庁の第2回自然環境保全基礎調査では福岡県からのデータはなかった(環境庁, 1980)。今回の調査で福岡県の各所で産卵記録のあることが判明し、個体数は少ないとはいえ、日本沿岸における有数の産卵地とみなすことができる。

現地での聞き取り調査の結果では、複数の浜で過去にはウミガメ類の生息状況が得られ、白石浜では30年くらい前までは比較的普通にウミガメ類の産卵がみられ、同様に大口海岸では海水浴の際にしばしば足がウミガメに触れるくらい生息していたということであった。

県下のウミガメ類の上陸及び産卵に関するまとまった報告や論文はみあたらない。わずかに石井(1999)、橋元(1997)によって略述されているのみである。上陸及び産卵の記録は、新聞紙上やテレビで報道されるものの他、個人的な記録指定残されているに過ぎない。従って、今回の調査では新聞記事の検索から始め、その記事や町役場などから得た情報を基に、できる限り発見者又は直接調査に関与した人から話を聞き、現場に案内してもらった。

津屋崎町では、ウミガメ保護団体の調査結果の他、九州大学農学部の嶺井久勝氏から

ウミガメの調査記録や漂着記録を提出していただいた。岡垣町では、町役場の地域振興課が保護活動を行っており、毎年記録を取っているほか、個人的に観察を続けている人もいる。残念ながらこれらの記録は公表されていない。

・調査地区 1/脇田海岸(北九州市)

北九州市役所経済局マリノベーション推進室発行の「脇田海水浴場におけるウミガメの産卵場所について」(1999)によると、1996年にアカウミガメの1上陸1産卵が確認されている。

・調査地区 2/乙丸海岸(北九州市)

脱出状況を調査している個人からの聞き取りによると、1999年にアカウミガメの1上陸1産卵を確認している。

・調査地区 3/三里松原(岡垣町)

岡垣町地域振興課が保護活動や個人的に調査を行っている人からの聞き取り調査によると、1989年から1992年までの4年間で、詳細は不明であるが毎年アカウミガメの上陸及び産卵が確認されている。1994年は3上陸3産卵、1996年は3上陸2産卵、1999年は2上陸2産卵である。これらは全てアカウミガメである。1999年の2巣のうち、1巣は台風18号により流失している。

・調査地区 4/さつき松原(玄海町)

個人の観察により、1985年にアカウミガメの1上陸1産卵が確認されている。

・調査地区 5/神湊海岸(玄海町)

個人の観察と新聞報道により、1984年と1985年に詳細は不明だがアカウミガメの上陸及び産卵の確認がされている。これらの確認は、ふ化稚亀の発見によるものである。1994年にも1上陸1産卵が確認されている。

・調査地区 6/勝浦浜(津屋崎町)

個人の観察と新聞報道により、1987年と1989年に詳細は不明だがアカウミガメの上陸及び産卵の確認がされている。

・調査地区 7/白石浜(津屋崎町)

個人の観察により、1994年に上陸は不明であるがアカウミガメの1産卵を確認している。1999年にも上陸があることが確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 8/恋の浦(津屋崎町)

恋の浦ウミガメの会や個人の観察により、1993年以降定期的な調査がなされている。1987年に詳細は不明だが、アカウミガメの上陸及び産卵が確認されている。表151に1993年以降のこの海岸における上陸及び産卵状況を示す。

表 151. 恋の浦におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
上陸数	有	有		有	有	4	5
産卵数	有	有		有	2	4	3

・調査地区 9/福岡海岸(福岡町)

石井忠著「漂着物事典」(1999)によると、1988年にふ化稚亀の確認により、アカウミガメの少なくとも1産卵が確認されている。上陸数は不明である。

・調査地区 10/新宮浜(古賀市)

個人の観察により、1990年にアカウミガメの1上陸1産卵が確認されている。

・調査地区 11/海の中道(福岡市)

石井忠著「漂着物事典」(1999)と個人からの聞き込みによると、1987年に産卵は不明であるが、上陸を確認、1995年にアカウミガメの産卵は不明だが1上陸を確認している。

・調査地区 12/長浜海岸(福岡市)

石井忠著「漂着物事典」(1999)によると、1982年にアカウミガメの上陸及び産卵を確認している。詳細については不明である。

・調査地区 13/大口海岸(志摩町)

個人の観察により、1993年にふ化稚亀の確認によりアカウミガメの上陸及び産卵が確認されている。詳細については不明である。

・調査地区 14/芥屋海岸(志摩町)

新聞情報によると、1999年にふ化稚亀の確認によりアカウミガメの上陸及び産卵が確認されている。詳細については不明である。

●福岡県のまとめ

福岡県下の海岸延長距離は605.99kmである。そのうち、113.99kmがウミガメ類の産卵する可能性がある海岸となっている。今回の調査でウミガメ類が産卵している海岸は14海岸で7.63km、産卵の可能性のある海岸の6.7%にあたる。産卵がみられているのは玄界灘のみであり、玄界灘の産卵の可能性のある海岸は103.67kmであり、この場合は7.4%となる。県下の産卵実績は1982年以降、1983年と1986年を除き、30例の上陸及び産卵があり、複数の海岸で上陸及び産卵が毎年みられている。過去5カ年では6海岸で11例の上陸及び産卵がみられ、年間に2.2例、1海岸あたり0.37例となる。その中でも、恋の浦は毎年上陸及び産卵がみられている海岸である。詳細な上陸数及び産卵数に関する情報は少ない。

2) 脱出状況調査

脱出に関する記録は1987年以降、6海岸で21例ある。そのうち移植は新宮浜の1例、自然ふ化は20例である。このうち、1987年と1993年の自然ふ化の卵数は判明しているが、巣数が不明となっており、それぞれ1巣と推定し、自然ふ化を20例とした。移植の例として移植の方法や卵数などは不明であるが、1990年に新宮浜の1巣を移植している。卵数は不明であるが、脱出はみられていないので、脱出率は0%である。自然ふ化は脇田海岸、乙丸海岸、三里松原、勝浦浜、恋の浦の5海岸で調査されている。自然ふ化の脱出状況調査結果を表152に示す。1987年から1999年までの間に、推定20巣について調

査した結果、卵数 2,313 個に対して 1,546 頭の稚亀が脱出している。平均卵数は 115.7 個、平均脱出数は 77.3 頭、平均脱出率は 66.8%である。脱出率の範囲は 1987 年の恋の浦の 3%から 1999 年の三原松原の 92.0%である。

表 152. 福岡県下におけるアカウミガメの自然ふ化の脱出状況結果

海岸名	調査年	巣数	卵数	脱出数	脱出率(%)	備 考
脇田海岸	1996	1	106	82	77.4	
乙丸海岸	1999	1	120	6	5.0	
三里松原	1994	3	369	326	88.3	
	1996	2	237	204	86.1	
	1999	1	112	103	92.0	
勝浦浜	1987	1	90	43	47.8	
恋の浦	1987	1	100	3	3.0	推定 1 巣 推定 1 巣
	1993	1	160	104	65.0	
	1997	2	219	162	74.0	
	1998	4	約 440	約 220	50.0	
	1999	3	360	293	81.4	
合 計		20	2313	1546	66.8	

3) 漂着・漂流及び混獲など

1980 年以降、38 個体の漂着死体が記録されており、その内訳はアカウミガメ 12 個体 (31.6%)、アオウミガメ 9 個体 (23.7%)、タイマイ 3 個体 (7.9%)、オサガメ 6 個体 (15.8%)、ヒメウミガメ 1 個体 (2.6%)、種不明 7 個体 (18.4%)となっている (表 153)。性別及び直甲長に関してはどの個体においても記録されていない。漂着死体の最も多い海岸は福岡海岸であり、38 個体のうち 39.5%に当たる 15 個体が漂着している。

表 153. 福岡県におけるウミガメ漂着死体数

	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
アカウミガメ			1				2	1	2
アオウミガメ			1		1	1	1		
タイマイ			1		1				
オサガメ	1	1		1					
ヒメウミガメ									
種不明					1			2	1
	1990	1991	1993	1994	1995	1996	1998	1999	計
アカウミガメ			3	1		1	1		12
アオウミガメ	2	1			1	1			9
タイマイ			1						3
オサガメ				1		1		1	6
ヒメウミガメ			1						1
種不明				1		1		1	7

性別は全個体不明

4) 上陸確認現地調査

福岡県は調査対象外のため、上陸確認現地調査は行っていない。

5) 上陸・産卵砂浜環境調査

・調査実施方法

調査対象の砂浜は、9月に現地調査による環境調査を行った。人工構造物は現地確認を行い、利用状況やゴミの状況は住民に聞き取り調査を行った。灯火は砂浜から確認できる人家や街灯の目視調査を行った。

・上陸・産卵砂浜の環境の概要

ウミガメ類が上陸及び産卵する砂浜は全て玄海国定公園内で、一般に環境は良好である。脇田海岸、福間海岸、芥屋海岸などは海水浴客でにぎわっているが、多くの場所は海岸への通路や駐車場が未整備のため、人家に近い場所が多く利用されている。国営公園などでは立ち入りが禁止されている場所もある。

・人工構造物について

浜前面の海面には人工構造物は少ない。脇田海岸は漁港に近く、産卵場の砂浜の東側に突堤があるほか、海水浴時期にはサメ対策ネットが張られる。芥屋海岸(芥屋海水浴場)にも低い突堤状の構造物があり、夏期に海の家が仮設される。

浜内にも人工構造物は少なく、三里松原に町の監視小屋があるだけである。人家は、神湊海岸、福間海岸、芥屋海岸を除き離れている。三里松原には、サイクリングロードが整備されており、監視小屋(貨物用コンテナ利用)がその脇にある。恋の浦では、砂浜に接した低い岸壁の上に密航監視小屋が設置されている。海の中道では、公園の展望休息施設が岩礁上にあるが砂浜から離れている。なお、国営海の中道海浜公園の砂浜は柵で囲まれており、立ち入りが禁止されている。また、海岸の松林は国有林が多く、開発されている箇所は少ない。

・人間活動について

多くの砂浜では、四輪駆動車対策が管理者の懸案事項となっていたが、最近では進入禁止の措置を行う場所が増えている。国定公園内では車道や駐車場から浜に通じる通路に大きな石を並べた車止めが見られるが、オートバイの進入は防止できていない。大部分の浜には、海岸美化などの看板が立っているが、駐車場に近い海岸ではバーベキューをした痕跡や花火の殻が散在しているところもある。

砂の採取は、三里松原の東端部(国定公園区域外)で行われている。三里松原では砂浜の後退が進行しているが、砂採取との関係が懸念されている。同様に、福間海岸も砂浜が後退しており、各所にコンクリート壁やテトラポットが設置されている。

・ゴミの漂着について

ゴミの漂着は時期によって大きく異なるが、一般的には少ない。ゴミの種類も海草類などが多く、プラスチック製品やビン類は比較的少ない。

・夜間の灯火の状況について

夜間の灯火は、神湊海岸、福間海岸、芥屋海岸の人家に近い海岸以外では少ないが、人家のない海岸でも、漁期には集魚灯などの照明が多いと思われる。

・ウミガメの保護活動及び保護条例について

ウミガメの保護対策は、岡垣町と津屋崎町の2町で行われている。岡垣町では町役

場が主体で、住民が監視員として協力しており、津屋崎町では住民のボランティア団体が中心である。これらの町では、上陸及び産卵がふ化までの監視活動、看板の設置や海浜の清掃、学校を含む観察会への支援などが行われているが、ウミガメの専門家がないため、保護の実務に関しては多少とも手探り状態が続いている。

ウミガメ保護条例を制定している自治体はないが、いわゆる”鳴き砂”の保全に取り組んでいる自治体があり、砂浜の環境を清潔に保つ活動は、ウミガメ産卵地の保護につながっている。

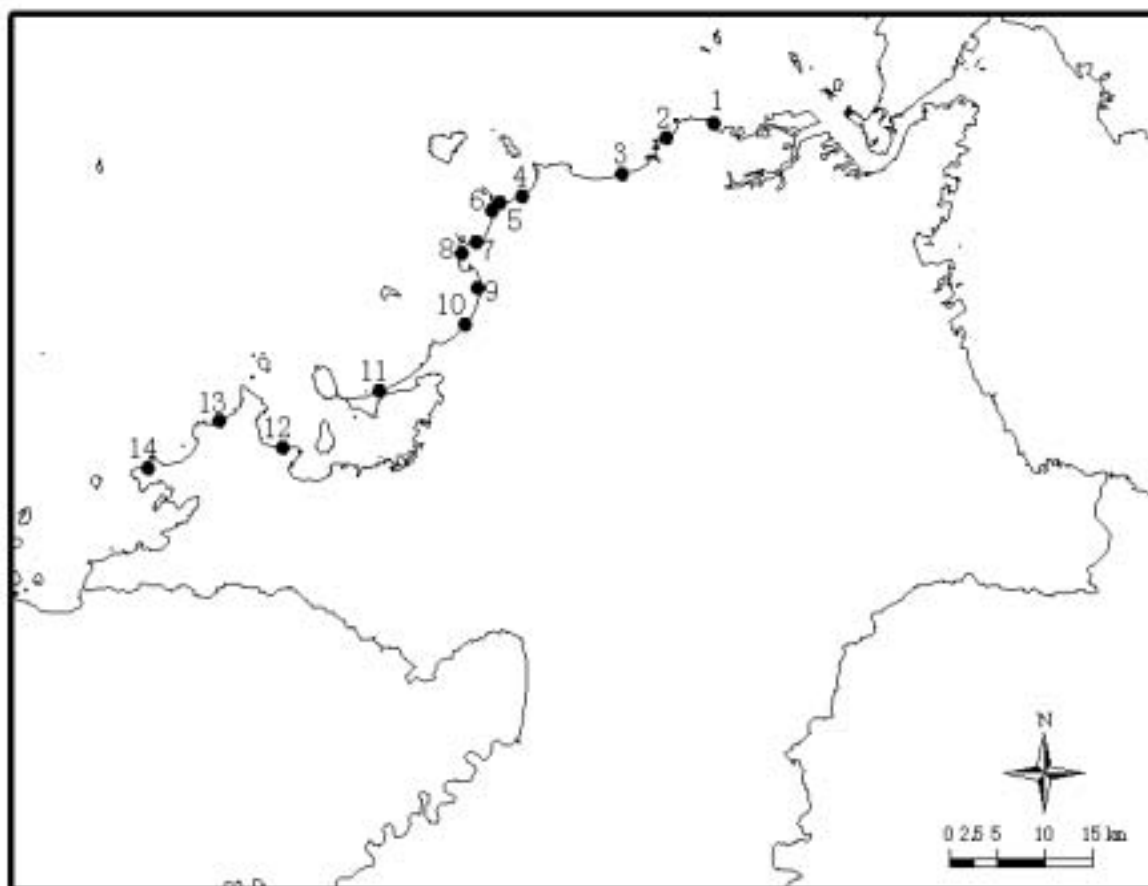
砂浜の状況から判断すると、志摩半島北部の長浜海岸と大口海岸はウミガメの産卵地の可能性が高く、今後綿密な調査を行うことが望ましい。

6) 資料リスト (新聞記事は除く)

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
石井 忠	1999	新編漂着物事典	海鳥社	380+11
環境庁	1980	第2回自然環境基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類)	日本自然保護協会	331
北九州市経済局マリノベーション推進室	1996	脇田海水浴場におけるウミガメの産卵場について	北九州市	3
橋元 浩一	1997	動物・あ・ら・かると34. アカウミガメ	ふるさとの 自然と歴史	265号 8-10

7) 担当者リスト

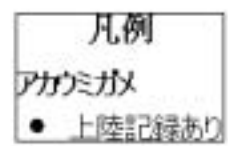
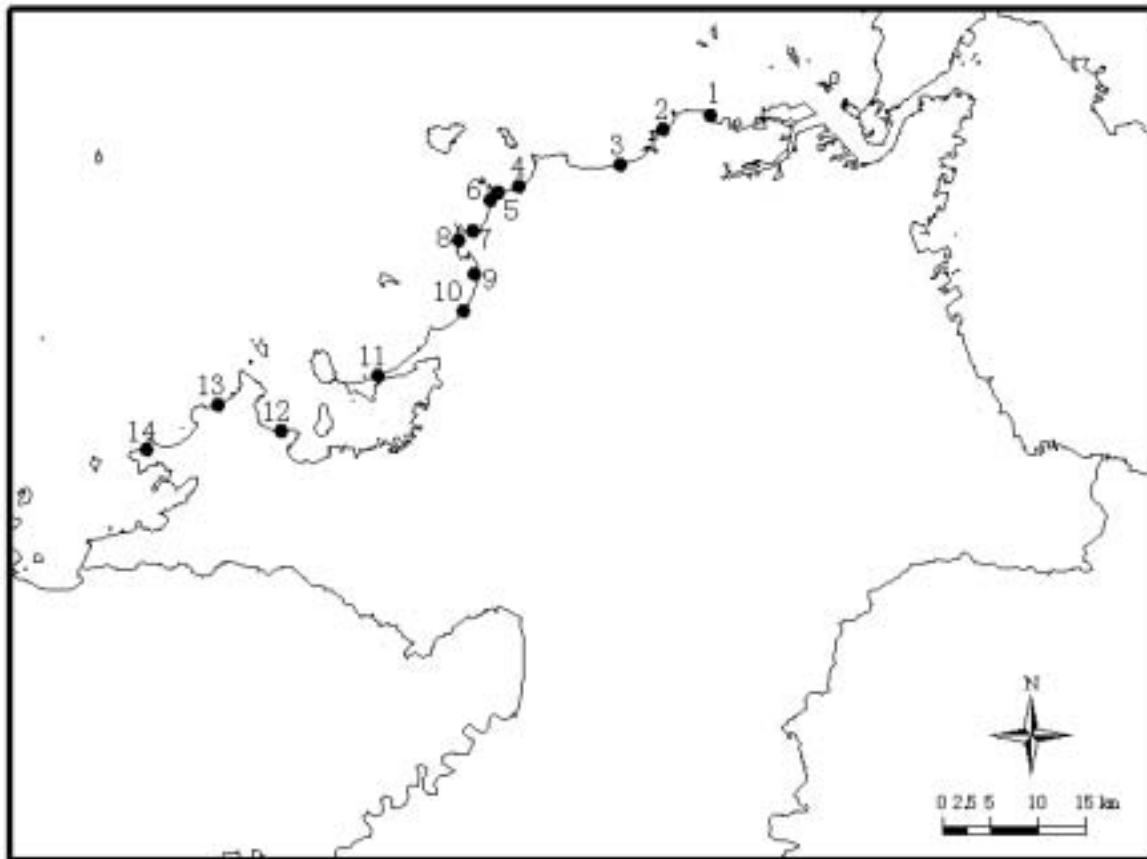
氏 名	所 属
野中 繁孝	(財)九州環境管理協会環境部生物課
大平 裕	
倉本 満	福岡教育大学名誉教授



凡例
● 調査地点

調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
1	臨田海岸	6	勝浦浜	11	海の中道
2	乙丸海岸	7	白石浜	12	長浜海岸
3	三里松原	8	恋の浦	13	大口海岸
4	さつき松原	9	福間海岸	14	芥屋海岸
5	神湊海岸	10	新宮浜		

調査地点一覧(福岡県)



アカウミガメ上陸地点(福岡県)

(24) 沖縄県 調査年：1999年

● 県下の海岸状況

海岸延長距離	1698.75km	うち島嶼域	1698.75km
自然海岸砂浜	544.59km	うち島嶼域	544.59km
半自然海岸砂浜	186.09km	うち島嶼域	186.09km
産卵海岸の合計	730.68km	うち島嶼域	730.68km

● 上陸・産卵砂浜実績調査

対象島数	49 島	対象海岸数	275	対象海岸距離	189.81km
産卵島数	49 島	産卵海岸数	264	産卵海岸距離	183.90km

● 上陸確認現地調査

調査島数	8 島	調査海岸数	36	調査海岸距離	23.73km
産卵島数	7 島	産卵海岸数	13	産卵海岸距離	7.28km

1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

沖縄県では、既存の文献資料及び聞き取り調査などから、属島や砂州なども含めて 47 島に 275 ヶ所の砂浜でウミガメ類の上陸・産卵砂浜実績調査を実施した。県内で上陸及び産卵を確認しているウミガメ類はアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの 3 種である。この他に不確かなヒメウミガメの産卵情報が久米島のハテナ浜(ウブユニ)にある。

この報告書をまとめるにあたって、沖縄県で確認された繁殖地を沖縄諸島と先島諸島の 2 地域に分け、上陸・産卵砂浜実績調査結果を記載した。記載は地図上に記載された順に、市町村単位もしくは島単位で行った。そのため、海岸番号順にはなっていない。調査地区は沖縄県全体の通し番号順に行い、各島の略号と島ごとの通し番号も共に記載した(表 154)。産卵海岸が多いところは島ごとにまとめを行った。また、各諸島の末尾にウミガメの種ごとにまとめを行った。また、沖縄県全体の状況は文末に記載した。

この調査で参考とした既存資料に関しては、以下の文献などを略して以下の通り文中では記載した。

- ・ 「ウミガメニュースレター」は「UNL」とし、発行番号と発行年を付ける。
- ・ 「水族館等展示用ウミガメ類調査報告書(産卵地情報)」(1984)。(財)海洋博覧会記念公園管理財団。は「水族館ウミガメ類調査報告書」とする。
- ・ 「おおぎみへやって来たウミガメたち(上陸頭数)」(1998)。大宜味村教育委員会。は「大宜味村報告書」とする。
- ・ 「ウミガメ類生息実態調査報告書 I 〈ウミガメ類の上陸・産卵情報〉」(1996)。沖縄県教育委員会。は「沖縄県ウミガメ類調査報告書」とする。
- ・ 「八重山諸島における海洋動物繁殖地等の保全対策検討調査報告書(産卵地および

表 154. 沖縄県内のウミガメ類の上陸・産卵が確認されている島とその略号

	島名	略号	県内通し番号	各島内通し番号	海岸数
沖	沖縄島	OK	1-53, 275	1-54	54
	古宇利島	KOU	54-55	1-2	2
	屋我地島	YGT	56	1	1
	伊江島	IE	57-64	1-8	8
	水能島(沖縄諸島)	MNO	65-66	1-2	2
	瀬底島	SS	67	1	1
	宮城島	MYG	68-69	1-2	2
	津堅島	TKE	70-75	1-6	6
	久高島	KD	76-79	1-4	4
	コマカ島	KM	80	1	1
	伊平屋島	IH	81-97	1-17	17
	野甫島	NH	98-100	1-3	3
	具志川島	GS	101	1	1
	粟国島	AG	102-103	1-2	2
	嘉名喜島	TN	104-112	1-9	9
	入砂島	IRS	113	1	1
	儀志布島	GS	114	1	1
	渡嘉敷島	TK	115-118	1-4	4
	座間味島	ZM	119-128	1-10	10
	島	安室島	AM	129	1
阿嘉島		AK	130-132	1-3	3
屋嘉比島		YK	133-134	1-2	2
久場島		KB	135	1	1
久米島		KM	136-141	1-6	6
奥武島		OU	142-144	1-3	3
イチュンザ岩		ICH	145	1	1
オーハ島		OH	146-147	1-2	2
ハテノ浜		KM	148	1	1
ミーングジュヌユニ		KM	149	1	1
オーハ島東方の砂州	KM	150	1	1	
宮	池間島	IK	151-154	1-4	4
	宮古島	MY	155-170	1-16	16
	来間島	KR	171-175	1-5	5
	大神島	OG	176	1	1
	伊良部島	IRB	177-178	1-2	2
	水納島(宮古諸島)	MNM	179-183	1-5	5
	多良間島	TR	184-193	1-10	10
	石垣島	IG	194-226	1-33	33
	竹富島	TT	227	1	1
	嘉弥真島	KA	228	1	1
古	小浜島	KH	229	1	1
	黒島	KU	230-233	1-4	4
	新城島	AR	234-236	1-3	3
	西表島	IR	237-260	1-24	24
	鳩間島	HT	261-267	1-7	7
	波照間島	HA	268-272	1-5	5
	与那国島	YG	273-274	1-2	2

*表記の 47 島には岩礁や砂州を含む。

産卵利用度)」(1994). 環境庁自然保護局西表国立公園管理事務所. は「環境庁調査報告書」とする。

他の既存資料や文献については、沖縄県から提出された報告書の記載をそのまま転載した。

1. 沖縄諸島

・調査地区 1/OK1 宇佐浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明のボディービット数 3 を確認している。上陸跡は残っていなかったため確認していない。1999 年には平手が調査を行い、種不明の 4 上陸を確認している (UNL. No. 41. 1999. UNL. No. 45. 2000)。

・調査地区 2/OK2 辺土集落地崎海岸(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明の 10 上陸とボディービット数 3 を確認している。平手は 1998 年に詳細が不明であるが種不明の上陸跡を確認し、1999 年には同じく種不明の 5 上陸を確認している (UNL. No. 41. 1999. UNL. No. 45. 2000)。

・調査地区 3/OK3 世皮崎の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明の 25 上陸とボディービット数 14 を確認している。平手は 1998 年に詳細が不明であるが種不明の上陸跡を確認し、1999 年には同じく種不明の 5 上陸を確認している (UNL. No. 41. 1999. UNL. No. 45. 2000)。

・調査地区 4/OK4 世皮崎南の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明の 9 上陸とボディービット数 4 を確認している。

・調査地区 5/OK5 奥集落北の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明の 6 上陸とボディービット数 3 を確認している。

・調査地区 6/OK6 赤崎北西の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明の 10 上陸とボディービット数 3 を確認している。

・調査地区 7/OK7 赤崎南の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明のボディービット数 5 を確認している。上陸跡は残ってなかったため確認していない。

・調査地区 8/OK8 伊江海岸北(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明の 2 上陸とボディービット数 4 を確認している。

- ・調査地区 9/0K9 伊江海岸南(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによる調査を 3 回行い、種不明の 12 上陸とボディービット数 6 を確認している。
- ・調査地区 10/0K10 我地川河口の浜(国頭村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 11/0K11 伊部川の浜(国頭村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 12/0K12 安田集落北東の浜(国頭村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 13/0K13 安田集落地崎の浜(国頭村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 14/0K14 イシキナ崎南西の浜(国頭村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 15/0K15 安波川河口の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによる調査を 2 回行い、種不明の 2 上陸とボディービット数 1 を確認している。
- ・調査地区 26/0K26 大崎南西の浜(国頭村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 16/0K16 謝敷集落南西の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによる調査を 3 回行い、種不明の 11 上陸とボディービット数 6 を確認している。
- ・調査地区 17/0K17 伊地集落北東の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによる調査を 3 回行い、種不明のボディービット数 1 を確認している。上陸跡は残っていなかったため確認していない。
- ・調査地区 18/0K18 桃原集落地崎の浜(国頭村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによる調査を 3 回行い、種不明の 4 上陸とボディービット数 2 を確認している。
- ・調査地区 19/0K19 サバ(大宜味村)

「大宜味村報告書」によると、1996 年と 1997 年に種不明の上陸跡がそれぞれ 1 上陸確認されている。米須によると、1998 年にアカウミガメの 1 上陸を確認している (UNL. No. 41. 1999)。

- ・調査地区 20/OK20 喜如嘉海岸(大宜味村)

「大宜味村報告書」によると、1994年以前にもウミガメ類の上陸が確認されていたが、詳細は不明である。1996年にアカウミガメの5上陸2産卵、1997年に種不明の2上陸、1998年はアカウミガメの3上陸3産卵、1999年に同じくアカウミガメの1上陸1産卵確認されている。
- ・調査地区 21/OK21 饒波海岸(大宜味村)

「大宜味村報告書」によると、1994年以前にもウミガメ類の上陸が確認されていたが、詳細は不明である。1996年にアカウミガメの1上陸1産卵、1997年に種不明の3上陸で産卵の有無は不明、1998年に種不明の1上陸とアカウミガメの1上陸で産卵の有無は不明、1999年に上陸がなかったことが確認されている。
- ・調査地区 22/OK22 大宜味海岸(大宜味村)

「大宜味村報告書」によると、1994年以前にもウミガメ類の上陸が確認されていたが、詳細は不明である。1996年に種不明の3上陸で産卵の有無は不明、1997年にアカウミガメの3上陸1産卵、1998年にアカウミガメの2上陸1産卵、1999年に上陸がなかったことが確認されている。
- ・調査地区 23/OK23 根路銘海岸(大宜味村)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1994年に現地調査を3回行ったが、種不明の4上陸とボディービット数7を確認している。「大宜味村報告書」とによると、1994年以前にもウミガメ類の上陸が確認されていたが、詳細は不明である。1996年に種不明とアカウミガメ合わせて12上陸しており、アカウミガメの7産卵だけである。1997年に種不明、アカウミガメ、アオウミガメ合わせて28上陸しているが、アカウミガメは3産卵、アオウミガメは6産卵を確認している。1998年に種不明とアカウミガメ合わせて10上陸でアカウミガメは5産卵で、アオウミガメの上陸はみられていない。1999年はアカウミガメの2上陸2産卵が確認されている。アオウミガメの上陸は確認されていない。
- ・調査地区 24/OK24 塩屋海岸(大宜味村)

「大宜味村報告書」によると、1994年以前にもウミガメ類の上陸が確認されていたが、詳細は不明である。1996年に種不明の1上陸で産卵の有無は不明である。1997年と1999年には上陸はみられなかったが、1998年にアカウミガメの1上陸1産卵が確認されている。
- ・調査地区 25/OK25 平南(大宜味村)

「大宜味村報告書」によると、1994年以前にもウミガメ類の上陸が確認されていたが、詳細は不明である。1996年に種不明の12上陸で、アカウミガメの1産卵が確認されている。
- ・調査地区 27/OK27 車地先の浜(東村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 28/0K28 車南の浜(東村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 29/0K29 キナン崎西の浜(東村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 2 回行い、種不明の 2 上陸とボディービット数 2 を確認している。
- ・調査地区 30/0K30 宮城集落西の浜(東村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 2 回行い、種不明の 2 上陸とボディービット数 1 を確認している。
- ・調査地区 31/0K31 川田集落東の浜(東村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 2 回行い、種不明の 2 上陸とボディービット数 0 を確認している。
- ・調査地区 32/0K32 伊是名集落地先の浜(東村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明の 4 上陸とボディービット数 4 を確認している。
- ・調査地区 33/0K33 慶佐次集落東の浜(東村)

この海岸では 1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明のボディービット数 1 のみを確認している。
- ・調査地区 34/0K34 ヌーハバマ(名護市)

1997 年からウミガメ保護・飼育活動を行っている名護市立嘉陽小学校では、「ウミガメ文集」(1999)を発行している。それによると、1997 年から 1999 年までの上陸数及び産卵数のウミガメ類の確認がされている。アカウミガメは、1997 年に 4 上陸 4 産卵、1998 年に 5 上陸 1 産卵、1999 年に 3 上陸 3 産卵である。アオウミガメの産卵は 1998 年のみに確認され、2 上陸 2 産卵である。1997 年と 1999 年は上陸していない。1994 年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 35/0K35 シッタハマ(名護市)

上記の「ウミガメ文集」によると、1997 年から 1999 年までの上陸数及び産卵数のウミガメ類の確認がされている。アカウミガメは、1997 年に 1 上陸 1 産卵、1998 年に 8 上陸 6 産卵で、1999 年は上陸していない。アオウミガメは、1999 年のみに 2 上陸 2 産卵である。1997 年と 1998 年は上陸していない。タイマイは、1999 年のみに 2 上陸 1 産卵である。1997 年と 1998 年は上陸していない。今回の上陸・産卵砂浜実績調査の結果では、沖縄島でタイマイの産卵が確認されているのはこの浜と名護市の安和海岸だけである。
- ・調査地区 36/0K36 嘉陽の浜(名護市)

この海岸では、1994 年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を 3 回行い、種不明のボディービット数 1 のみを確認している。1994 年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。上記の「ウミガメ文集」によると、1997 年から 1999 年までの上陸数及び産卵数のウミガメ類の確認がされて

いる。アカウミガメは、1997年に3上陸3産卵、1998年に1上陸1産卵、1999年に2上陸2産卵である。アオウミガメの産卵は1997年に上陸はみられなかったが、1998年に1上陸1産卵、1999年に1上陸1産卵である。

・調査地区 37/OK37 安部の浜(名護市)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No.30.1996)。それによると調査を3回行い、種不明の4上陸とボディービット数0を確認している。上記の「ウミガメ文集」によると、1997年から1999年までの上陸数及び産卵数のウミガメ類の確認がされている。アカウミガメは、1997年に2上陸0産卵、1998年に1上陸0産卵、1999年に4上陸4産卵である。アオウミガメの産卵は1997年に上陸はみられなかったが、1998年に1上陸1産卵、1999年に1上陸1産卵である。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 38/OK38 瀬嵩集落地先の浜(名護市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されている。1993年と1994年の現地調査を3回行っているが、上陸はない。なお、この調査は各年に3回ずつ調査を行ったのか、両年で3回なのか、この報告書からは不明である。

・調査地区 39/OK39 ヤニバマ(キャンプシュワープ北の浜)(名護市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 43/OK43 幸喜集落地先の浜(名護市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、調査を3回行ったが、上陸の痕跡を確認していない。

・調査地区 275/OK54 安和海岸(名護市)

「日本のウミガメの産卵地」(1994)によると、1987年に数は不明だが、この海岸でタイマイが産卵している。

・調査地区 56/YGT1 屋我地島済井出海岸(名護市)

1994年に菊川らも調査を行っている(UNL.No.30.1996)。それによると調査を3回行い、種不明のボディービット2のみを確認している

・調査地区 40/OK40 西原集落地先の浜(今帰仁村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No.30.1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット数1を確認している。

・調査地区 41/OK41 崎山集落北の浜(今帰仁村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No.30.1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット数6を確認している。

・調査地区 42/OK42 仲尾次集落北西の浜(今帰仁村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No.30.1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット数5を確認している。

- ・調査地区 54/KOU1 古宇利島北東海岸(今帰仁村)

1994年に菊川らも調査を行っている(UNL.No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット1を確認している
- ・調査地区 55/KOU2 古宇利島北東海岸(今帰仁村)

1994年に菊川らも調査を行っている(UNL.No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の4上陸とボディービット2を確認している
- ・調査地区 44/OK44 ミッションビーチ(恩納村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット数1を確認している。4年から5年前までは産卵を確認していたが、近年はみられていない。
- ・調査地区 45/OK45 熱田原集落地先の浜(恩納村)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に現地調査を3回実施したが、上陸を確認していない。
- ・調査地区 46/OK46 万座ビーチ(恩納村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、過去に上陸がみられていたが、現在は10年以上確認していない。
- ・調査地区 47/OK47 与久田集落北西の浜(読谷村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の4上陸とボディービット0を確認している。
- ・調査地区 48/OK48 照間集落地先の浜(与那城町)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明のボディービット1のみを確認している。「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 49/OK49 サンセットビーチ(北谷町)

琉球新報によると、1999年にアカウミガメの1上陸1産卵が確認されている。
- ・調査地区 50/OK50 百名ビーチ(玉城村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット0を確認している。「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に現地調査を3回実施し、種不明の2上陸とボディービット1が確認されている。この2上陸が1993年か1994年のどちらか、又は両年の合計値であるか報告書の記載からは解明できない。そのため、これらのデータは集計には用いていない。1999年に地元住民がアオウミガメの1上陸1産卵を確認している。
- ・調査地区 51/OK51 新原ビーチ(玉城村)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に現地調査を3回実施したが、上陸を確認していない。かつては、年数回ウミガメ類の上陸を確認していたが、近年4年から5年の間、上陸は確認されていない。

- ・調査地区 52/OK52 名城(糸満市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に現地調査を3回実施したが、上陸を確認していない。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。1991年には1上陸1産卵を確認している。
- ・調査地区 53/OK53 大度海岸(糸満市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に現地調査を3回実施し、種不明の2上陸とボディービット2を確認している。1994年に菊川らも調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット2を確認している。1995年には地元住民によりアカウミガメの17上陸15産卵を確認している(UNL.No. 27.1996)。
- ・調査地区 57/IE1 伊江島東江前西の浜(伊江村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を2回行い、種不明の2上陸とボディービット2を確認している。
- ・調査地区 58/IE2 伊江島東江前南の浜(伊江村)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に調査2回行ったが、上陸を確認していない。
- ・調査地区 59/IE3 伊江島西江前南の浜(伊江村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を2回行い、種不明の4上陸とボディービット1を確認している。
- ・調査地区 60/IE4 伊江島フナズ原海岸(伊江村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を2回行い、種不明の3上陸とボディービット2を確認している。
- ・調査地区 61/IE5 伊江島ハシラ原海岸(伊江村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を2回行い、種不明の2上陸とボディービット1を確認している。
- ・調査地区 62/IE6 伊江島西崎南の浜(伊江村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を2回行い、種不明のボディービット1のみを確認している。
- ・調査地区 63/IE7 伊江島南西の浜1(伊江村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を2回行い、種不明の2上陸を確認している。
- ・調査地区 64/IE8 伊江島南西の浜2(伊江村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を2回行い、種不明の4上陸とボディービット1を確認している。
- ・調査地区 65/MN01 水納島北東の浜(本部町)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No. 30.1996)。それによると調査を3回行い、種不明のボディービット1のみを確認している。

- ・調査地区 66/MN02 水納島の浜(本部町)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を3回行ったが、上陸を確認していない。
- ・調査地区 67/SS1 瀬底島瀬底ビーチ(本部町)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット1を確認している。
- ・調査地区 68/MYG1 宮城島南の浜1(与那城町)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の2上陸とボディービット1を確認している。
- ・調査地区 69/MYG2 宮城島南の浜2(与那城町)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると調査を3回行い、種不明の3上陸とボディービット3を確認している。
- ・調査地区 70/TKE1 津堅島北の浜(勝連町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に調査を3回行ったが、上陸は確認していない。
- ・調査地区 71/TKE2 津堅島北東の浜(勝連町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に調査を3回行ったが、上陸は確認していない。
- ・調査地区 72/TKE3 津堅島東の浜(勝連町)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると、調査を3回行い、6上陸とボディービット17を確認している。
- ・調査地区 73/TKE4 津堅島北東の浜(勝連町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に調査を3回行ったが、上陸は確認していない。
- ・調査地区 74/TKE5 津堅島トマイ浜(勝連町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に調査を3回行ったが、上陸は確認していない。
- ・調査地区 75/TKE5 津堅島南東の浜(勝連町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年と1994年に調査を3回行ったが、上陸は確認していない。
- ・調査地区 76/KD1 久高島北東の浜(知念村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると、調査を3回行い、種不明の11上陸とボディービット12を確認している。
- ・調査地区 77/KD2 久高島ウーパーマ(知念村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによると、調査を3回行い、種不明のボディービット1のみを確認している。
- ・調査地区 78/KD3 久高島伊敷浜(知念村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている (UNL. No. 30. 1996)。それによる

と、調査を3回行い、種不明のボディービット6のみを確認している。

・調査地区 79/KD4 久高島メージ浜(知念村)

この海岸では、1994年に菊川らが調査を行っている(UNL.No.30.1996)。それによると、調査を3回行い、種不明の10上陸とボディービット3を確認している。

・調査地区 80/KM1 コマカ島(知念村)

知念海洋レジャーセンターからの聞き込みによると、アカウミガメの上陸が1998年に3上陸、1999年に1上陸確認されている。1994年以前にもウミガメ類の上陸が確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 81/IH1 伊平屋島ウフドー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 82/IH2 伊平屋島ウンジョーミジ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 83/IH3 伊平屋島ヤヘー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 84/IH4 伊平屋島クマヤー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 85/IH5 伊平屋島シガナー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 86/IH6 伊平屋島シーミ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 87/IH7 伊平屋島ヒジャー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 88/IH8 伊平屋島シニガー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 89/IH9 伊平屋島マカシ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

・調査地区 90/IH10 伊平屋島ニシ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 91/IH11 伊平屋島ヒトウチャー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 92/IH12 伊平屋島タナゴ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 93/IH13 伊平屋島ダナダーム(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 94/IH14 伊平屋島ガキターム(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 95/IH15 伊平屋島アシチャービシ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 96/IH16 伊平屋島テライ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 97/IH17 伊平屋島米岬海岸(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 98/NH1 野甫島ジューマー(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 99/NH2 野甫島アマム(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 100/NH3 野甫島ヨネイリハマ(伊平屋村)

伊平屋村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 101/GS1 具志川島(伊是名村)

伊是名村漁業関係者からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 102/AG1 栗国島ウーグ浜(栗国村)

個人からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 103/AG2 栗国島筆ん崎(栗国村)

個人からの聞き取りによると、1994年以前も含めてウミガメ類の上陸産卵場となっ

ているが、詳細は不明である。この海岸へは直接行ける道はないが、干潮時に岸沿いに徒歩で行くことができる。

・調査地区 104/TN1 渡名喜島マクシーの浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 105/TN2 渡名喜島シドの浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 106/TN3 渡名喜島アガリクーマ(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 107/TN4 渡名喜島アガリ浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 108/TN5 渡名喜島アンジェーラ浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 109/TN6 渡名喜島シュージャーヌ浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 110/TN7 渡名喜島タカタ浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 111/TN8 渡名喜島ユブク浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 112/TN9 渡名喜島ナガバラ崎北の浜(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 113/IRS1 入砂島イリシナー(渡名喜村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されている。地元住民からの情報では、産卵最盛期にはかなりの上陸跡が見られている。しかし、詳細は不明である。

・調査地区 114/GS1 儀志布島北の浜(渡嘉敷村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 115/TK1 渡嘉敷島北の浜(渡嘉敷村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として

記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 116/TK2 渡嘉敷島阿波連地先の浜(渡嘉敷村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 117/TK3 渡嘉敷島クルマイ(渡嘉敷村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 118/TK4 渡嘉敷島南の浜(渡嘉敷村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 119/ZM1 座間味島イノー浜(座間味村)

座間味村が 1999 年に発行している「ウミガメ類の産卵状況調べ(延上陸数・延産卵数)」(以下、「ウミガメ類の産卵状況」とする)によると、1999 年にアカウミガメが 1 上陸未産卵、アオウミガメが 26 上陸 15 産卵である。1994 年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 120/ZM2 座間味島唐馬海岸(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999 年にアカウミガメが 4 上陸未産卵、アオウミガメが 8 上陸 1 産卵、タイマイが 1 上陸 1 産卵である。タイマイの上陸及び産卵は 1993 年に平手により確認されているが、詳細は不明である(UNL. No. 23. 1995)。1994 年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 121/ZM3 座間味島チシ(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999 年にアカウミガメが 4 上陸未産卵、アオウミガメが 17 上陸 4 産卵である。タイマイの上陸及び産卵は 1993 年に平手により確認されているが、詳細は不明である(UNL. No. 23. 1995)。1994 年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 122/ZM4 座間味島神ノ垣浜(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999 年にアカウミガメが 5 上陸未産卵、アオウミガメが 20 上陸 8 産卵、タイマイが 1 上陸 1 産卵である。タイマイの上陸及び産卵は 1993 年に平手により確認されているが、詳細は不明である(UNL. No. 23. 1995)。1994 年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 123/ZM5 座間味島アサコヒナ浜(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999 年にアカウミガメが 6 上陸 1 産卵、アオウミガメが 19 上陸 3 産卵である。1994 年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 124/ZM6 座間味島ザマミコヒナ(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999 年にアカウミガメが 10 上陸未産卵、アオウミガメが 21 上陸 5 産卵である。1994 年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 125/ZM7 座間味島ザマミコヒナ(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999年にアカウミガメが13上陸1産卵、アオウミガメが38上陸14産卵である。1994年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 126/ZM8 座間味島荒浜(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999年にアカウミガメが3上陸3産卵、アオウミガメが5上陸5産卵である。1994年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 127/ZM9 座間味島神ノ浜(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999年にアカウミガメが1上陸1産卵である。1994年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 128/ZM10 座間味島白崎(座間味村)

「ウミガメ類の産卵状況」によると、1999年にアカウミガメが1上陸未産卵、アオウミガメが15上陸7産卵である。1994年以前もウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 129/AM1 安室島西の浜(座間味村)

この海岸におけるタイマイの上陸及び産卵は1993年に平手により確認されているが、詳細は不明である(UNL. No. 23. 1995)。「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 130/AK1 阿嘉島北の浜(座間味村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 131/AK2 阿嘉島クシバル浜(座間味村)

この海岸におけるタイマイの上陸及び産卵は1994年に平手により確認されているが、詳細は不明である(UNL. No. 23. 1995)。「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 132/AK3 阿嘉島西浜ビーチ(座間味村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。1998年にアカウミガメの1上陸1産卵が記録されているが、出展は不明である。
- ・調査地区 133/YK1 屋嘉比島東の浜(座間味村)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1993年に32上陸みられアカウミガメの1産卵を確認、1994年に42上陸みられアカウミガメの2産卵とアオウミガメの8産卵を確認、1995年に59上陸みられアカウミガメの2産卵とアオウミガメの12産卵を確認している。
- ・調査地区 134/YK2 屋嘉比島西の浜(座間味村)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年にウミガメ類の上陸が28上陸みられ、そのうちアオウミガメの6産卵が確認されている。

- ・調査地区 135/KB1 久場島北海岸(具志川村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 136/KM1 久米島シンリ浜(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。1994年に地元の清水小学校でアオウミガメの産卵を確認している。地元住民の情報では近年ウミガメ類の産卵は確認されていない。
- ・調査地区 137/KM2 久米島儀間の浜(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 138/KM3 久米島テイ浜(仲里村)

地元住民の情報では、この海岸では1994年以前からウミガメ類が上陸しているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 139/KM4 久米島アーラ浜(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 140/KM5 久米島イーフビーチ(仲里村)

この海岸ではウミガメ類の上陸及び産卵が確認されていたが、詳細は不明である。出展も不明である。
- ・調査地区 141/KM6 久米島島尻トクジム(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。最近では浜の砂の流出が著しく、ウミガメ類の産卵場としては不適となっている。
- ・調査地区 142/OU1 奥武島アガリウトゥズ(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 143/OU2 奥武島オオヌフェ(暁石の浜)(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。1999年7月第二週に種不明のふ化稚亀が確認されている。
- ・調査地区 144/OU3 奥武島イソウトゥズ(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 145/ICH1 イチュンザ岩(仲里村)

地元住民からの聞き取りによると、オーハ島北方の小島であるこの島の南東側にある小規模な浜にウミガメ類の上陸及び産卵がみられている。詳細は不明である。
- ・調査地区 146/OH1 オーハ島東浜(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメ及びタイマイ

の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 147/OH2 オーハ島南浜(仲里村)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメ及びタイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 148/KM7 久米島ハテノ浜(ウブユニ)(仲里村)

この海岸は久米島の東にあるオーハ島のさらに東方沖合に位置する 3 つの砂州(オーハ島寄りからオーハ島東方の砂州、ミーンジュヌユニ、ハテノ浜)のうちの 1 つである。「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。ダイビングインストラクターによる個人情報によると、1999年7月上旬時点で種不明の2上陸が確認されているが、ボディビットはみられていない。1978年にヒメウミガメが産卵したという情報があるが、確証が得られていない。そのため、現在日本国内で上陸及び産卵するウミガメ類には、ヒメウミガメは含まれていない。

- ・調査地区 149/KM8 久米島ミーンジュヌユニ(仲里村)

この海岸は久米島の東方沖合に位置する砂州の 1 つである。「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 150/KM9 久米島オーハ島東方の砂州(仲里村)

この海岸は久米島の東方沖合に位置する砂州の 1 つであるが、正式な名称や地元の呼称はないと思われる。「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

● 沖縄諸島のまとめ

沖縄諸島で、過去の資料・文献や聞き込みにより、ウミガメ類の上陸・産卵砂浜実績調査を属島や3ヶ所の砂州を含めた30島、151海岸を対象に行った。調査状況及び調査結果のまとめを表155に示す。調査対象海岸の総距離は96.86kmである。このうち、過去に上陸又は産卵実績がない海岸が9海岸あり、沖縄諸島でウミガメ類が産卵地として利用している海岸は、30島142海岸で、海岸総距離は92.68kmである。これは調査対象とした島全てでウミガメ類の上陸又は産卵がみられていることを意味している。上陸または産卵実績がある海岸は、調査対象とした海岸の94.0%にあたり、海岸距離では95.7%となる。

上陸が確認されている海岸でも、上陸した年、上陸した種、上陸数などの上陸状況が全く不明な海岸は16島で、64海岸、海岸距離は42.08kmとなり、海岸数では上陸が確認されている海岸の45.0%、海岸距離では45.4%となる。上陸状況や上陸種の把握がされている海岸は17島で78海岸となるが、最近5カ年のウミガメ類の上陸及び産卵状況が把握されている海岸は7島、35海岸、海岸距離25.18kmにすぎない。これは上陸及び産卵実績のあるものと比較して、島数では23.3%、海岸数では24.6%、海岸距離では27.1%となる。沖縄諸島における最近の状況が把握されている海岸は、ほぼ4分の1となる。

表 155. 沖縄諸島におけるウミガメ類の上陸・産卵砂浜実績調査状況
 (「アカ」はアカウミガメ、「アオ」はアオウミガメである)

島名	対象 海岸数	上陸 実績無	上陸状 況不明	上陸状 況把握	5カ年 実績	アカ	アオ	タイマイ	種 不明
沖縄島	54	3	11	40	19	82/70	7/13	2/1	215/0
古宇利島	2			2	0				6/-
屋我地島	1			1	0				-/-
伊江島	8			8	0				17/-
水納島	2	1		1	0				-/-
瀬底島	1			1	0				2/-
宮城島	2			2	0				5/-
津堅島	6	5		1	0				6/-
久高島	4			4	0				21/-
コマカ島	1			1	1	4/-			
伊平屋島	17		17	0					
野甫島	3		3	0					
具志川島	1		1	0					
栗国島	2		2	0					
渡名喜島	9		9	0					
入砂島	1		1	0					
儀志布島	1		1	0					
渡嘉敷島	4		4	0					
座間味島	10			10	10	48/6	168/62	2/2	
安室島	1			1	0				-/-
阿嘉島	3		1	2	1	1/1			
屋嘉比島	2			2	2	-/5	-/26		161/-
久場島	1		1	0					-/-
久米島	6		6	0					
奥武島	3		2	1	1				-/1
イチュンザ岩	1		1	0					
オーハ島	2		2	0					
オーハ島東方砂州	3		2	1	1				2/-
合計	151	9	64	78	35	135/82	175/101	4/3	435/1
海岸距離(km)	96.86	4.18	42.08	50.60	25.18				

* ウミガメの種の数値は「/」の前が、把握されている過去のの上陸数の合計で、後ろが産卵数の合計値である。「-」は数値が不明だが、該当年に上陸または産卵が確認されているものである。

* 表 147 には、上陸確認現地調査結果は含まれていない

ウミガメ類の種別で調査結果をまとめると、アカウミガメでは過去の実績として 5 島 27 海岸で 135 上陸と 82 産卵が確認されている。アオウミガメでは 3 島 16 海岸で 175 上陸と 101 産卵が確認されている。タイマイでは 2 島 4 海岸で 4 上陸と 3 産卵が確認されている。種不明は 14 島 60 海岸で 435 上陸と 1 産卵が確認されている。このことから、沖縄では産卵が確認できれば、種の同定ができていけると言える。菊川他(1996)は、沖縄島を中心として 9 島 49 海岸を 1993 年に調査を行っている。それによると種不明の 169 上陸とボディビット 114 を確認している。沖縄島周辺の上陸及び産卵実績は、この調査に負うところが大きい。

<先島諸島>

- ・調査地区 151/IK1 池間島灯台東(平良市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1994年以前に上陸跡が確認されているが、詳細は不明である。宮古島の城辺町ウミガメ調査会により1999年に種不明の上陸が確認されている。

- ・調査地区 152/IK2 池間島大橋東(平良市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、種不明の1産卵とボディービット4を確認している。城辺町ウミガメ調査会によると、1998年まではウミガメ類の上陸を確認しているが、1999年は上陸がみられていない。

- ・調査地区 153/IK3 池間島漁港東(平良市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、以前は上陸がみられていたが、近年はみられていない。

- ・調査地区 154/IK4 池間島西の浜(平良市)

城辺町ウミガメ調査会によると、1999年に新たに上陸が確認された浜である。アオウミガメの3上陸が確認されたが、産卵については不明である。

- ・調査地区 155/MY1 宮古島イスツの浜(平良市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、これまでウミガメ類の上陸は南側にみられていたが、1999年は上陸がみられていない。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 156/MY2 宮古島南西園の浜(平良市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、種不明の2上陸2産卵とボディービット7を確認している。城辺町ウミガメ調査会によると、1995年にアカウミガメの3産卵を確認している。1999年に上陸はみられていない。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 157/MY3 宮古島高野漁港北(平良市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、種不明の3上陸2産卵とボディービット5を確認している。城辺町ウミガメ調査会によると、1995年にアカウミガメの2産卵(推定1産卵)を確認している。1999年に上陸はみられていない。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 158/MY4 宮古島西銘御獄下(平良市)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、種不明の2上陸3産卵とボディービット3を確認している。城辺町ウミガメ調査会によると、1995年にアカウミガメの2産卵、1996年に1産卵(推定)を確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 159/MY5 宮古島山川北(与那浜)(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は6回で、種不明の5上陸2産卵を確認している。城辺町教育委員会が1997年に発行した「うみがめの故郷ぐすくべ(上陸・産卵情報)」(以下、「うみがめの故郷ぐすくべ」という)によると、1994年にアカウミガメの4産卵未産卵を確認している。

・調査地区 160/MY6 宮古島山川(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は6回で、種不明の4上陸1産卵とボディービット7を確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 161/MY7 宮古島クマザ浜(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、種不明の6上陸4産卵とボディービット5を確認している。「うみがめの故郷ぐすくべ」によると、1992年より継続的な調査が行われている。この海岸における上陸及び産卵状況を表156に示す。城辺町ウミガメ調査会により、1999年は上陸なしを確認している。

表 156. 宮古島クマザ浜におけるアカウミガメとアオウミガメの上陸及び産卵状況

年		1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	合計
ア	上陸数		5	2	7	2	有		0	-
カ	産卵数	2	0	1	3		1		0	7
ア	上陸数		2		有		有		0	-
オ	産卵数	7	0		1		1		0	9

* 1992年のアカウミガメとアオウミガメの上陸数の合計は18上陸である

* 空欄は未調査である

・調査地区 162/MY8 宮古島浦底漁協南(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は2回で、種不明のボディービット1のみを確認している。「うみがめの故郷ぐすくべ」によると、1992年に4上陸、1993年に3上陸2産卵、1996年に2上陸1産卵のアカウミガメの上陸及び産卵を確認している。城辺町ウミガメ調査会により、1999年は上陸なしを確認している。

・調査地区 163/MY9 宮古島新城浜(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、種不明の3上陸2産卵とボディービット22を確認している。「うみがめの故郷ぐすくべ」によると、1992年に13上陸1産卵、1994年に4上陸、1995年に7上陸2産卵、1996年に3上陸2産卵のアカウミガメの上陸及び産卵を確認している。城辺町ウミガメ調査会により、1999年はアカウミガメの7上陸5産卵を確認している。

・調査地区 164/MY10 宮古島吉野の浜(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、種不明の3上陸1産卵とボディービット12を確認している。「うみがめの故郷ぐすくべ」によると、1992年より1996年まで継続的な調査が行われている。1997年のアオウミガメ及び1999年のタイマイのデータは城辺町ウミガメ調査会によるものである。この海岸におけるウミガメ類の上陸及び産卵状況を表157に示す。

表 157. 宮古島吉野の浜におけるアカウミガメとアオウミガメの上陸及び産卵状況

年		1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	合計
アカ	上陸数		108	17	20	16			7	168
	産卵数	4	107	9	20	12				152
アオ	上陸数		2	1	32	7	有			42
	産卵数	5	2	1	0	4	1			13
タイマイ	上陸数	3	1	0	2	0			0	6
	産卵数	3	1	0	2	0			0	6

* 1992年のアカウミガメとアオウミガメの上陸数の合計は25陸である

* 空欄は未調査である

・調査地区 165/MY11 宮古島クバマ(城辺町)

城辺町ウミガメ調査会によると、1994年以前のウミガメ類の上陸及び産卵については不明であるが、近年は毎年上陸及び産卵がみられている。しかし、詳細は不明である。

・調査地区 166/MY12 宮古島保良漁港西(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、種不明の1上陸未産卵とボディービット3を確認している。

・調査地区 167/MY13 宮古島保良ガー(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、種不明の2上陸1産卵とボディービット8を確認している。「うみがめの故郷ぐすくべ」によると、アカウミガメの上陸及び産卵は1992年に2上陸で産卵は不明、1994年に7上陸で産卵は不明、1995年に3上陸3産卵を確認し、アオウミガメについては1995年に2上陸2産卵を確認している。城辺町ウミガメ調査会により、1999年はアカウミガメの5上陸3産卵を確認している。

・調査地区 168/MY14 宮古島ロラン局東(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は2回行ったが、上陸はみられていない。城辺町ウミガメ調査会により、1995年にアカウミガメの上陸は不明だが、1産卵を確認している。

- ・調査地区 169/MY15 宮古島保良マイバー(城辺町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は6回で、種不明の12上陸7産卵とボディービット20を確認している。「うみがめの故郷ぐすくべ」によると、この海岸の調査を1993年から1997年まで行っている。城辺町ウミガメ調査会により、1999年に調査がされている。この海岸におけるウミガメ類の上陸及び産卵状況を表158に示す。

表 158. 宮古島保良マイバーにおけるアカウミガメとアオウミガメの上陸及び産卵状況

年		1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	合計
アカウミガメ	上陸数	0	9	1	3	有		2	
	産卵数	0	3	0	11	1			
アオウミガメ	上陸数	2	1	1	11			18	33
	産卵数	2	1	1	6			12	22
タイマイ	上陸数					1		0	1
	産卵数					1		0	1

* 空欄は未調査である

- ・調査地区 170/MY16 宮古島山根の浜(上野村)

城辺町ウミガメ調査会によると、1999年に種不明の1上陸が確認されているが、産卵は不明である。

- ・調査地区 171/KR1 来間島ナガマバマ(下地町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、種不明の4上陸未産卵とボディービット7を確認している。

- ・調査地区 172/KR2 来間島ムスヌン浜の北(下地町)

城辺町ウミガメ調査会によると、1999年に種不明の1上陸を確認している。産卵は不明である。

- ・調査地区 173/KR3 来間島ムスヌンバマ(下地町)

城辺町ウミガメ調査会によると、1999年に種不明の1上陸を確認している。産卵は不明である。

- ・調査地区 174/KR4 来間島マイヌバマ(下地町)

城辺町ウミガメ調査会によると、1999年に種不明の3上陸1産卵を確認している。

- ・調査地区 175/KR5 来間島ウシロノハマ(下地町)

城辺町ウミガメ調査会によると、過去に上陸及び産卵がみられているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 176/OG1 大神島(平良市)

城辺町ウミガメ調査会によると、過去に上陸がみられている。

- ・調査地区 177/IRB1 伊良部島長山の浜(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、3上陸1産卵とボディービット

ト6を確認している。1産卵は1996年のアカウミガメのものであるが、上陸とボディービットは種不明である。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 178/IRB2 伊良部島渡口の浜(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、種不明の2上陸未産卵とボディービット4を確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 179/MNM1 水納島南西(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、3上陸2産卵とボディービット10を確認している。2産卵は1995年のタイマイと1996年のアカウミガメである。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 180/MNM2 水納島西(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、種不明の1上陸未産卵とボディービット2を確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 181/MNM3 水納島北(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、種不明のボディービット1のみを確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 182/MNM4 水納島北東(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、5上陸2産卵とボディービット6を確認している。2産卵は1996年のアカウミガメのものである。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 183/MNM5 水納島南東(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は2回で、種不明のボディービット1のみを確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

・調査地区 184/TR1 多良間島バシヤクパマ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、1産卵とボディービット2を確認している。1産卵は1995年のアカウミガメのものである。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 185/TR2 多良間島パイミッジ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、2上陸1産卵とボディービット4を確認している。1産卵は1997年のアカウミガメのものである。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 186/TR3 多良間島タニガー(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、種不明の4上陸未産卵とボディービット2を確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 187/TR4 多良間島ウエダマリ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、種不明のボディービット1のみを確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 188/TR5 多良間島ケーシャリ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は3回で、種不明のボディービット1のみを確認している。
- ・調査地区 189/TR6 多良間島アガリアカダン(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、19上陸10産卵とボディービット23を確認している。10産卵のうち、アカウミガメは1996年と1997年にそれぞれ1産卵、アオウミガメは1995年に2産卵、タイマイは1995年に1産卵である。他の5産卵については種不明である。種ごとの上陸数の識別は行っていない。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 190/TR7 多良間島タカシバマ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、7上陸2産卵とボディービット10を確認している。2産卵のうち1産卵は1996年にアカウミガメであることが確認されている。他の1産卵は種不明である。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 191/TR8 多良間島パイヌッジ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は5回で、種不明の5上陸未産卵とボディービット8を確認している。出展は不明であるが、1996年にアカウミガメの1産卵が確認されている。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。

- ・ 調査地区 192/TR9 多良間島アラダドゥ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、1上陸2産卵とボディービット3を確認している。2産卵のうち1産卵は1996年のアカウミガメのものである。他の1産卵は種不明である。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・ 調査地区 193/TR10 多良間島トゥメトゥブリ(伊良部町)

「沖縄県ウミガメ類調査報告書」によると、1995年から1997年までの3年間にこの海岸の現地調査を実施している。調査回数は4回で、種不明の1産卵とボディービット3を確認している。1994年以前にもウミガメ類の上陸は確認されているが、詳細は不明である。
- ・ 調査地区 194/IG1 石垣島オーシュハマ(石垣市)

「環境庁調査報告書」(1994)によると、1983年から1991年までの間に調査を5回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・ 調査地区 195/IG2 石垣島イファパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで4回の調査を行い、アカウミガメ及びアオウミガメをそれぞれ1産卵確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を5回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・ 調査地区 196/IG3 石垣島ヤッサカーラ河口の浜(石垣市)

「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・ 調査地区 197/IG4 石垣島パツァパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで4回の調査を行い、8産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが2産卵、アオウミガメが5産卵、種不明が1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・ 調査地区 198/IG5 石垣島フタナカハマ(明石海岸)(石垣市)

「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を17回行い、そのうちウミガメ類の上陸を12回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・ 調査地区 199/IG6 石垣島はんな岳東の浜(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、5産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、アオウミガメが3産卵、種不明が1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行

い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。佐藤他によると、1993年にアカウミガメの18上陸8産卵、アオウミガメの37上陸12産卵確認されている(UNL. No. 23. 1995)。西海区水産研究所によると、1997年にアオウミガメの66上陸33産卵が確認されている(UNL. No. 35. 1998)。石垣島ウミガメ研究会によると、1998年にアオウミガメの33上陸19産卵が確認されている(UNL. No. 41. 1999)。

・調査地区 200/IG7 石垣島ハンダキパマ・ナアートパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、2産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、種不明が1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 201/IG8 石垣島玉取崎南西の浜(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、4産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、種不明が3産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。石垣島ウミガメ研究会によると、詳細は不明だが、1998年にアオウミガメの上陸及び産卵を確認している(UNL. No. 41. 1999)。

・調査地区 202/IG9 石垣島ヒヒシパマ・イノーダパマ・ソーヂィパマ(石垣市)

「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を3回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 203/IG10 石垣島フファナンパマ・トゥーリーパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 204/IG11 石垣島ウヤギバルパマ・ピサパナリヌパマ・カーラヌシピパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで2回の調査を行い、9産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、種不明が8産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を3回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。石垣島ウミガメ研究会によると、詳細は不明だが、1998年にアオウミガメの上陸及び産卵を確認している(UNL. No. 41. 1999)。

・調査地区 205/IG12 石垣島ソーバルパマ・ユブスウラパマ・パマダシ・サコダパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで2回の調査を行い、5産卵を確認し

ている。そのうち、アカウミガメが 1 産卵、種不明が 4 産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 3 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 1 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 206/IG13 石垣島平久保崎南の浜(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年まで 4 回の調査を行い、2 産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが 1 産卵、種不明が 1 産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 5 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 2 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 207/IG14 石垣島ジーパハマ(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 208/IG15 石垣島ンドゥルハマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年まで 4 回の調査を行い、種不明の 3 産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 5 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 2 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 209/IG16 石垣島久宇良集落南の浜(石垣市)

「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 5 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 2 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 210/IG17 石垣島ジーパハマ(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメとアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 211/IG18 石垣島伊土名集落北の浜(石垣市)

「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 4 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 2 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 212/IG19 石垣島ウラスクパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年まで 3 回の調査を行い、種不明の 3 産卵を確認している。

・調査地区 213/IG20 石垣島米原ビーチ(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメとアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 214/IG21 石垣島ホーニフパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年まで 4 回の調査を行い、種不明の 8 産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 5 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 1 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

- ・調査地区 215/IG22 石垣島ニスイパリパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで4回の調査を行い、種不明の9産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を5回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 216/IG23 石垣島米原ビーチ(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。石垣島ウミガメ研究会によると、詳細は不明だが、1998年にアオウミガメの上陸及び産卵を確認している(UNL.No. 41. 1999)。
- ・調査地区 217/IG24 石垣島川平石崎南の浜(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はタイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。石垣島ウミガメ研究会によると、詳細は不明だが、1998年にアオウミガメの上陸及び産卵を確認している(UNL.No. 41. 1999)。
- ・調査地区 218/IG25 石垣島スクジハマ(底地ビーチ)(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、2産卵を確認している。そのうちアカウミガメが1産卵、種不明が1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 219/IG26 石垣島ミズイトウルパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、種不明の2産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を3回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。タイマイの上陸及び産卵は1973年に平手により確認されているが、詳細は不明である(UNL.No. 23. 1995)。
- ・調査地区 220/IG27 石垣島屋良部岳北西の浜(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、6産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが3産卵、種不明が3産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。タイマイの上陸及び産卵は1973年に平手により確認されているが、詳細は不明である(UNL.No. 23. 1995)。
- ・調査地区 221/IG28 石垣島トゥカナズィパマ(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 222/IG29 石垣島屋良部崎の浜(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 223/IG30 石垣島ナーパマ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、3産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、種不明が2産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を3回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 224/IG31 石垣島富崎野ビーチ(石垣市)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、4産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、種不明が3産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を3回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 225/IG32 石垣島ムニンヤーパマ(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 226/IG33 石垣島バダンジヌパマ(石垣市)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 227/TT1 竹富島東崎(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで1回の調査を行い、4産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、種不明が3産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を1回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 228/KA1 嘉弥真島(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、種不明の3産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を3回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 229/KH1 小浜島東海岸(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで2回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を2回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 230/KU1 黒島保里集落東の浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで1回の調査を行い、アカウミガメの1産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を10回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。
- ・調査地区 231/KU2 黒島西の浜(竹富町)

この海岸では、(財)海中公園センター八重山研究所により1978年から継続的な調

査が行われている。1982 年は調査が行われていない。1991 年以降も調査は継続されているが、未発表のため情報は得られていない。この海岸ではウミガメ 3 種の産卵がみられる(表 159)。

1978 年以降、1982 年を除いた 12 年間におけるアカウミガメの上陸数の合計は 219 上陸で、年平均は 18.3 上陸、最多は 1985 年の 48 上陸で、最少は 1989 年の 7 上陸である。同様に産卵数が不明な年を除いた 10 年間における産卵数の合計は 177 産卵で、年平均は 17.7 産卵、最多は 1985 年の 44 産卵、最少は 1987 年の 5 産卵である。アオウミガメは 1988 年と 1989 年に上陸がみられているが、産卵は 1989 年のみに 9 産卵みられる。タイマイは 1978 年以降、調査がなされなかった 1982 年を除いた 12 年間の合計で 37 上陸みられ、年平均は 3.1 上陸となり、最多は 1980 年の 12 上陸、最少は 1981 年、1985 年、1986 年、1990 年の 0 上陸である。産卵の合計は 21 産卵で、年平均 1.8 産卵、最多は 1980 年の 5 産卵、最少は上陸がみられていない年を除くと 1987 年の 1 上陸未産卵である。

この海岸の長さは 1.55km であり、アカウミガメの産卵密度は平均で 11.8 産卵/km、

表 159. 黒島西の浜におけるウミガメ類の上陸及び産卵状況

年		1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	合計
アカ	上陸数	19	9	15	18		41	19	48	14	13	8	7	8	219
	産卵数	19		11			38	14	44	23	5	8	7	8	177
	成功率(%)	100.0		73.3			92.7	73.7	91.7		38.5	100.0	100.0	100.0	92.2
アオ	上陸数	0	0	0	0		0	0	0	0	0	4	10	0	14
	産卵数	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	9	0	9
タイマイ	上陸数	2	9	12	0		2	2	0	0	1	5	4	0	37
	産卵数	2	4	5	0		2	1	0	0	0	3	4	0	21
	成功率(%)	100.0	44.4	41.7	0.0		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	60.0	100.0	0.0	56.8

* 空欄は未調査である

* アカウミガメの平均の産卵成功率は、1979 年と 1981 年の上陸数は除いて算出した。

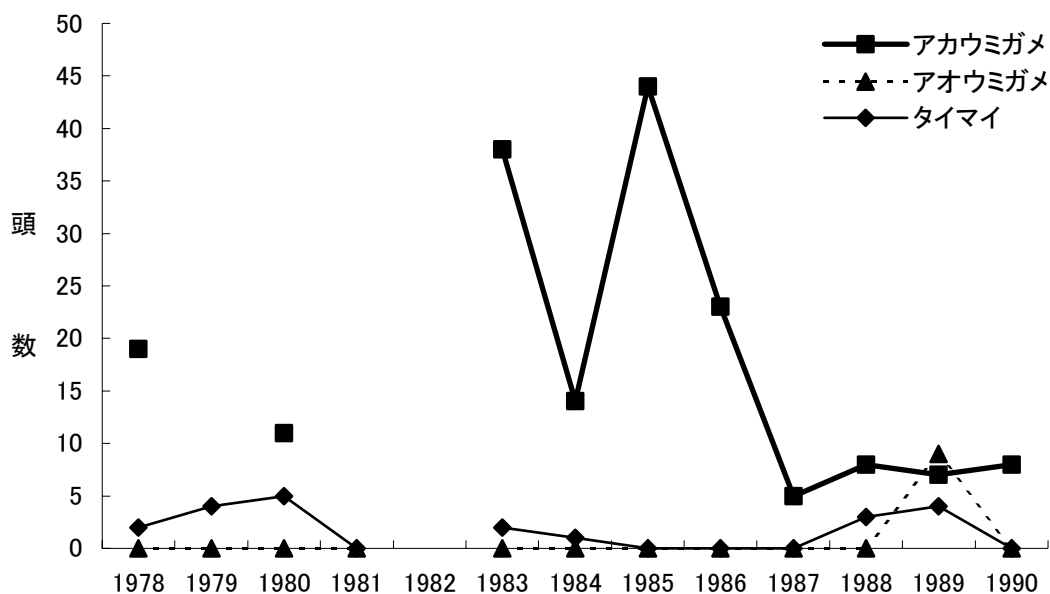


図43. 黒島におけるウミガメ類の産卵状況の年変化

最大は 1985 年で 31.0 産卵/km、最小は 4.5 産卵/km となる。アオウミガメは 1989 年で、産卵密度は 5.8km である。タイマイは平均で 1.2 産卵/km で、最大は 1980 年で 3.2 産卵/km、最小は 1984 年で 0.6 産卵/km となる。

アカウミガメの産卵成功率は、平均で 92.2%と高く、最大は 1978 年と 1988 年から 1990 年までの 3 年間は 100.0%で、最小は 1987 年の 38.5%である。アオウミガメの場合、1988 年と 1989 年に上陸がみられただけで、産卵成功率は 64.3%である。産卵がみられた 1989 年では、産卵成功率は 90.0%と高い。断続的に産卵がみられているタイマイの産卵成功率は、平均で 56.8%となり、最大は 1978 年、1983 年、1989 年の 100.0%で、最小は 1979 年の 44.4%である。

この海岸におけるウミガメ類の産卵状況の年変化を図 43 に示す。これによると 1983 年と 1985 年に急激にアカウミガメの産卵数は増加しているが、1980 年代の後半には 10 産卵以下になっている。アオウミガメやタイマイは低レベルで断続的な産卵がみられている。

・調査地区 232/KU3 黒島仲本海岸 1(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年までの調査回数は不明であるが、8 産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが 1 産卵、タイマイが 1 産卵、種不明が 6 産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 10 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 2 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 233/KU4 黒島仲本海岸 2(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年までの調査回数は不明であるが、2 産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが 1 産卵、アオウミガメが 1 産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 10 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 3 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 234/AR1 新城島上地海岸(竹富町)

亀崎(1985)によると、1984 年にタイマイの産卵を確認している。亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年まで 5 回の調査を行い、アカウミガメの 2 産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 5 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 1 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 235/AR2 新城島下地長崎(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983 年から 1988 年まで 3 回の調査を行い、2 産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが 1 産卵、種不明が 1 産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983 年から 1991 年までの間に調査を 3 回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 2 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。タイマイの上陸及び産卵は新城島下地で 1985 年に亀崎により確認されているが、詳細は不明である(UNL.No. 23. 1995)。下地長崎か次の調査地区の下地西海岸かは不明で

ある。

・調査地区 236/AR3 新城島下地西海岸(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで5回の調査を行い、2産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、種不明が1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を5回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。タイマイの上陸及び産卵は新城島下地で1985年に亀崎により確認されているが、詳細は不明である(UNL.No.23.1995)。下地西海岸か前の調査地区の下地長崎か不明である。

・調査地区 237/IR1 西表島豊原の浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、3産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、アオウミガメが1産卵、種不明が1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を3回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 238/IR2 西表島南風見浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで6回の調査を行い、9産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが4産卵、アオウミガメが1産卵、種不明が4産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を14回行い、そのうちウミガメ類の上陸を5回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 239/IR3 西表島南風見浜の西の浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、6回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。

・調査地区 240/IR4 西表島田の浜海岸1(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで6回の調査を行い、7産卵を確認している。そのうち、アオウミガメが6産卵、種不明が1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を7回行い、そのうちウミガメ類の上陸を3回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 241/IR5 西表島田の浜海岸2(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで7回の調査を行い、70産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが9産卵、アオウミガメが33産卵、種不明が28産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を12回行い、そのうちウミガメ類の上陸を11回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明であるが、アオウミガメが集中して産卵する海岸としている。

・調査地区 242/IR6 西表島鹿川湾1(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで7回の調査を行い、42産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが3産卵、アオウミガメが34産卵、種不明が5産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を15

回行い、そのうちウミガメ類の上陸を 12 回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明であるが、アオウミガメが集中して産卵する海岸としている。

・調査地区 243/IR7 西表島鹿川湾 2(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで5回の調査を行い、4産卵を確認している。そのうち、アオウミガメが1産卵、種不明が3産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を5回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 244/IR8 西表島鹿川湾 3(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで4回の調査を行い、種不明の3産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 245/IR9 西表島ウビラ石東方の浜(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメとアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 246/IR10 西表島パイミ崎北東の浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで4回の調査を行い、26産卵を確認している。そのうち、アオウミガメが16産卵、種不明が10産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を3回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 247/IR11 西表島崎山湾(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで1回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を3回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 248/IR12 西表島網取(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を3回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

・調査地区 249/IR13 西表島ウンバナリ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類特にタイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

・調査地区 250/IR14 西表島サバ崎(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで4回の調査を行い、7産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、アオウミガメが3産卵、種不明が3産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を6回行い、そのうちウミガメ類の上陸を4回発見している。調査年、調査期間、上陸数など

の詳細は不明である。

- ・調査地区 251/IR15 西表島舟浮湾(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類の産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 255/IR19 西表島干立集落北の浜(竹富町)

「環境庁調査報告書」によると、この海岸は上陸及び産卵の実績はない。

- ・調査地区 256/IR20 アトク岩西の浜(竹富町)

「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を3回行い、そのうちウミガメ類の上陸を1回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

- ・調査地区 257/IR21 西表島ウブドゥマイ(月ヶ浜)(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで4回の調査を行い、2産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが1産卵、アオウミガメが1産卵である。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を5回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

- ・調査地区 258/IR22 西表島宇那利崎南西の浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、アオウミガメの1産卵を確認している。「環境庁調査報告書」によると、1983年から1991年までの間に調査を4回行い、そのうちウミガメ類の上陸を2回発見している。調査年、調査期間、上陸数などの詳細は不明である。

- ・調査地区 259/IR23 西表島星砂の浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで2回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。

- ・調査地区 260/IR24 西表島中野の浜(竹富町)

亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで2回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。

- ・調査地区 252/IR16 内離島(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類特にタイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 253/IR17 外離島ヒラツカ崎(竹富町)

「環境庁調査報告書」によると、この海岸は上陸及び産卵の実績はない。

- ・調査地区 254/IR18 外離島野底崎(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はウミガメ類特にタイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 261/TR1 鳩間島スムスク(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。

- ・調査地区 262/TR2 鳩間島タチバルパマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 263/TR3 鳩間島ヤラヌパマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 264/TR4 鳩間島インタンパマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 265/TR5 鳩間島ナラリパマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。出展は不明だが、1998年にアオウミガメのふ化が確認されている。
- ・調査地区 266/TR6 鳩間島フナバルパマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。通事(1999)によると 1998年に産卵は不明だが、アオウミガメの上陸を確認している(UNL. No. 41. 1999)。
- ・調査地区 267/TR7 鳩間島シマナカパマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 268/HA1 波照間島オードマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、6産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが3産卵、アオウミガメが1産卵、種不明が2産卵である。「環境庁調査報告書」によると、現地情報としてウミガメ類の上陸を確認している。
- ・調査地区 269/HA2 波照間島サコダ浜(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、種不明の1産卵を確認している。
- ・調査地区 270/HA3 波照間島ペーパマ(竹富町)

「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸は断崖の下で、人の干渉も少なく、良好な砂浜で今後の調査次第では多くの産卵が見込まれるとし、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで3回の調査を行い、種不明の7産卵を確認している。また、産卵跡発見率(産卵跡を確認した調査回数/全調査回数)は、0.5以上と記載している。

- ・調査地区 271/HA4 波照間島ヨーハマ(竹富町)
「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸はアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。
- ・調査地区 272/HA5 波照間島ペムチ浜(竹富町)
「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸は断崖の下で、人の干渉も少なく、良好な砂浜で今後の調査次第では多くの産卵が見込まれ、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで2回の調査を行い、18産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが3産卵、アオウミガメが1産卵、種不明が14産卵である。
- ・調査地区 273/YG1 与那国島ウブドゥマ(与那国町)
「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸は断崖の下で、人の干渉も少なく、良好な砂浜で今後の調査次第では多くの産卵が見込まれ、アカウミガメとアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで1回の調査を行い、種不明の9産卵を確認している。
- ・調査地区 274/YG2 与那国島ソアハマ(与那国町)
「水族館ウミガメ類調査報告書」によると、この海岸は断崖の下で、人の干渉も少なく、良好な砂浜で今後の調査次第では多くの産卵が見込まれるとし、アカウミガメとアオウミガメの産卵地として記載されているが、詳細は不明である。亀崎(1991)によると、1983年から1988年まで1回の調査を行い、6産卵を確認している。そのうち、アカウミガメが2産卵、アオウミガメが2産卵、種不明が2産卵である。

●先島諸島のまとめ

先島諸島で、過去の資料・文献や聞き取りにより、ウミガメ類の上陸・産卵砂浜実績調査を、19島124海岸を対象に行った。調査状況及び調査結果のまとめを表152に示す。調査対象海岸の総距離は92.95kmである。このうち、過去に上陸又は産卵実績がない海岸が2海岸あり、先島諸島でウミガメ類が産卵地として利用している海岸は、19島122海岸で、海岸総距離は91.22kmである。これは調査対象とした島全てでウミガメ類の上陸又は産卵がみられていることを意味している。上陸または産卵実績がある海岸は、調査対象とした海岸の98.4%にあたり、海岸距離では98.1%となる。

上陸が確認されている海岸でも、上陸した年、上陸した種、上陸数などの上陸状況が全く不明な海岸は10島で、22海岸、海岸距離は11.10kmとなり、海岸数では上陸が確認されている海岸の18.0%、海岸距離では12.2%となる。上陸状況や上陸種の把握がされている海岸は16島で101海岸となるが、最近5カ年のウミガメ類の上陸及び産卵状況が把握されている海岸は8島、32海岸、海岸距離20.83kmである。これは上陸及び産卵実績のあるものと比較して、島数では42.1%、海岸数では31.7%、海岸距離では26.0%となる。沖縄諸島における最近の状況が把握されている海岸は、ほぼ4分の1となる。

ウミガメ類の種別の調査結果を表160に付記して示す。アカウミガメでは過去の実績として11島50海岸で494上陸と409産卵が確認されている。アオウミガメでは9島26

海岸で 241 上陸と 235 産卵が確認されている。タイマイでは 6 島 10 海岸で 44 上陸と 32 産卵が確認されている。種不明は 16 島 96 海岸で 145 上陸と 206 産卵が確認されている。

表 160. 先島諸島におけるウミガメ類の上陸・産卵砂浜実績調査状況
(「アカ」はアカウミガメ、「アオ」はアオウミガメである)

島名	対象海岸数	上陸実績無	上陸状況不明	上陸状況把握	5 年実績	アカ	アオ	タイマイ	種不明
池間島	4		1	3	2		3/-		-/1
宮古島	16		1	15	11	254/188	87/49	7/7	85/24
来間島	5		1	4	3				5/1
大神島	1		1	0					
伊良部島	2			2	1	-/1			5/1
水納島	5			5	2	-/3		-/1	9/4
多良間島	10			10	6	-/5	-/2	-/1	32/15
石垣島	33		7	26	5	18/25	136/73	-/-	-/51
竹富島	1			1	0	-/1			-/3
嘉弥真島	1			1	0				-/3
小浜島	1			1	0				-/1
黒島	4			4	0	219/181	14/10	37/22	6/6
新城島	3			3	0	-/4		-/1	-/1
西表島	21	1	3	17	0	-/19	-/97		-/63
内離島	1		1	0					
外離島	2	1	1	0					
鳩間島	7		5	2	2		-/-		-/-
波照間島	5		1	4	0	3/3	1/2		3/21
与那国島	2			2	0	-/2	-/2		-/11
合計	124	2	22	100	32	494/409	241/235	44/32	145/206
海岸距離(km)	92.95	1.73	11.10	80.12	20.83				

* ウミガメの種の数値は「/」の前が、把握されている過去の上陸数の合計で、後ろが産卵数の合計値である。「-」は数値が不明だが、該当年に上陸または産卵が確認されているものである。

* 表 152 には、上陸確認現地調査結果は含まれていない。

● 沖縄県内の上陸及び産卵状況

上陸・産卵砂浜実績調査の対象とした海岸は、表 146 では 47 島となっているが、西表島に帰属していた内離島と外離島を分け、島数を 49 島とする。そのうち、26 島、1 岩礁、3 つの砂州は沖縄諸島で、151 海岸が調査対象である。先島諸島は 19 島の 124 海岸が調査対象海岸である。沖縄県下の調査状況を表 161 に示す。過去にウミガメ類が上陸又は

表 161. 沖縄県におけるウミガメ類の上陸・産卵砂浜実績調査状況
(「アカ」はアカウミガメ、「アオ」はアオウミガメである)

諸島名	島数	対象海岸数	実績海岸数	海岸距離(km)	アカ	アオ	タイマイ	種不明
沖縄諸島	30	151	142	92.68	135/82	175/101	4/3	435/1
先島諸島	19	124	122	91.22	494/409	241/235	44/32	145/206
合計	49	275	264	183.90	629/491	416/336	48/35	580/207

産卵が確認された海岸は 49 島、264 海岸である。沖縄県下の海岸延長距離 1698.75km のうち、ウミガメ類が産卵する可能性のある海岸は 730.68km で全体の 43.0%にあたる。今回の調査で上陸又は産卵が確認された海岸の総延長距離は 183.90km であるので、これは沖縄県の砂浜の 25.2%にあたる。

今回の調査で確認された上陸数及び産卵数は、アカウミガメでは 629 上陸と 491 産卵、アオウミガメでは 416 上陸と 336 産卵、タイマイ 48 上陸と 35 産卵、種不明が 580 上陸と 207 産卵である。これらの上陸数と産卵数は対応した数値ではなく、得られた情報全ての各海岸の数値を合計したものである。これらの中には、上陸数だけのもの、産卵数だけのものも含まれている。従って、これらの数値から産卵成功率、年平均上陸数及び産卵数、産卵密度を求めることはできない。

2) 脱出状況調査

脱出に関する記録及び報告は、9 海岸で 17 件ある。そのうちアカウミガメの自然ふ化は 3 件、移植は 2 件、ふ化の確認が 1 件、ふ化方法が不明なものは 6 件ある。アオウミガメでは、移植が 1 件とふ化の確認が 1 件ある。タイマイでは、移植が 1 件とふ化の確認が 1 件ある。その他、種不明のふ化稚亀の確認が 1 件ある。沖縄県における脱出率の調査状況を表 162 に示す。

表 162. 沖縄県におけるウミガメ類の脱出率の調査状況

	1987	1998	1999	備 考
喜嘉如海岸 大宜味海岸 根路銘海岸 シッタハマ 阿倍の浜		自然ふ化 ふ化方法不明 ふ化方法不明		アカウミガメ 3 産卵 アカウミガメ 1 産卵 アカウミガメ 5 産卵 タイマイ 1 産卵
サソビビーチ 安和海岸 オオヌフェ ナラリパマ	ふ化確認		移植 移植 移植 ふ化確認 稚亀確認	アカウミガメ 2 産卵 アオウミガメ 1 産卵 アカウミガメ 1 産卵 タイマイ 1 産卵 種不明 アオウミガメ
		ふ化確認		

<アカウミガメ>

アカウミガメの自然ふ化による脱出率の調査は、全て 1998 年の喜嘉如海岸で行われている。卵数や脱出率は不明であるが、この年に産卵した全ての 3 産卵の脱出率はそれぞれ 89%、97%、91.8%と高い。

ふ化方法が不明のものは、1998 年の大宜味海岸と 1998 年の根路銘海岸のものである。大宜味海岸では、この年に 1 産卵あり脱出率は 72%である。根路銘海岸では、この年に 5 産卵あり、それぞれ 63%、70%、69%、95%、88%で、脱出率の平均脱出率の平均は 77%と割に高い。

移植によるものは 1999 年の阿倍の浜のもので、この年に 4 産卵あり、そのうち 2 産卵についての脱出率は、37%と 75.4%である。

また、1999年のサンセットビーチでふ化稚亀が確認されている。脱出頭数などは不明である。

<アオウミガメ>

アオウミガメの自然ふ化に関する脱出率の調査はない。移植は、1999年の阿倍の浜のもので、この年に1産卵あり移植による脱出率は11.5%である。また、ナラリパマで1998年にふ化稚亀の確認がされている。脱出頭数などは不明である。

<タイマイ>

タイマイの自然ふ化に関する脱出率の調査はない。移植は、1999年のシッタハマのもので、この年に1産卵あり脱出率は40.7%である。また、安和海岸で1987年にふ化稚亀が確認されている。脱出頭数など不明である。

<種不明>

オオヌフェで種不明のふ化稚亀が1999年に確認されている。脱出頭数など不明である。

3) 漂着・漂流及び混獲など

漂着死体は1990年以降、アカウミガメ1個体、アオウミガメ3個体、オサガメ1個体が記録されている（表163）。これらの個体の性別や甲長に関しては記録されていない。

表 163. 沖縄県におけるウミガメ漂着状況

種	漂着日	場所	性別	甲長
アカウミガメ	1999年4月3日	大渡海岸	不明	不明
アオウミガメ	1997年夏	大宜味海岸	不明	不明
	1997年冬	平南	不明	不明
	1998年夏	喜加嘉海岸	不明	不明
オサガメ	1990年	オオヌフェ(豊石の浜)	不明	不明

4) 上陸確認現地調査

上陸確認現地調査は、亀崎直樹氏(日本ウミガメ協議会)、照屋秀司氏(国営沖縄記念公園水族館)からの助言及び既存資料から、これまでの情報が乏しい沖縄島及びその周辺離島の久米島、渡名喜島、栗国島、伊平屋島などで実施した。上陸確認現地調査状況及び調査結果を表164に示す。

上陸確認現地調査は8島の36海岸で294回の調査が行われ、7島13海岸で45上陸が確認されている。アカウミガメは5島7海岸で29上陸、アオウミガメは3島3海岸で7上陸、種不明は1島3海岸で17上陸が確認されている。タイマイの上陸は確認していない。調査対象海岸距離は23.73kmで、上陸がみられた海岸距離は7.28kmである。

今回の調査で、過去上陸実績の詳細が不明であった伊平屋島のウンジョーミジ、シガナー、シニガー、ガキヤターム、アシチャービシ、栗国島のウーグ浜、渡名喜島のマクシーの浜、シドの浜、ユブク浜、入砂島のイリシナー、久米島のアーラ浜、オーハ島の南浜の12海岸で、ウミガメ類の上陸が確認された。

表 164. 上陸確認現地調査状況及び調査結果

略号	島名	海岸名	開始日	終了日	回数	アカ	アオ	不明
50/OK50	沖縄島	百名ビーチ	6.28	10.05	14	0	0	0
53/OK53	沖縄島	大度海岸	4.28	8.27	14	9	0	0
81/HI1	伊平屋島	ウフドー	6.04	9.05	6	0	0	0
82/HI2	伊平屋島	ウンジョーミジ	6.04	9.05	6	0	0	1
83/HI3	伊平屋島	ヤヘー	6.04	9.05	6	0	0	0
84/HI4	伊平屋島	クマヤー	6.04	9.05	6	0	0	0
85/HI5	伊平屋島	シガナー	6.04	9.05	6	0	0	11
86/HI6	伊平屋島	シーミ	6.04	9.05	6	0	0	0
87/HI7	伊平屋島	ヒジャー	6.04	9.05	6	0	0	0
88/HI8	伊平屋島	シニガー	6.04	9.05	6	0	0	4
89/HI9	伊平屋島	マカシ	6.04	9.05	6	0	0	0
90/HI10	伊平屋島	ニシ	6.04	9.05	6	0	0	0
91/HI11	伊平屋島	ヒトウチャー	6.04	9.05	6	0	0	0
92/HI12	伊平屋島	タナゴー	6.04	9.05	6	0	0	0
93/HI13	伊平屋島	ダナダーム	6.04	9.05	6	0	0	0
94/HI14	伊平屋島	ガキヤターム	6.04	9.05	6	5	0	0
95/HI15	伊平屋島	アシチャービシ	6.04	9.05	6	0	0	1
96/HI16	伊平屋島	テライ	6.04	9.05	6	0	0	0
97/HI17	伊平屋島	米岬海岸	6.04	9.05	6	0	0	0
102/AG1	粟国島	ウーグ浜	4.08	8.14	6	0	4	0
104/TN1	渡名喜島	マクシーの浜	7.16	7.16	1	1	0	0
105/TN2	渡名喜島	シドの浜	7.16	7.16	1	2	0	0
107/TN4	渡名喜島	アガリ浜	7.16	8.29	10	0	0	0
108/TN5	渡名喜島	アンジェーラ浜	7.16	8.29	10	0	0	0
109/TN6	渡名喜島	シューガーヌ浜	7.16	8.29	10	0	0	0
110/TN7	渡名喜島	タカタ浜	7.16	8.29	10	0	0	0
111/TN8	渡名喜島	ユブク浜	7.16	8.29	10	4	0	0
113/IRS1	入砂島	イリシナー	8.01	8.01	1	0	2	0
139/KM4	久米島	アーラ浜	7.15	11.28	14	2	0	0
140/KM5	久米島	イーフビーチ	7.10	10.02	12	0	0	0
141/KM6	久米島	トクジム	7.15	10.21	10	0	0	0
142/OU1	奥武島	アガリウトゥズ	7.11	10.01	13	0	0	0
143/OU2	奥武島	オオヌフェ	7.11	10.01	13	0	0	0
144/OU3	オーハ島	イソウトゥズ	7.11	10.01	13	0	0	0
146/OH1	オーハ島	オーハ島東浜	7.12	10.17	15	0	0	0
147/OH2	オーハ島	オーハ島南浜	7.12	10.17	15	6	1	0
合計	8島	36海岸			294	29	7	17

5) 上陸・産卵砂浜環境調査

・砂浜での人間活動の増加に伴う影響

島嶼県であり、各地に砂浜の存在している沖縄では、砂浜でのいわゆるビーチパーティーと呼ばれるレクリエーション活動が盛んである。ビーチパーティーでは、砂浜でのバーベキューや飲酒、球技活動などが主なもので、日帰りの行楽というよりは、テントを張ってのキャンプとして行われることが多い。近年このビーチパーティーは、打ち上げ花火などの屋外活動に加え、室内遊戯の延長の感がある。典型的なものが、発動発電機を持ち込み、電源を確保してのカラオケ大会である。一晩中電灯を灯して

の大騒ぎが繰り広げられる。そして後には膨大な量のゴミが持ち帰られることなく残される。

学校の夏季休業中ともなれば、連日連夜入れ替わり立ち代り、砂浜ではビーチパーティーに興じる人々であふれかえる。さらに四輪駆動の RV 車の普及により、砂浜へ直接車を乗り入れる人々も目立って増えてきている。また、このような混雑を避け、人気の無い静かな砂浜を求める傾向も生じているとも聞く。

以上のように、砂浜での人間活動の増加は、ウミガメ類の上陸・産卵に対して明らかに悪影響を及ぼしているといえる。

- ・ 砂浜周辺環境からの影響（とくに光汚染）

沖縄島北部地域は海岸沿いに道路が走り、集落がある。そのため街灯や学校グラウンドの夜間照明によって、ふ化した稚ガメの帰海行動が阻害され、死亡した例が報告されている（喜如嘉海岸 OK20、大宜味海岸 OK22、根路銘海岸 OK23）。今後、ウミガメ類の上陸・産卵状況についての詳細な調査を行い、人間活動とウミガメ類の産卵・上陸活動との摩擦を軽減する方法を実施していくことが必要と考えられる。

- ・ 捕食動物による影響

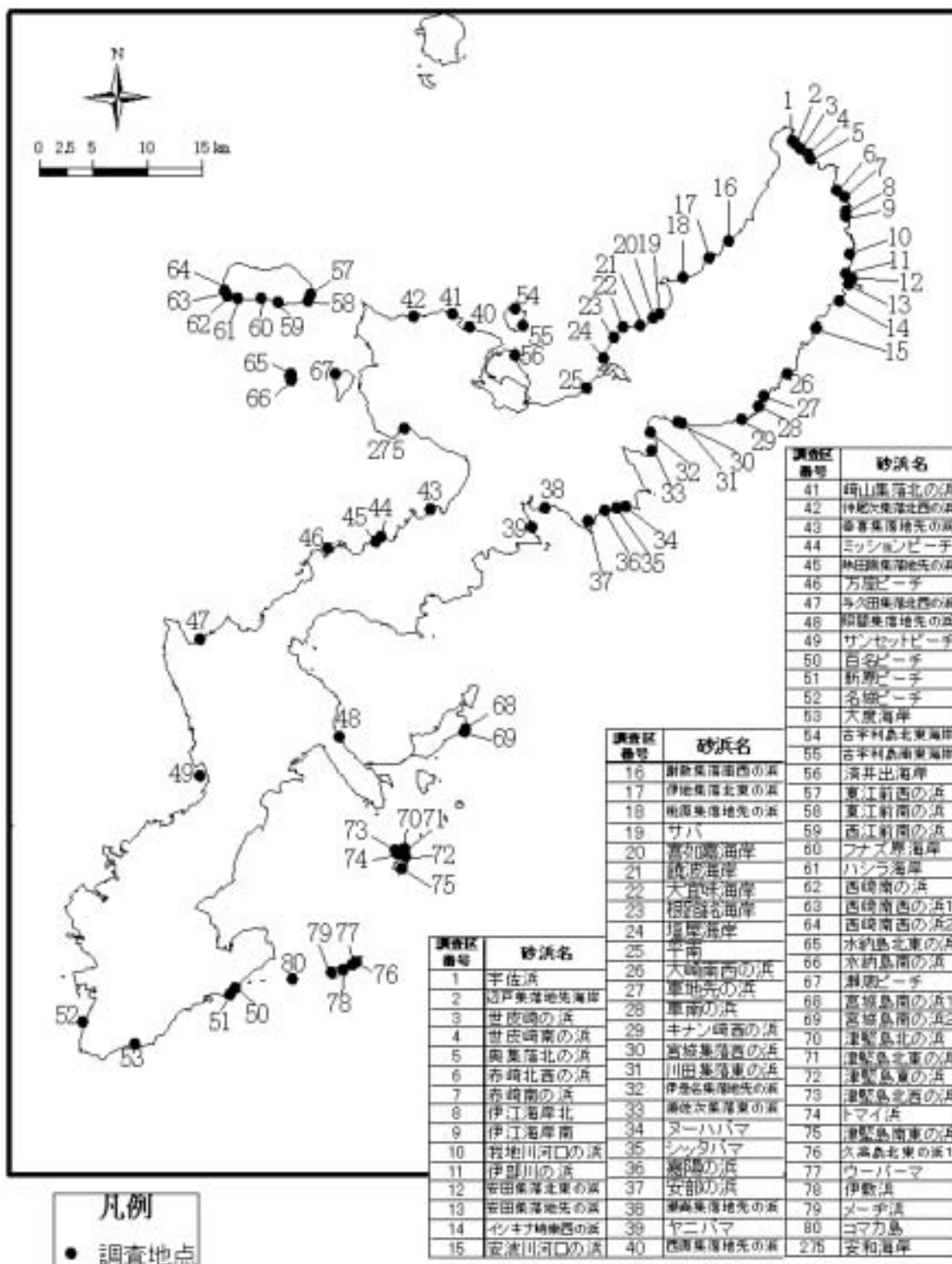
座間味島は、ウミガメ類の上陸・産卵調査が精力的に行われているごく少数の地域のひとつである。ここでは、砂浜に生みつけられた卵のイタチによる食害が報告されている。

6) 資料リスト

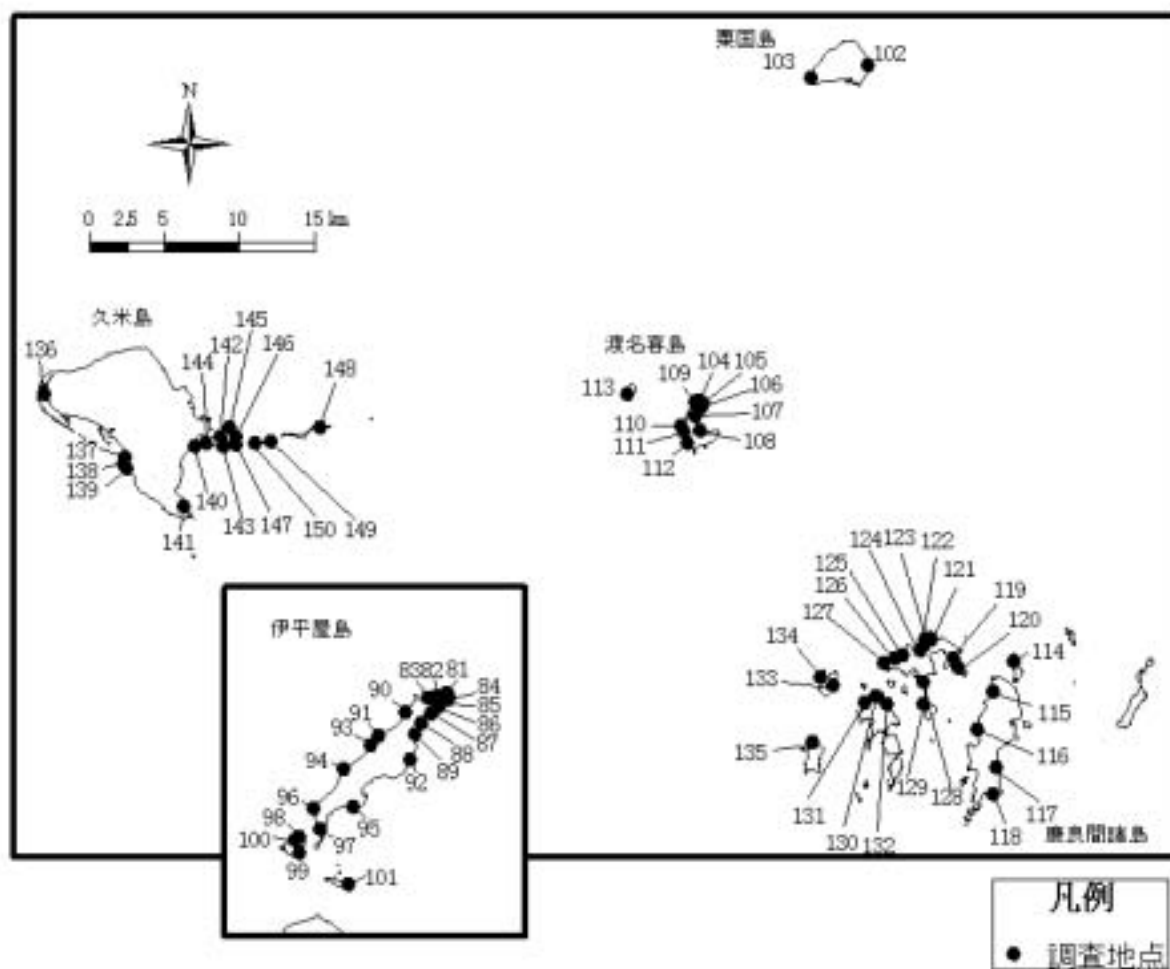
著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
(財)海洋博覧 会記念公園管 理財団	1984	水族館等展示用ウミガメ類調査報告 書	(財)海洋博覧 会記念公園管 理財団	249pp.
亀崎直樹	1985	八重山群島新城島におけるタイマイ <i>Eretmochelys imbricata</i> (Linnaeus) の産卵場の新記録	沖縄生物学会 誌	23:41-42
亀崎直樹	1991	琉球列島におけるウミガメ類の産卵 場の分布とその評価(予報)	沖縄生物学会 誌	29:29-35
環境庁自然保 護局西表国立 公園管理事務 局	1992	八重山群島における海洋動物繁殖地 の保全対策検討調査報告書	環境庁自然保 護局西表国立 公園管理事務 所	87pp.
日本ウミガメ 協議会	1994	日本のウミガメの産卵地	日本ウミガメ 協議会	127pp.
沖縄県教育委 員会	1996	ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅰ	沖縄県教育委 員会	75pp.
城辺町教育委 員会	1997	うみがめの故郷ぐすくべ ウミガメ調査報告書	城辺町教育委 員会	115pp.
沖縄県教育委 員会	1998	ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅱ	沖縄県教育委 員会	95pp.
大宜味村教育 委員会	1998	おおぎみへやって来たウミガメたち	大宜味村教育 委員会	15pp.
座間味村	1999	ウミガメ類の産卵状況調べ	座間味村	—
名護市立嘉陽 小学校	2000	ウミガメ文集	名護市立嘉陽 小学校	—

7) 担当者リスト

氏 名	所 属
長田 英己	財団法人沖縄県公衆衛生協会
佐渡山 安公	城辺町ウミガメ調査会
笠井 英美	
笠井 誠人	(株)エポック
小林 操	
佐久本 広志	渡名喜小学校
長井 泉	久米島消防署
西銘 仁正	伊平屋村漁協
福島 幸夫	
又吉 俊一	東奥武区長

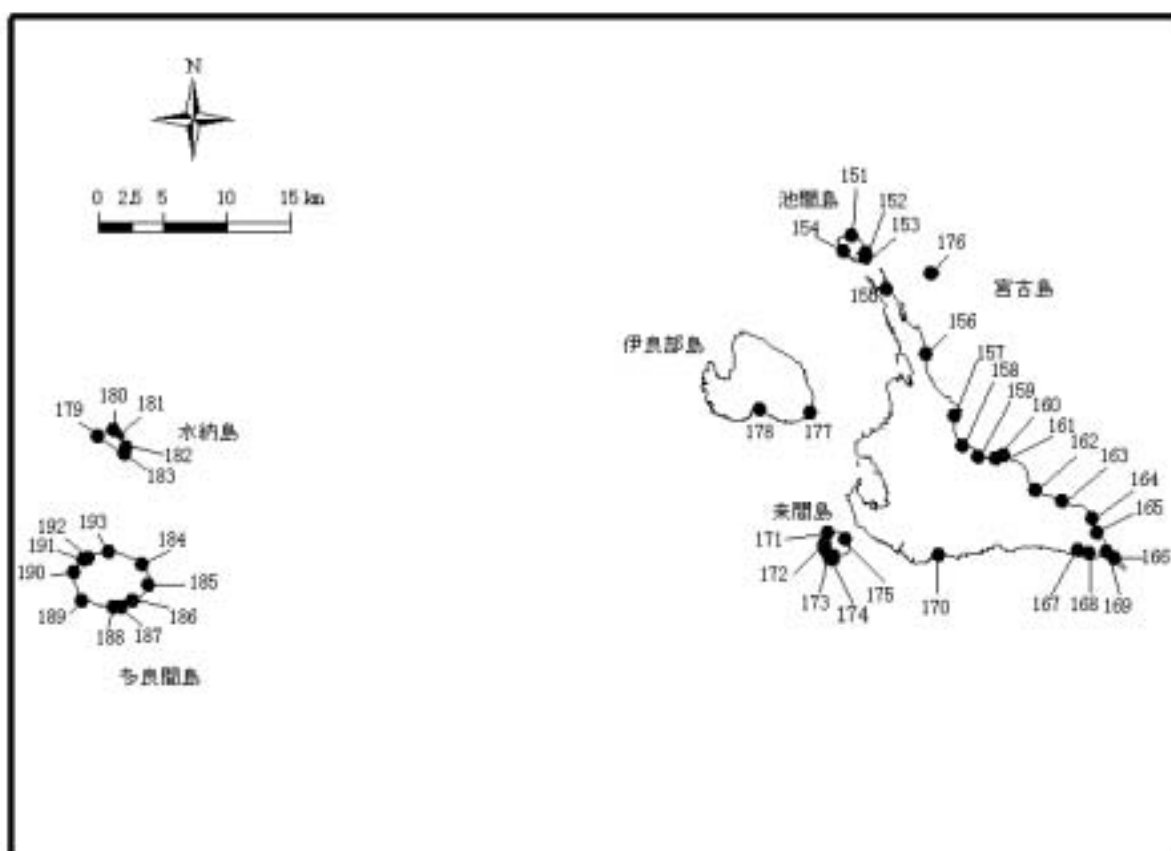


調査地点一覧(沖縄県本島)



調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
81	ウフドー	99	アマムー	117	クルマイ	135	久場島北海岸
82	ウンジョーミシ	100	ヨネイリハマ	118	渡嘉敷島南の浜	136	シンリ浜
83	ヤヘー	101	島忠川島	119	イノー浜	137	儀間島の浜
84	クママー	102	ウーク浜	120	唐馬海岸	138	テイ浜
85	シガナー	103	筆ん崎	121	デシ	139	アーク浜
86	シーミ	104	マクシーの浜	122	神ノ垣浜	140	イーブビーチ
87	ヒジャー	105	シドの浜	123	アサコヒナ浜	141	島尻トクゾム
88	シニガ	106	アガリクマ	124	ザマミコヒナ	142	アガリウトゥズ
89	マカシ	107	アガリ浜	125	新田浜	143	オオヌフェ
90	ニシ	108	アンジューラ浜	126	荒浜	144	イソウトゥズ
91	ヒトゥチャー	109	シューガーヌ浜	127	神ノ浜	145	イチュンザ岩
92	タナゴ	110	夕方浜	128	白崎	146	オーハ島東浜
93	タナダーム	111	ユブク浜	129	安室島西の浜	147	オーハ島南浜
94	ガキターム	112	ナガバク嶺北の浜	130	阿嘉島北海岸	148	ウブユニ
95	アシチャーピシ	113	入砂島	131	クシバル浜	149	ミンジュヌユニ
96	テライ	114	儀志布島北の浜	132	西浜ビーチ	150	オーハ島東方の岩洲
97	米岬海岸	115	渡嘉敷島北の浜	133	屋嘉比島東の浜		
98	ジューマー	116	阿波連地先の浜	134	屋嘉比島西の浜		

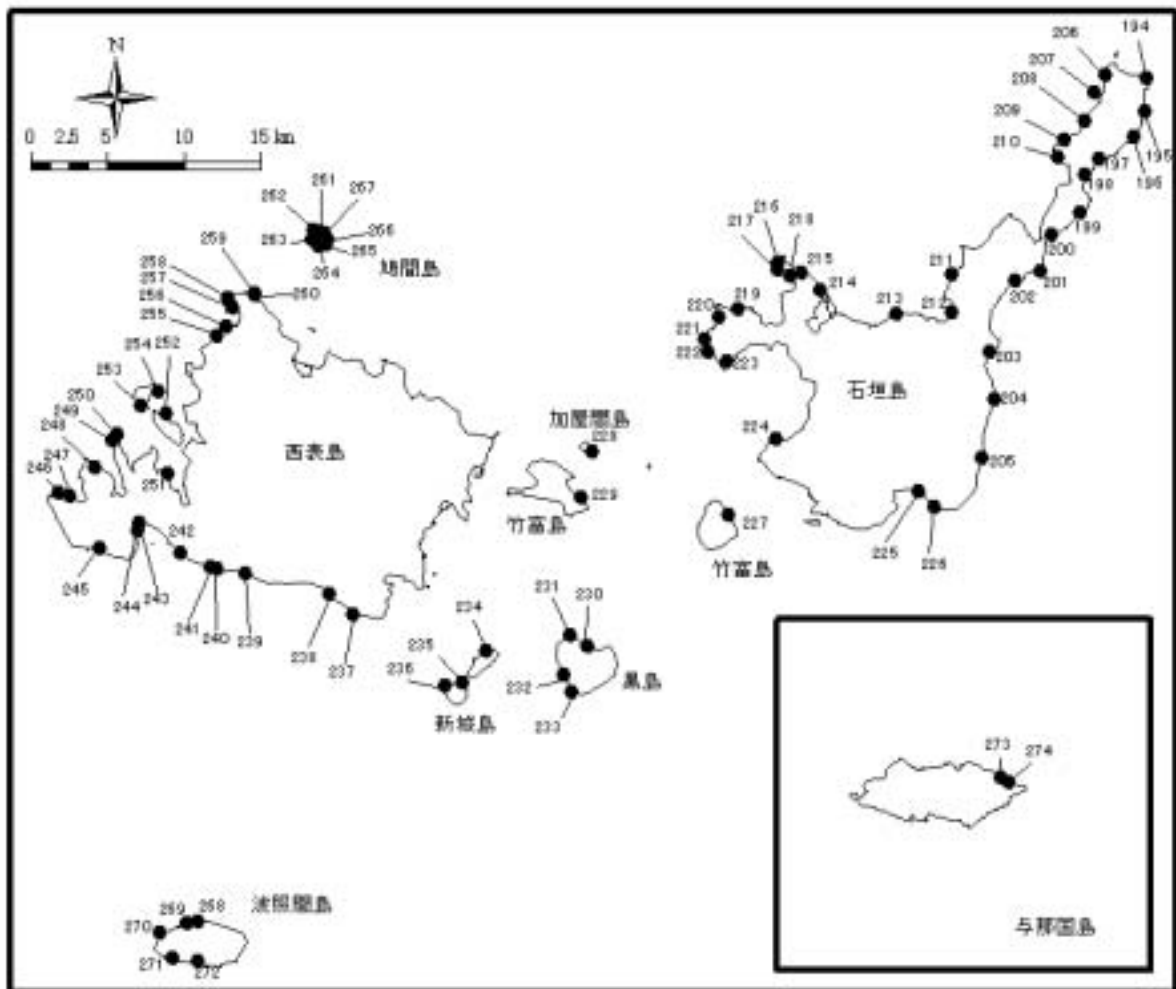
調査地点一覧(沖縄県本島周辺)



凡例
● 調査地点

調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
151	池間島灯台東	162	浦底漁港南	173	ムスヌンハマ	184	バジャクハマ
152	池間島大橋東	163	新城浜	174	マイヌハマ	185	ハイミツジ
153	池間島漁港東	164	吉野の浜	175	ウシロハマ	186	タニガー
154	池間島西の浜	165	クハマ	176	大神島	187	ウエタマリ
155	イスツの浜	166	保良漁港西	177	長山の浜	188	ケーシャル
156	南西園の浜	167	保良ガー	178	渡口の浜	189	アガリアカダン
157	高野漁港北	168	ロラン局東	179	水納島南西	190	タカンハマ
158	西銘御巖下	169	保良マイハー	180	水納島西	191	ハイヌツジ
159	山川北	170	山根の浜	181	水納島北	192	アラタトゥ
160	山川	171	未間島ナガマハマ	182	水納島北東	193	トゥストゥプリ
161	クマザ浜	172	ムスヌン浜の北	183	水納島南東		

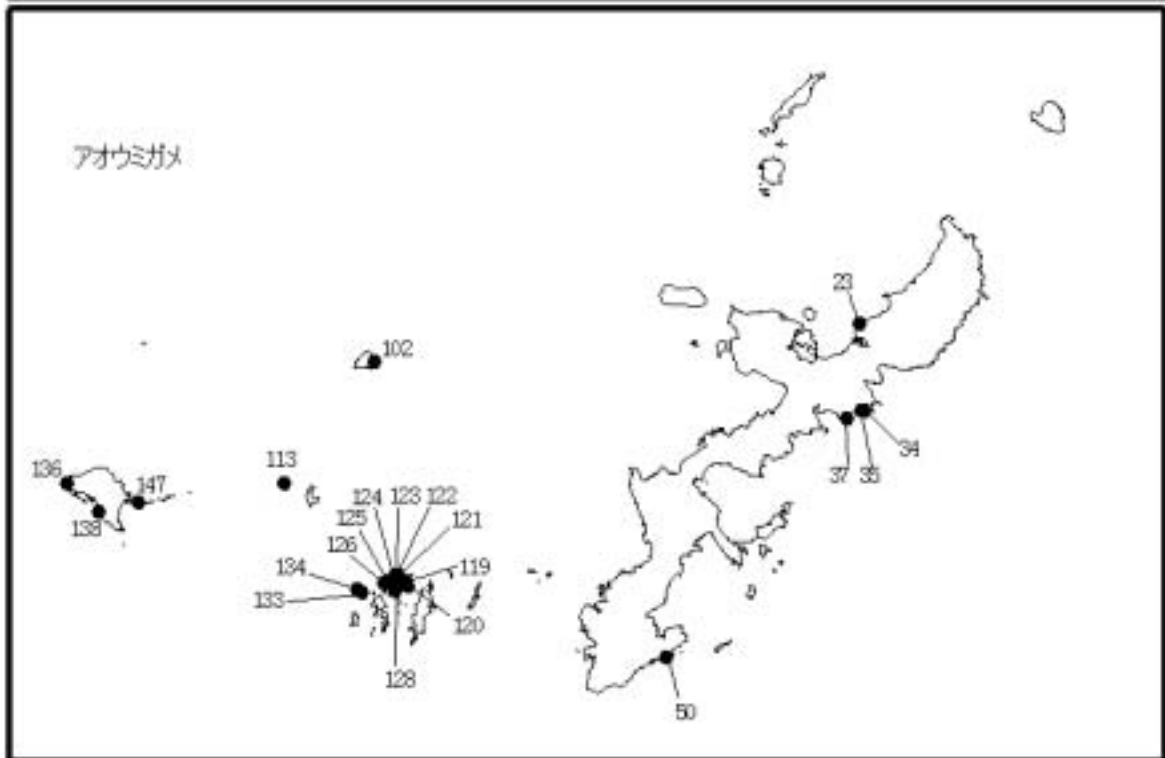
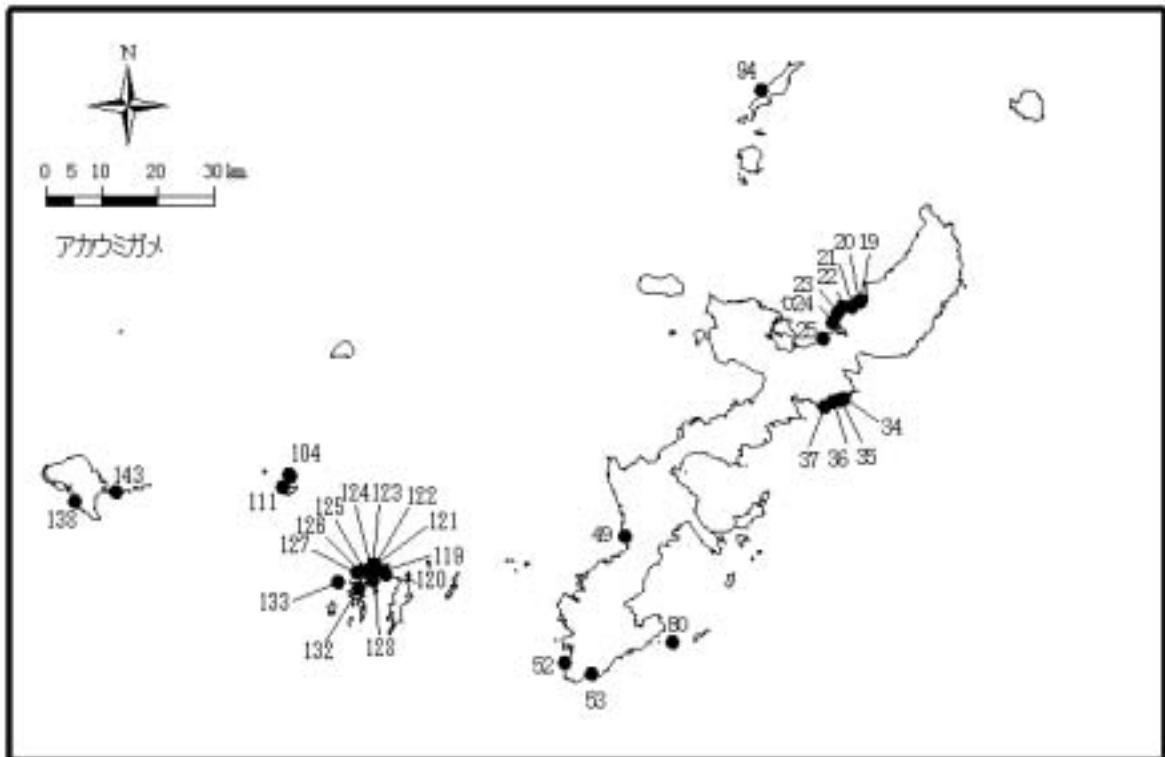
調査地点一覧(宮古島周辺)



凡例
● 調査地点

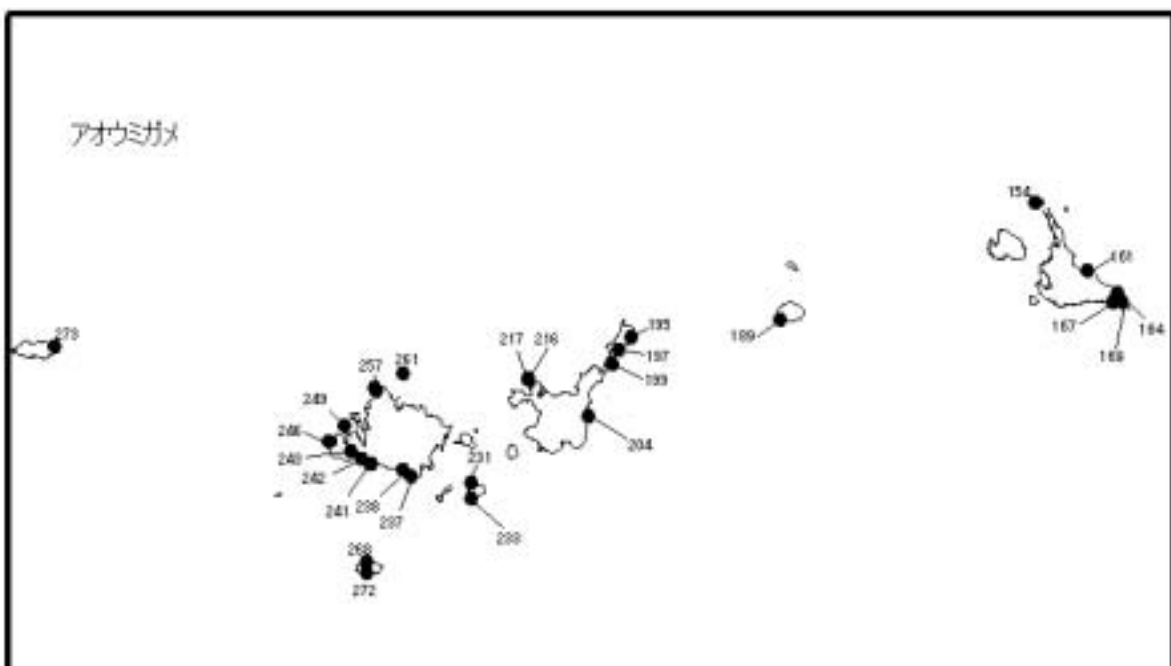
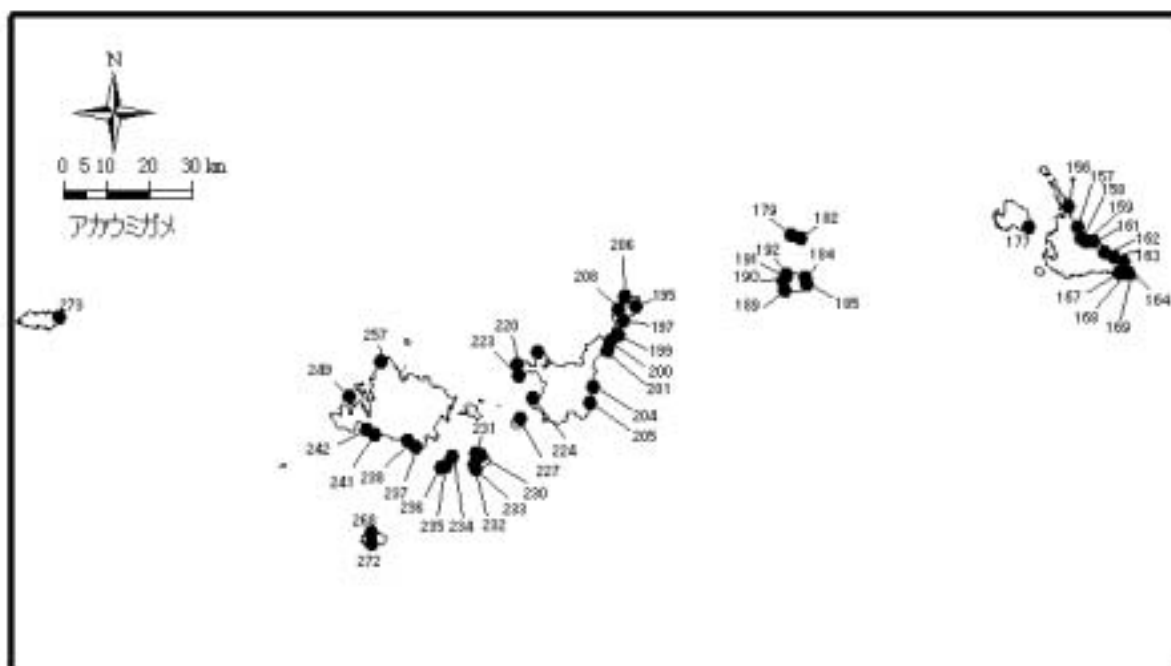
調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名	調査区番号	砂浜名
194	オーシュノハマ	211	伊土名海岸北の浜	228	真砂島	245	ウヒツ石東方の浜	262	タチバルハマ
195	イファハマ	212	ウラスクハマ	229	小浜島海岸	246	ハイ崎北東の浜	263	ヤラズハマ
196	ヤツサカークロ口の浜	213	米野ノ子	230	厚良海岸東の浜	247	踏山湾	264	インタノハマ
197	バツツノハマ	214	ホーニツハマ	231	西の浜	248	磯崎	265	ナラハマ
198	フタナカハマ	215	ニスノハマ	232	仲本海岸1	249	ウツハナリ	266	フナバルハマ
199	ぼんね島東の浜	216	河平石崎北東の浜	233	仲本海岸2	250	サノ湾	267	シマナカハマ
200	ハンザキハマ オアノ島1	217	川平石崎南の浜	234	新島上地海岸	251	船浮湾	268	オードマ
201	玉期崎南西の浜	218	スウノ島南東の浜	235	新島下地長崎	252	内島	269	サコガ浜
202	ヒビシハマ オアノ島2	219	ミスイトルハマ	236	新島下地短崎	253	外島とラツカ崎	270	ペーハマ
203	フツナシハマ オアノ島3	220	厚良海岸北西の浜	237	豊原の浜	254	外島野原崎	271	ヨーハマ
204	フヤバルハマ オアノ島4	221	トツカノハマ	238	南風見浜	255	千立海岸北の浜	272	ペム子浜
205	ソールハマ オアノ島5	222	厚良海岸南の浜	239	南風見浜の西の浜	256	アトク岩西の浜	273	ウブヂマ
206	中久保海岸の浜	223	ナーハマ	240	田の浜海岸1	257	ウブヂマ(島)	274	ソアハマ
207	ゾーノハマ	224	富崎野ノ子	241	田の浜海岸2	258	中島南東西の浜		
208	ンドルハマ	225	ムンヤーハマ	242	龍川湾1	259	基砂の浜		
209	次字長海岸東の浜	226	ハダノハマ	243	龍川湾2	260	中野沢の浜		
210	ミスノハマ	227	東崎海岸	244	龍川湾3	261	スムスク		

調査地点一覧(八重山周辺)



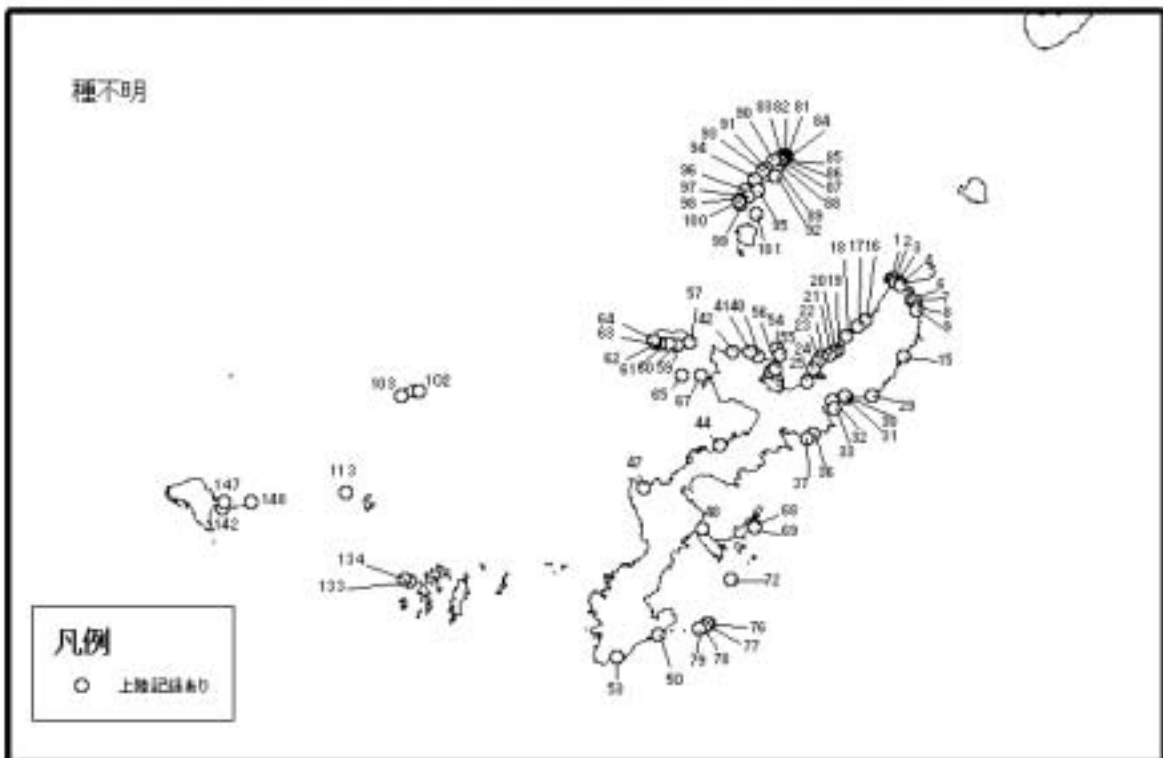
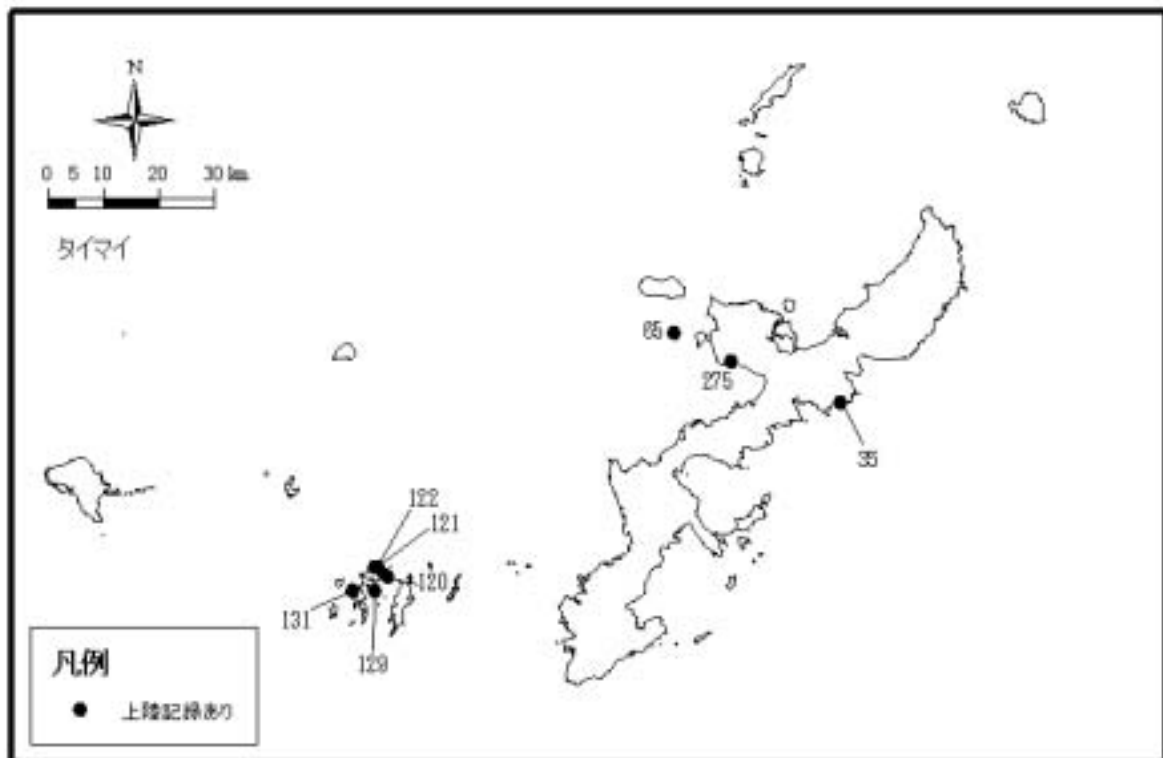
凡例
● 上陸記録あり

ウミガメ上陸地点(沖縄県)

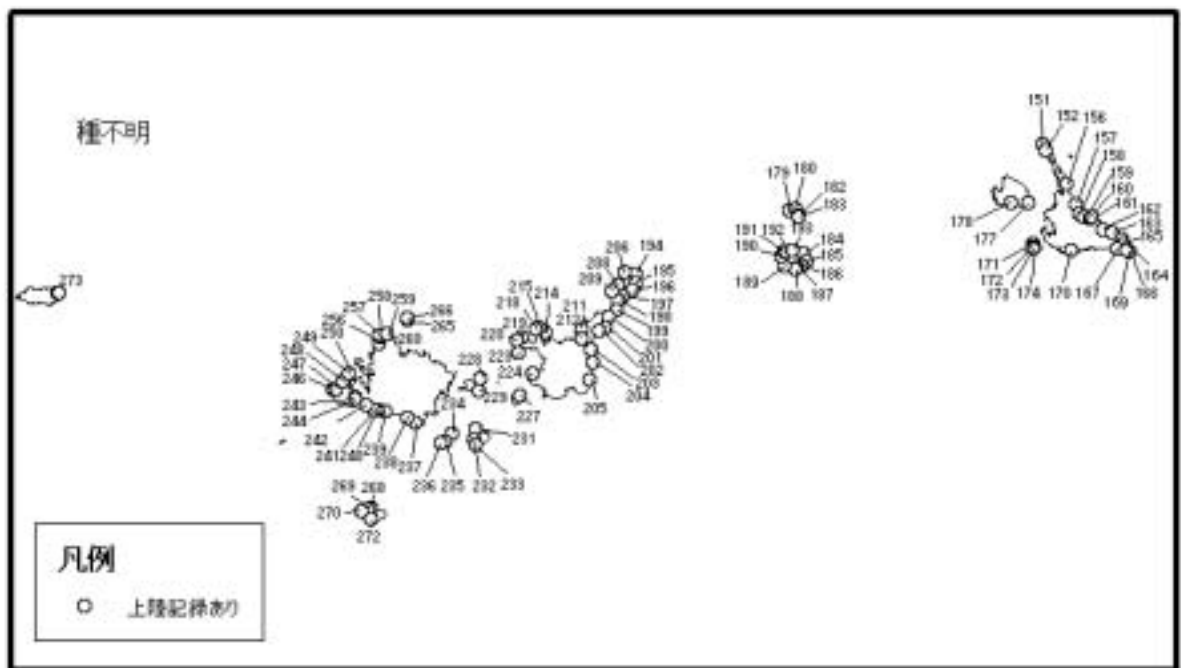
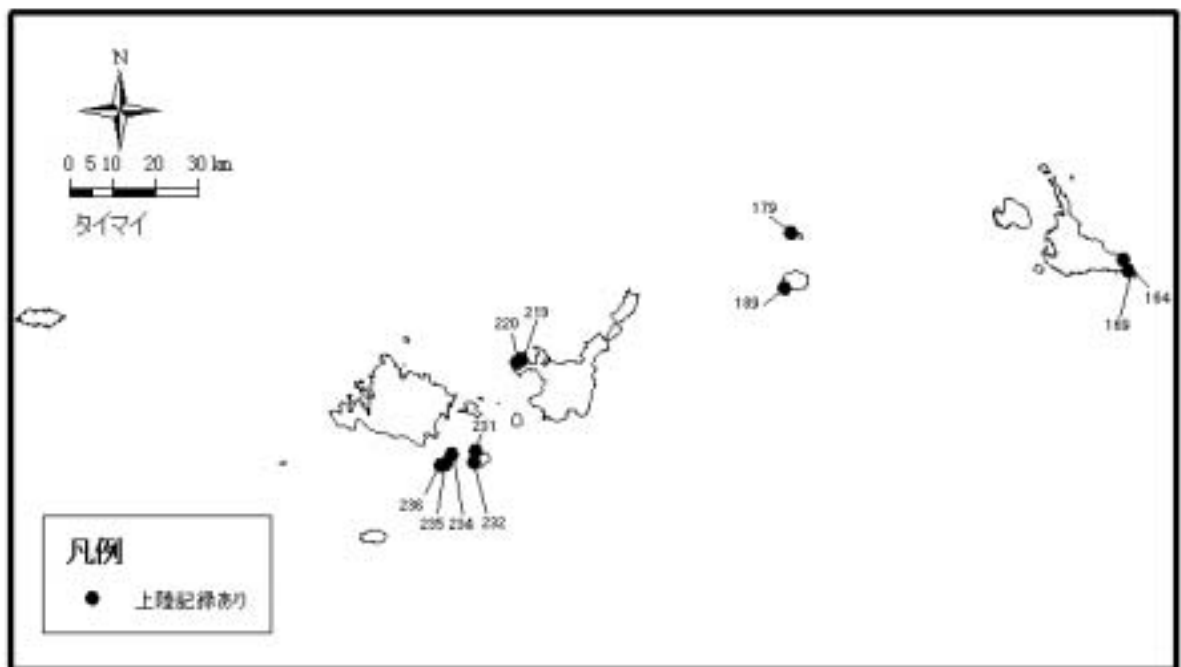


凡例
● 上陸記録あり

ウミガメ上陸地点(沖縄県)



ウミガメ上陸地点(沖縄県)



ウミガメ上陸地点(沖縄県)